

ニ涉リ説明判斷スル要ナキモノトス (大正七、七、二九)

○詐害行爲廢能ノ訴ニ於ケル惡意ノ受益者ハ債權ノ消滅時效ヲ援用シ得ヘキ當事者ニ非ラス (大正七、九、三〇)

○債權者カ不動産賣買契約ニヨリ自己ノ債權ヲ詐害サレタリトシ民法第四百二十四條ニ依リ之カ取消ヲ求ムルニハ其債權カ賣買契約ノ成立ノ日以前ニ發生シタルモノナルコトヲ要シ其賣買契約成立以後ニ發生シタル債權ハ同賣買契約ニ因ル詐害ノ目的タリ得ヘカラサルコト論ヲ要セサルノミナラス同賣買契約アリタル後債權者ノ權利發生シ然ル後嚮ノ賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ヲ爲スモ其登記ハ前記賣買契約ノ義務履行タルニ過キスシテ賣買契約カ取消權ノ目的トナラサル以上是亦詐害行爲トナルモノニアラス (大正八、四、一五)

○詐害行爲ニ對スル債權者ノ取消權ハ債權者ノ損害ヲ救済スル爲メ特ニ債權者保護ノ爲メニ設ケタルモノナルカ故ニ債權者カ右取消權ヲ行使シタルトキハ債權者ノ損害ヲ救済スルニ必要ナル程度ニ於テ債務者ノ詐害行爲ヲ取消シ得ヘク且其程度ヲ超エテ取消スヘキモノニ非ス從テ其目的可分ナルトキハ必要ナル程度ニ分割シテ該行爲ヲ取消ササルヘカラス (大正一〇、一一、二二)

大 七
七 五
六 六

大 七
五 七
四 一

大 八
六 三
三

大 一〇
八 四
四 〇

○債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ其所有ニ係ル多數ノ不動産ヲ第三者ニ賣却シタルトキハ該賣買行爲ノ詐害行爲ナルコト論ナシト雖不動産ハ其各筆毎ニ分割シ得ヘキモノナルヲ以テ若シ多數ノ不動産中一部ノ不動産ヲ以テ債權者ノ損害ヲ救済スルニ足ルトキハ一部ノ不動産ニ對スル賣買行爲ヲ取消スヘキモノトス而シテ債權者ヲ害スルヤ否ヤハ行爲當時ノ事情ニ因リ決スヘキモノナリト雖既ニ詐害行爲ノ成立シタル以上ハ債權者ノ損害ヲ救済スルニ足ルヤ否ヤハ取消當時ノ不動産ノ價額ヲ標準ト爲スヘキモノニシテ行爲當時ノ不動産ノ價額ヲ標準ト爲スヘキモノニ非ス (大正一〇、一一、二二)

○詐害行爲取消權ハ債權ニ附隨スル一種ノ權利ニシテ債權ノ所在ニ追從スルモノナレハ債權ニシテ讓渡セラレタルトキハ之ニ基ク詐害行爲取消權亦之ニ伴ヒ移轉スルモノト謂ハサルヘカラス從テ詐害行爲成立後ニ債權ヲ讓受ケタル者ト雖仍ホ取消權ヲ有スルモノトス (大正一一、二、一四)

○民法第四百二十四條ハ債務者カ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタルトキハ相手方ナル受益者又ハ轉得者ハ其情ヲ知リタルモノト一應推定シ得ヘキコトヲ規定シタルモノナレハ受益者又ハ轉得者ニ

大 一〇
八 四
四 〇

大 二
九 三
三

於テ善意ナルトキハ之カ立證ノ責任ヲ負フヘキモノトス (大正一一、八、二九)

聯 ○當事者間相通シテ爲シタル虚偽行爲モ亦民法第四百二十四條ニ所謂法律行爲ニ該當スルモノニシテ詐害行爲取消權ノ目的ト爲ルト解スルヲ妥當トス (大正一三、四、四)

【反對】

○民法第四百二十四條ニ規定セル廢罷訴權ノ行使ヘ取消サントスル法律行爲ノ有效ニ成立セシ場合ニ限ル若シ法律行爲カ無効ナル場合ニ於テハ廢罷訴權ヲ行使シ得ヘキモノニ非ス (大正六、一〇、九)

○所謂債權者取消權ニ依リ債務者ノ爲シタル法律行爲ノ取消ヲ請求シ得ヘキ債權者タルニハ取消ノ目的タル法律行爲ノ成立當時ニ於テ債權ヲ有シタルモノナルコトヲ要スルモノトス (大正一三、七、八)

○詐害行爲ノ取消權ノ範圍ハ自己ノ債權ヲ辨濟セシメ得ルニ必要ナル限度ニ止ムヘク從テ其ノ目的カ可分ナルトキハ右必要ニ應シ其ノ一部ノ取消ヲ許スヘキモノナリトス (大正一三、七、二九)

○詐害行爲ノ目的カ不可分ナリシ爲メ全部ヲ取消シ其ノ結果生シタル原狀回復ノ義務亦不可分ナリシ場合ト雖同義務カ履行不能トナリタル爲メ之ニ代ヘテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ已ニ其ノ目的カ金錢支拂ノ債務ニ

大 二 九三四

大 三 二 四二

大 六 四 八三

大 三 二 二四二

大 三 二 二四六

化シ可分トナリタル以上ハ又債權ノ辨濟ヲ受クルニ必要ナル限度ニ於テ其ノ請求ヲ認容スヘキモノナリトス (大正一三、七、二九)

○詐害行爲取消ノ結果生スル原狀回復ノ請求權ハ債權者固有ノ權利ナルヘキモ其ノ請求ノ内容ハ須ク債務者ニ財産ヲ復歸セシムルコトヲ要求セサルヘカラス其ノ原狀回復ニ代ル損害賠償モ亦是ト同一ニ論スヘキモノナルカ故ニ債務者ニ支拂フヘキ旨ノ請求ヲ容レタルハ正當ナリ (大正一三、七、二九)

○債務者カ法律行爲ヲ爲シタル當時ニ於テ債權者ノ債權カ特定物ノ給付ヲ目的トスルモノナルトキハ其ノ後債權カ履行不能ニ因リ損害賠償請求權ニ變スルモ其ノ前ニ爲シタル債務者ノ法律行爲ヲ詐害行爲ナリトシテ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス (大正一四、六、九)

○相手方ト通シテ爲シタル虚偽ノ消費貸借モ亦詐害行爲トシテ取消ノ目的ト爲リ得ルモノトス (大正一四、一一、一〇)

○債權者カ詐害行爲ノ取消ヲ請求スルニ當リ其ノ相手方タル受益者若ハ轉得者ニ於テ債權者カ資力ヲ回復シ其ノ債務ヲ完済スルニ足ル財産ヲ有スルニ至リタル事實ヲ主張シ其ノ請求ヲ不當ナリトシテ抗爭スルトキハ裁判所ハ其ノ抗辯ニ付審理判斷ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

大 三 二 一四六

大 三 二 一四七

大 四 三 二八

大 四 三 四〇五

(大正一四、一一、二四)

○民法第四百二十四條ニ所謂債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ニハ債務者カ他ノ債權者ヲ害スルノ意思ヲ有セス單ニ法律上履行スヘキ既存ノ義務ヲ履行スル爲メ爲シタル行爲ヲ包含セス殊ニ他ノ債權者ニ辨濟ヲ爲ス目的ヲ以テ賣買ヲ爲シタル場合ノ如キハ詐害行爲トナラサルモノトス (大正七、一一、八)

○民法第四百二十四條ニ所謂債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行爲ニハ債務者カ法律上履行スヘキ既存ノ債務ヲ履行スル爲メ爲シタル行爲ヲ包含セサルモノニシテ債務者カ其ノ所有不動産ニ抵當權ヲ設定シ他人ヨリ金員ヲ借用シタル場合ト雖其カ既存債務ヲ辨濟スル目的ニ出テタルトキハ詐害行爲ト爲ラサルモノトス (昭和三、七、三)

○債務者カ他ニ讓渡シタル土地ニ付登記簿上尙所有名義者タル場合ニ於テモ殘存財産ヲ以テ債務ヲ完済スルニ足ラス且他ニ辨濟ノ資力ナキニ拘ラス之ヲ知リテ其財産ヲ處分スルトキハ所謂詐害行爲ヲ構成スルニ至ルモノトス (昭和三、一〇、一一)

第三節 多數當事者ノ債權

第一款 總 則

大 一四三 四六

大 七 五 八 四

昭 三 一 五 二 〇 三

昭 三 一 五 二 九 〇

第四百二十七條

○數人カ共同シテ性質上可分ノ債務ヲ負擔スル場合ニハ通例各債務者ハ其債務ヲ分割シテ各自ノ負擔部分ノミヲ債權者ニ履行スルヲ以テ足り一人ニテ全債務ヲ履行スルノ義務ナシ (大正一一、八、二)

○此種ノ債務ノ履行ヲ債務者ノ中一人ノミニ對シ訴求アリタル場合ニハ裁判所ハ被告タル債務者一人ニ對シ他ノ債務者ト共同シテ全債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ爲スカ又ハ全債務ニ付キ其債務者ノ負擔部分ノ幾何ナルヤヲ確定シ其部分ノ履行ヲ爲スヘキ者ノ判決ヲ爲スカ二者其一ニ出テサル可ラスシテ一人ノ債務者ニ對シテ全債務ノ履行ヲ命スルヲ得ス (大正一一、八、一)

第三款 連帶債務

第四百三十二條

○連帶債務請求ヲ單獨債務請求ニ變更スルモ被請求者ノ法律上ノ利害ニ影響ナシ (明治四四、六、五)

聯 ○朝鮮ニ於ケル慣習上二人以上ノ者共同シテ金錢米穀等ヲ借用シタルトキハ同貸ト稱シ別段ノ意思表示ナキモ債權者ハ其ノ債務者ノ一人ニ對シテ全部ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖同貸ハ其效果ニ於テ連帶

大 二 九 二 八 三

大 二 九 二 八 三

明 四 四 一 二 八 〇

債務ト同シカラサルモノアルヲ以テ債務者カ連帶債務ヲ負擔シタリト爲スニハ特ニ其旨ノ意思表示アリタルコトヲ要ス (大正二、三、二〇)

【反對】

○連帶債務ノ特約アラサルモ二人ノ債務者中一人逃亡シ他ノ一人ニ於テ債務全部ヲ負擔スヘキ場合ナルトキハ連帶辨濟ヲ命スルモ判決ヲ取消スヘキ瑕瑾トナラス (明治四四、四、六)

○平安南道地方ニ於テ物主及ヒ差人ノ關係ニテ營業ヲ爲ス者ハ其營業名義人ノ如何ニ拘ラス該營業ニ關スル取引ニ付テハ物主及ヒ差人ハ連帶シテ其債務ヲ負擔スヘキ慣習アリ (大正五、二、二八)

第四百四十四條

○民法第四百四十四條ハ求償者及他ノ資力アル者カ連帶債務ノ負擔部分ヲ有セサルトキト雖無資力者ノ償還スルコト能ハサル部分ニ付平等分擔セシムル趣旨ナリトス (大正二、一、三一)

○連帶債務者中負擔部分ヲ有スル者カ償還ヲ爲ス資力ナキトキハ其ノ償還ヲ爲スコト能ハサル部分ハ求償者及他ノ負擔部分ヲ有セサル者ノ間ニ平等ニ分割シ又之ニ依リテ償還義務ヲ負擔スルニ至リタル者カ償還ヲ爲ス資力ナキトキハ其ノ償還ヲ爲スコト能ハサル部分ハ更ニ求償者及他ノ資力アル者ノ間ニ平等ニ分割スヘキモノトス (大正一四、四、一〇)

第四百四十五條

○債務カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テハ債權者ハ其ノ履行不能ト爲リタル時ニ於テ現實ニ被リタル通常ノ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論其ノ後ニ於テ生シタル損害ト雖苟モ履行不能ノ事由ニ因リテ通常生スヘキモノタル限り當事者カ之ヲ豫見シ得ヘカリシモノナルト否トニ拘ラス當然之カ賠償ヲモ請求スルコトヲ得ルモノトス (大正一五、二、一四)

第四款 保證債務

○第三者ノ負擔スル將來ノ手形債務ニ付一定金額ヲ限度トシ豫メ之カ引受ヲ約シタルトキハ引受契約前ニ其ノ第三者ノ負擔シタル手形債務ト雖引受契約後ニ手形ノ書換ヲ爲シタルモノハ反證ナキ限り引受ノ内容ヲ爲スモノトス (大正一四、二、一〇)

○將來ニ於ケル賃借人ノ滯納賃料ニ付存スル保證契約ハ保證期間ヲ定メス賃貸借契約亦期限ノ定ナキ場合ニ於テハ保證人ヨリ之カ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得 (大正一五、三、二三)

保證金ハ債務者ノ義務ノ履行ヲ擔保スルコトヲ目的トスル信託讓渡ニシテ債務者カ完全ニ其ノ義務ヲ履行スルカ若ハ不履行ニ因ル損害カ保

大	二	二八三
明	四	一三七
大	五	三〇五七
大	二	二一〇五
大	二四	二二九

大	二五	四三二
大	二四	二四二
大	二五	四九

證金以下ニ止マルトキハ擔保ノ目的ハ全部又ハ一部消滅スルカ故ニ茲ニ始メテ其ノ殘存額ニ付テ目的ノ消滅ニ因ル返還請求權ヲ生ス (昭和二三、二八)

○當事者カ將來其ノ一方ニ於テ相手方ノ振出、裏書又ハ引受ヲ爲シタル手形ニ付其ノ所持人ヨリ割引ヲ請求セラルコトアルヘキヲ豫定シ之ヲ條件トシテ割引ヲ爲ス手形ノ金額ト同額ノ金錢債務ヲ負擔スルコトヲ約スルハ手形割引ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ他ノ方法ニ依リテ填補セムトスル趣旨ニ外ナラサレハ一種ノ擔保契約トシテ其ノ效力ヲ認ムヘキモノトス (昭二、五、三)

○一定ノ取引ヨリ將來發生スルコトアルヘキ債務ニ付保證ヲ約シタル場合ニ於テ保證限度ヲ定メサリシトキハ保證人ニ於テ當該取引ヨリ生スル債務ノ金額ニ付保證責任ヲ負擔スルノ意思ヲ以テ爲シタルモノト觀ルヘキモノニシテ固ヨリ有效ナリ (昭和四、七、二三)

○然レトモ前項保證債務ニ付其ノ限度ノ明約ナキトキニ於テモ當事者ハ當該取引ノ狀態ヲ顧慮斟酌シ將來發生スヘキ債務額ヲ豫定スルコト多カルヘク斯ル場合ニ於テハ保證ノ責任ハ自ラ其ノ程度ニ限定セラルヘキハ當然ナリ (昭和四、七、二三)

昭 二 二四 七四

昭 二 二四 一四三

昭 四 一六 二〇三

昭 四 一六 二〇三

身元保證

○金融組合ノ使用人カ臨時雇ヨリ書記見習ニ次テ書記ニ昇進シタルトキト雖同一雇傭契約ノ繼續ニ過キサル限り身元保證ハ階級ノ變更ニ依リテ消滅スルモノニ非ス (大正一五、四、一六)

○身元保證契約ニ付期限ヲ定メサリシ場合ニハ何時ニテモ身元保證人ノ一方ノ意思表示ニ依リ解約ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖其ノ效力ハ解約申入後相當ノ期間ヲ經過シタル後ニ發生スルモノトス (昭和二、五、六)

○雇傭契約ニ附隨シテ締結セラルル身元保證契約ハ被用者カ將來其ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ使用者ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ其ノ損害ヲ第三者ニ於テ賠償スヘキ旨ノ損害擔保契約ニシテ其ノ賠償額ニ限度ノ定アルトキハ公序良俗ニ反スルコトナキカ故ニ有效ナリト雖無限ニ賠償義務ヲ負擔セシムル契約ハ公序良俗ニ反スルモノニシテ無効ナリ (昭和四、六、四)

○身元保證契約ニ於テ賠償額ヲ明示セサル場合例ヘハ被用者カ使用者ニ損害ヲ被ムラシメタル場合ニ身元保證人ニ於テ賠償ヲ爲ス旨單純ナル契約ヲ締結シタル場合ニハ特別ノ事情ナキ限り身元保證人ハ相當ノ範圍内ニ於テ賠償ヲ爲ス約旨ナリト解スルヲ相當トス又一切ノ責任ヲ負擔スト契約シタル場合ニ於テモ一切ノ文字ハ必スシモ無限ヲ意味スル

大 一五 一三 五九

昭 二 二四 一五七

昭 四 一六 二〇〇

モノニ非ス或ハ損害ノ種類ヲ問ハス責任ヲ負フ趣旨ニ用キラルルコトアリ或ハ常套語トシテ不用意ニ使用セララルル場合アルカ故ニ特殊ノ事情ナキトキハ前者ト同シク相當ノ範圍内ニ於ケル賠償ヲ約シタル趣旨ト解スヘキモノトス (昭和四、六、四)

○相當ナル賠償範圍ハ使用者ノ職業被用者ノ執ルヘキ業務身元保證人ト被用者トノ關係及被用者ノ契約當時ニ於ケル資産状態等ヲ斟酌シ箇々ノ具體的事件ニ付合理的の價值判斷ノ下ニ決スヘキモノトス (昭和四、六、四)

○身元保證契約ハ使用者ニ監督義務ヲ免脱スル趣旨ニ於テ締結セララルモノニ非ス使用者ニ於テモ相當ノ監督ヲ爲スヘキコトヲ條件ト爲シタルモノト推認スヘキモノナルニ依リ使用者ニ監督上ノ過失アリタルトキハ賠償額ヲ算定スルニ當リ之ヲ斟酌スルコトヲ得 (昭和四、六、四)

○身元保證ノ存續期間ヲ無制限ニ定メタル契約ハ未タ公序良俗ニ反スル無効ノモノト爲スヲ得此ノ場合ニハ期限ノ定メナキ場合ト同シク身元保證人ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得ヘシ (昭和四、六、四)

○身元保證契約ハ特別ノ事情ナキ限り身元保證人ノ死亡ニ因リ消滅スヘキモノニシテ相續人ニ於テ承繼スヘキモノニ非ス (昭和四、六、四)

第四百四十六條

昭	四	四	昭	四
四	一六	一六	四	一六
一三	一三	一三	一三	一三

○債權者ハ一部ノ辨濟ヲ強要セラルルコトナシ從テ主債務者カ全部ヲ辨濟スル資力ナキコト明白ナルトキハ債權者ハ保證人ニ對シテ保證債務ノ履行ヲ求ムルコトヲ得 (明治四四、四、二九)

○保證債務者ト主債務者トハ義務共通ノ地位ニ在ルヲ以テ共同訴訟人トシテ訴フルコトヲ得 (明治四四、四、二九)

○根抵當契約書ニ保證人トシテ署名捺印シタルトキハ主タル債務者カ履行ヲ爲ササル場合ニ其履行ヲ爲スヘキ保證債務ヲ負擔シタルモノト一應認ムヘキモノトス (大正二、三、二五)

○保證人ハ諸種ノ抗辯權ヲ有スルモノニシテ相殺ヲ爲ス債權者ノ債權カ保證人ニ對スル債權タル場合ニ單ニ期限ノ到來セル一事ニ依リ之ヲ以テ相殺ニ供シ得ヘキモノトスルトキハ一方ノ意思表示ニ依リ保證人ハ此等ノ抗辯權ヲ不當ニ喪失スル結果トナルモノナレハ保證債務ハ抗辯權ノ附着セル間ハ性質上相殺ニ適セサルモノトス (大正一〇、六、三)

○保證債務ノ成立スルニハ主タル債務ノ存在スルコトヲ要スト雖主タル債務ノ額ハ必スシモ保證契約當時ニ確定スルコトヲ要セス將來發生スル債務ト雖之ヲ保證契約ノ目的ト爲スコトヲ得ヘク此場合ニハ將來主タル債務ノ成立シタルトキニ保證債務モ亦其效力ヲ發生スルモノトス

大	二	明	明	大
一〇	二	四四	四四	一〇
八	二	一	一	八
一九四	一八六	二五五	二五五	一九四

(大正一一、一、三一)

○債權者ト主タル債務者トノ間ニ仲裁判斷契約ノ存在スルトキト雖債權者ヨリ該債務ノ保證人ニ對シ其支拂ヲ訴求シタル場合ニ於テ事實裁判所ハ當事者ノ主張事實竝證據方法ニ依據シ自由ニ主タル債務ノ存在竝其數額ヲ確定シ以テ保證人ニ對スル請求ノ當否ヲ判斷スルコトヲ得ヘク仲裁判斷アリタル後ニ非サレハ主タル債務ノ存在竝其數額ヲ確定シ得サルモノニ非ス (大正一一、八、一一)

○當事者間ニ豫メ契約解除ノ場合ニ於ケル原狀回復ノ義務ニ付テモ保證ヲ爲スコトヲ約シタルトキハ格別ナルモ然ラサル限り保證人ハ契約解除ニ因ル原狀回復ノ義務ニ付保證ノ義務アルモノト爲スヲ得ス (大正一一、一〇、六)

○原告カ被告ハ主債務者某ノ連帶保證人トナリタリト主張シ被告カ之ニ對シ單純保證ヲ爲シタルコトヲ認メ其連帶保證タルコトヲ否認シタルトキハ保證人タルコトハ原告ノ主張ヲ眞實ト認メタルモノニ外ナラスシテ其單純保證ヲ爲シタリトノ被告ノ陳述ハ自白ナリトス (大正一一、一一、三)

第四百五十二條

大 二 九 一三

大 二 九 三〇〇

大 二 九 三八七

大 二 九 四四七

○保證人ト主債務者トヲ同時ニ相手取りテ訴求シ得ヘク唯此場合ニ於テ保證人ハ檢索ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得ヘキヲ韓國ニ於ケル習慣ナリトス (明治四三、八、二)

○朝鮮人間ニ於テ主タル債務者カ約定ノ期限ニ債務ヲ履行セサルトキハ保證人ハ何等ノ抗辯ヲモ提出スルコトヲ得スシテ直チニ履行ヲ爲ス責アリトノ慣習ハ存在セスシテ特約ナキ限りハ保證人ハ催告ノ抗辯若クハ檢索ノ抗辯ヲ提出シ得ルモノトス (大正六、一一、二七)

第四百五十三條

○民法第四百五十三條ニ所謂辨濟ノ資力トハ債務ノ完全ナル辨濟ヲナシ得ル資力ノ意味ニシテ一部ノ辨濟ヲ爲スニ足ル資力ヲ包含セス (大正四、一一、三〇)

第四百五十四條

○連帶保證人ノ爲シタル辨濟カ主タル債務者ニ對スル贈與ノ意思ヲ以テ恩惠的ニ保證ヲ爲スヘキ約旨ノ實行ニ外ナラサルトキハ連帶保證人ハ主タル債務者ニ對シテ求償權ヲ有セサルモノトス (大正六、六、八)

○連帶保證人ト雖保證人ニ外ナラス其債務者ハ主タル債務ニ附隨スル從タル債務ナレハ同保證人ニ對スル債權ハ主タル債權ノ讓渡ニ依リ當然

明 四三 一 一〇一

大 六 四 一〇三〇

大 四 三 三三〇

大 六 四 四八六

讓受人ニ移轉スヘク從テ其讓渡ヲ以テ連帶保證人ニ對抗スルニハ主タル債務者ニ對スル對抗條件ヲ具備スルヲ以テ足り同保證人ニ其債權讓渡ノ通知ヲ爲シ若クハ其承諾ヲ得ルノ要ナシ (大正八、五、二)

第四百五十五條

○保證人カ擔保ノ喪失又ハ減少ニ因ル免責ノ程度ハ債權者ノ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シ之ニ因リテ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス (大正六、六、二九)

第四節 債權ノ讓渡

○支拂人カ爲替手形ニ補箋ヲ爲シタル場合ニ於テ方式ヲ遵守セサル爲メ手形法上引受ノ效力ヲ生セサルトキハ其支拂人ハ手形法上ノ引受ノ義務ヲ負擔スルコトナキハ勿論當然民法上ノ無因ノ債務約束トシテ其義務ヲ負擔スルコトナシ (大正四、三、一二)

○債權者カ債務者ノ承諾上宛名ナキ債權證書ニ他人ノ氏名ヲ記入シタル場合ニ於テ更改ト認ムヘキヤ又ハ債權讓渡ト認ムヘキヤハ一ニ事實ニ依リテ決スヘキモノトス (大正五、三、二八)

○國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者カ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ其權利ヲ他人ニ讓渡スルモ其讓渡ニ依リ直ニ國有未墾地利用權ノ移轉ノ效果

八
六
三五

六
四
五九四

四
三
九三

五
三
四五三

ヲ生スルモノニ非スト雖該讓渡行爲ハ必スシモ全然無効ナルニ非スシテ當事者間ニハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ權利ヲ移轉スヘキ債權債務ノ關係發生スルモノトス (大正一〇、二、一八)

○數人カ共同シテ國有未墾地ノ貸付許可ヲ受ケ其共有者ノ一人死亡シ其持分カ他ノ共有者ニ歸屬スルニ至リタル場合ニ共有者ノ一人甲カ他ノ共有者乙ヨリ死亡セル共有者ノ持分ノ讓渡ヲ受ケ更ニ之ヲ丙ニ讓渡スヘキ契約ヲ爲シタルトキハ甲ハ丙ニ對シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ乙ヨリ其持分ヲ讓受ケ更ニ之ヲ丙ニ移轉スヘキ債務アルモノナレハ甲カ丙ニ對シ斯ル債務ノ存スルコトヲ爭フ場合ニハ縱シ甲ハ乙ト係爭持分ノ讓渡ヲ受クル契約ヲ爲シタルニ止リ未タ朝鮮總督ノ許可ナクシテ甲カ其持分ヲ取得スルニ至ラサルモ丙ハ甲ニ對シ甲丙間ノ讓渡契約ニ基キ甲ニ前示ノ如キ義務アルコトノ確認ヲ求メ得ヘキモノトス (大正一〇、二、一八)

第四百六十六條

○包括的ニアラスシテ債權債務ノ額ヲ限定シタル債權ノ讓渡若クハ債務ノ引受ハ有效ナリトス (大正三、一〇、二七)

○債權取立ヲ目的トスル信託的債權讓渡行ハレタルトキハ其讓受人ハ債

一〇
八
三三

一〇
八
三三

三
二
四八八

務者ニ對シテ普通ノ債權讓渡アリタルト等シク其債權ヲ有效ニ行使シ得ルモノトス (大正五、九、二九)

○代書業者カ債權ノ讓渡ヲ受クルコトヲ禁止シタル法規存スルコトナシ (大正五、一一、二二)

○取立ノ爲メニスル債權ノ讓渡ハ普通信託關係ヲ發生シ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ純然タル債權讓渡ノ效力ヲ生スルモ其當事者間ノ内部關係ニ於テハ假令債務者ニ對シテ債權讓渡ノ通知ヲ發シタルトキト雖債權ハ依然トシテ讓渡人ニ存スルモノナルヲ以テ讓渡人ニ於テ債務者ヨリ債權ノ辨濟ヲ受ケ又ハ債務者ニ對シテ債務ヲ免除シタルトキハ其辨濟又ハ免除ハ固ヨリ有效ナルニ依リ債務者ハ讓受人ニ對シテモ其辨濟又ハ免除ノ有效ナルコトヲ主張スルコトヲ得ヘキモノトス (大正一〇、一一、三三)

○債權ノ差押命令ハ差押債權者ノ利益ノ爲ニ爲スモノナルカ故ニ債務者カ此ノ命令ニ違背シ差押債權ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テ該讓渡ハ差押債權者ニ對シテハ效力ヲ有セサルモ其ノ以外ノ者ニ對シテハ效力アリ (大正一三、一〇、二四)

○債權ノ差押命令ハ第三債務者ニ對シ其ノ負擔スル債務ノ支拂ヲ差止メ

大 五 三七六

大 五 三九二

大 一〇 八五九

大 三 二九一

タルモノニシテ差押命令ニ表示シタル特定ノ債務者ニ限りタル趣旨ニ非サルニ依リ債務者ハ勿論其ノ債權ノ讓渡ヲ受ケタル讓受人ニ對シテモ其ノ支拂ヲ拒否スルコトヲ得ルモノトス (大正一三、一〇、二四)

第四百六十七條

○朝鮮人間ニ在リテ指名債權ヲ讓渡スルニハ債務者ノ承諾アルコトヲ要ス (明治四三、四、七)

○日韓併合後朝鮮ニ於テ朝鮮人ト日本内地人トノ間ニ行ハレタル指名債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ債務者ニ對シテ適用スヘキ法律ニ準據シテ之ヲ定ムヘキモノトス (明治四五、三、二八)

○從來朝鮮ニ於テ指名債權ノ讓渡ニ付テハ債務者ノ承諾アルニ非サレハ之ニ對シ其效力ヲ生セストスル慣習ハ朝鮮民事令ノ施行ト同時ニ廢滅ニ歸シタルモノトス從テ朝鮮人相互間ニ於テモ債權ノ性質上讓渡スルコトヲ許ササルニアラサルトキ又ハ當事者カ反對ノ意思ヲ表示セサルトキハ該慣習廢滅後ハ債務者ノ承諾ヲ要スルコトナク債權者ハ任意ニ其債權ヲ讓渡スルヲ得民法所定ノ對抗條件ヲ具備スルニ依リテ債務者其他ノ第三者ニ對抗シ得ヘキモノトス (大正三、三、三)

○朝鮮民事令施行前ニ生シタル債權ヲ同令施行後債權者ニ於テ之ヲ讓渡

大 一三 二九一

明 四三 一八〇

明 四五 一四五

大 三 三九〇

スルハ即チ同令施行後ニ生シタル事項ナリトス (大正三、三、三)

○宛名ナキ債權證書ヲ交付シタルトキト雖常ニ其債務者及保證人等カ債權者ヲシテ何時ニテモ其債權ヲ他ニ讓渡セシムヘキコトヲ事前ニ於テ承諾シタルモノト認メサルヘカラストノ理由存スルコトナシ (大正五、三、二八)

○民法第四百六十七條第二項ニ所謂債務者以外ノ第三者トハ讓渡債權其モノニ對シ法律上ノ利益ヲ有スル者タラサルヘカラサルモノニシテ例ヘハ讓渡人ノ債權者トシテ讓渡債權ヲ差押ヘタル債權者又ハ讓渡人ヨリ更ニ債權ノ讓渡ヲ受ケタル第二ノ讓受人ノ如キ債權其モノニ對シ法律上ノ利益ヲ有スル者ハ所謂債務者以外ノ第三者トシテ同條ノ保護ヲ受クヘキモ然ラサル者ハ縱令間接ニ事實上多少ノ利害關係ヲ有スル者ト雖前示規定ニ依ル保護ヲ受クルコトヲ得サルモノナレハ民法第四百二十四條ニ所謂受益者又ハ轉得者ハ民法第四百六十七條第二項ニ所謂債務者以外ノ第三者ニ該當セス (大正一一、二、一四)

○指名債權カ讓渡セラレタル場合ニ於テ其ノ讓渡カ確定日附アル證書ヲ以テ通知又ハ承諾セラレス其ノ後該債權カ轉付命令ニ因リ他ニ移轉セラレタルトキハ第三債務者ハ轉付命令ニ因リテ債權ヲ讓受ケタル者ニ

三 二 三九〇

五 三 四五三

二 九 三

對シテ辨濟スヘキモノトス (大正一四、二、一五)

○指名債權ヲ讓渡シタル後ニ至リ其ノ讓渡契約ヲ解除スルコトハ當初ヨリ契約ヲ締結セサリシカ如キ状態ニ回復セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ當事者ノ合意アル場合ニハ有效ト解スルコトヲ妨ケス (昭和二、四、一一)

○右ノ場合ニ債權者ノ交替スルコトハ讓渡ノ場合ト異ナラサルカ故ニ之ヲ債務者ニ通知スルカ又ハ債務者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス而シテ債務者ニ對スル通知ハ債權讓受人ヨリ爲スヲ以テ足ルモノトス (昭和二、四、一一)

○債權讓受人ヨリ讓渡契約解除ノ通知ヲ爲シタル以上ハ反證ナキ限り適法ニ解除アリタルモノト推認スルヲ相當トス (昭和二、四、一一)

○民法第四百六十七條ハ指名債權讓渡ニ付其當事者ヨリ第三者ニ之ヲ對抗スルニ必要アル條件ヲ定メタル規定ナリ從テ同條第二項ノ規定ヲ以テ債務者ト第三者トノ關係ヲ率スヘキモノニ非ス (昭和三、一〇、二三)

○債權讓渡ノ通知ハ債權者カ債務者ニ對シ其ノ債權ヲ他人ニ讓渡シ最早債權者ニ非サル旨ノ自己ニ不利益ナル事實ヲ通知スルモノナルヲ以テ債權讓渡ノ通知アリタル事實確定スルトキハ他ニ特別ノ事情ナキ限り

二四 二 四七七

二 二四 一〇五

二 二四 一〇五

二 二四 一〇六

三 一五 三〇〇

該事實ヨリ債權ノ讓渡アリタル事實ヲ推認シ得ヘキモノトス (昭和三、二、二八)

三
一五
五九

第四百六十八條

○民法第四百六十八條ニ所謂讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシ事由トハ汎ク之ヲ解釋シ辨濟更改免除相殺等債權消滅ノ事由ハ勿論債權發生ノ基本タル法律行為カ取消シ得ヘキトキ若クハ其法律行為カ無効ナルトキノ如キ事由ヲモ包含スルモノト爲スヲ妥當トス從テ債權ノ發生カ賭博ニ原因シ無効ナルトキト雖債務者カ異議ヲ留メスシテ其債權ノ讓渡ニ付承諾ヲ爲シタル以上ハ後日ニ至リ其無効ノ事由ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正六、一、二六)

六
四
二

○民法第九十四條第二項ノ規定ハ虛偽ノ意思表示カ債權ノ發生ニ關スル場合ニモ尙適用スヘキモノニシテ債權ヲ生セシムル意思表示ノ虛偽ナルコトハ同法第四百六十八條第二項ニ所謂讓渡ノ通知ヲ受クルマテニ讓渡人ニ對シテ生シタル事由中ニ包含セサルモノト解スヘキモノトス (大正九、五、一一)

九
七
一四

○賭博債務ニ付債權ノ讓渡アリテ債務者之ヲ承諾シタル事實又ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ノ事實アリタリトセハ債務者ハ民法第四百六十八條

第一項又ハ同第五百十六條ニ依リ讓受人又ハ新債權者ニ對シテハ賭博債務無効ノ事由ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正一一、三、一〇)

二
九
八四

○民法第四百六十八條第二項ニ所謂讓渡人ニ對シテ生シタル事由トハ讓渡ニ係ル債權ニ關シ讓渡人ニ對シテ生シタル異議ノ原因ヲ指稱スルモノナルニ依リ縱令債務者カ讓渡人ニ對シテ債權ヲ有スルモ讓渡ノ通知前未タ相殺ニ適セザリシモノハ異議ノ原因ト爲スコトヲ得ス而シテ相殺ヲ主張スルニハ雙方ノ債權カ孰レモ同種ノ目的ヲ有シ且辨濟期ニ在ルコトヲ要スルヲ以テ債務者ノ債權カ讓渡ノ通知前未タ辨濟期ニ在ラサリシトキハ之ヲ以テ讓受人ニ對シ相殺事由トシテ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正一五、一一、二)

一五
一三
三六三

第五節 債權ノ消滅

第一款 辨濟

○債權證書授受ニ付テノ代理權ハ其債權ノ辨濟ヲ受クヘキ代理ヲ當然伴フモノニアラス (明治四四、九、二三)

四
一
三六〇

○債務者カ既存債務ノ履行ヲ確保スル目的ヲ以テ債權者ニ對シ約束手形ヲ交付シタル場合ニ於テハ債權者カ右手形ヲ裏書讓渡シ其對價ヲ得タ

ルトキト雖是ヲ以テ直ニ既存債務ノ消滅ヲ來スモノニ非スシテ其後手形金ノ支拂アリ債權者カ償還義務ヲ履行スルノ虞ナキニ至リタル時ニ始メテ既存債務ノ消滅ヲ來スモノトス從テ手形ヲ裏書讓渡シタル場合ト雖債權者ハ既存債務ノ消滅スル迄ハ何時ニテモ其履行ヲ請求スルコトヲ得ヘク該履行請求權ハ手形滿期日ニ至リ振出人カ其支拂ヲ拒絕スルノ事實アル迄停止セララルモノニ非ス (大正一〇、四、一)

○單ナル辨濟擔當ノ約旨ナリト見ルヘキモ債務引受契約ヲ認ムルニ足ラスト判示シタルノミニシテ其辨濟擔當ナルコトカ引受契約ト如何ナル點ニ於テ異ナルヤヲ説明セサルハ理由不備ノ違法アリ (大正一二、一、三〇)

○次養子カ負擔シタル債務ハ其ノ子カ相續シタル後ニ於テモ尙次養子ニ對シテ請求シ得ヘキコトハ朝鮮ノ慣習ナリトス (昭和二、二、二五)

○實父死亡ニヨリ相續ヲ爲シ債務ヲ承繼シタル戸主カ宗家ノ養子トナリタル場合ニ在リテハ其ノ實家ニ於テ相續開始シタルトキト雖債權者ハ他家ニ入りタル前戸主ニ對シ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス (昭和四、三、一)

第四百七十四條

○朝鮮ニ於テハ親戚故舊又ハ保證人若クハ債務ニ付擔保ヲ供シタル者ノ如キ特別ノ關係アルモノノ外他人ノ債務ヲ有效ニ辨濟シ得サルヲ以テ一般ノ慣習トス (明治四四、一、二〇)

○債務ノ支拂方法トシテ手形行爲ヲ爲ス者ハ債務者タル者ニ限定スヘキ法律上ノ根據ナク却テ民法第四百七十四條ハ其但書ノ場合ヲ除キ原則トシテ第三者ノ辨濟ヲ認メタル趣旨ニ照サハ法律ハ右但書ニ該ル例外ノ場合ヲ除ク外原則トシテ第三者カ債務ノ支拂方法トシテ手形行爲ヲ爲シ得ヘキコトヲ認定スルモノト解釋スルヲ相當トス (大正一一、八、一五)

○債務者カ他ニ讓渡シタル土地ハ登記ヲ爲シタルト否トニ拘ラス自己ノ財産ニ屬スルモノニ非サルヲ以テ自ラ之ヲ債務辨濟ノ資ニ供シ得ヘキモノニ非ス (昭和三、一〇、二二)

○實父死亡ニ因リ相續ヲナシ債務ヲ承繼シタル戸主カ宗家ノ養子トナリタル場合ニ在リテハ其ノ實家ニ於テ相續開始シタルトキト雖債權者ハ他家ニ入りタル前戸主ニ對シ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス (昭和四、三、一)

第四百七十九條

大	一〇	八	二〇
大	二	一〇	一
昭	四	一六	三四

明	四四	一	四〇九
大	一一	九	三〇三
昭	三	一五	二九〇
昭	四	一六	三四

○民法第四百七十九條ノ規定ハ辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル債務者ノ辨濟ヲ債權者カ追認セサル場合ニ於テ債權者カ其辨濟ニ因リ現ニ利益ヲ受ケタル以上ハ其利益ノ限度ニ於テ之ヲ有效ナリトスル趣旨ノ規定ナリ (大正八、一、二一)

○債權者ニ非サル者ニ對スル辨濟ト雖其ノ辨濟ヲ受ケタル者カ之ヲ債權者ノ利益ニ使用シタルトキハ其ノ限度ニ於テ辨濟ハ債權者ニ對シテ效力ヲ有ス (大正一五、四、一六)

第四百八十二條

○總債權者ノ債權ニ付權限アル代理人カ包括的ニ代物辨濟ヲ受ケタルトキハ各債權者ノ何レノ債權カ何レノ給付ニ依リ辨濟トナリタリヤハ明瞭ナラサルモ其包括的代物辨濟ハ有效ナリトス (大正四、一、二二)

○代物辨濟ハ債務者及債權者カ債務者ニ於テ債務ノ本旨ニ從ヒタル給付ニ代ヘ債務ノ目的ニアラサル他ノ給付ヲ爲シ債權者ニ於テ其給付ヲ受ケ債務ヲ消滅セシムルコトヲ合意シ債務者ノ現實ニ其給付ヲ爲スニ依リ效力ヲ生スルモノナレハ代物辨濟ハ一ノ要物契約タルト同時ニ有償契約ナリトス (大正六、六、二二)

○債務者及債權者カ代物辨濟ノ豫約ヲ爲シタルトキハ債務者カ其豫約ニ

八	六
一	六
一五	一三
二	八二
四	三
三五	四
六	四
五六	六

○基キ代物辨濟完結ノ意思ヲ表示シ其目的物ヲ債權者ニ給付シ代物辨濟ヲ成立セシメタルトキ債權ハ消滅スヘキモノニシテ債務者カ未タ代物辨濟ヲ成立セシメサル間ハ債權ハ依然トシテ存在スヘキモノトス (大正六、六、一二)

○一旦代物辨濟契約ノ成立シタル以上ハ債權關係ハ既ニ消滅シタルモノニシテ假令代物辨濟トシテ受ケタルモノ又ハ權利ニ欠缺又ハ瑕疵アルモ之カ爲メ當然代物辨濟契約ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス斯ル代物辨濟ヲ爲シタル債務者ハ債權者ニ對シ賣買ノ契約ニ依リ買主ノ有スル擔保義務ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス (大正八、一、二九)

○代物辨濟トハ債務者カ債權者ノ承諾ヲ得テ其負擔シタル給付ニ代ヘテ他ノ給付ヲ爲スニヨリテ辨濟ト同一ノ效力ヲ生セシムル場合ヲ指稱シ又手形上ノ債務ハ無因債務ニシテ無因債務ノ負擔ハ一ノ給付ニ外ナラサルヲ以テ債權者ノ同意ヲ得テ手形債務ノ履行ニ代ヘ新ニ約束手形ヲ振出シタルトキハ其行爲ハ本來ノ給付ニ代ヘ無因債務ヲ負擔スルコトニ因リ他ノ給付ヲ爲シタルモノナレハ之ニ因リ代物辨濟ハ成立スルモノトス (大正九、四、三〇)

○契約當事者ハ債務辨濟期以前ノ合意ヲ以テ豫メ債務者カ辨濟期ニ辨濟

六	四
五六	六
八	六
五九	五
九	七
一三	二

ヲ爲ササルトキハ代物辨濟トシテ債權者ヲシテ特定物ノ所有權ヲ取得セシムヘキコトヲ契約スルヲ得ルモノニシテ斯ノ如キ契約ノ存スル場合ニ於テ債務者カ若シ辨濟期ニ辨濟ヲ爲ササルトキハ特定物ノ所有權ハ何等ノ意思表示ヲ要セスシテ當然債權者ニ歸屬スルニ至ルモノナレハ債務者ハ右代物辨濟ヲ爲スト否トノ間ニ選擇ノ自由ヲ有スルモノニ非ス (大正九、五、一一)

○代物辨濟豫約ノ場合ニ於テハ豫約者ノ相手方カ代物辨濟ヲ完結スル意思ヲ表示シ債務者カ其目的物ヲ債權者ニ給付シ代物辨濟ヲ成立セシメタルトキ茲ニ始メテ其債權ハ消滅ニ歸スヘキモノナレハ代物辨濟豫約ノ存スルノミニシテ債務者カ未タ代物辨濟ヲ成立セシメサル間ハ債權ハ依然トシテ存在スルモノトス (大正一〇、五、三)

○代物辨濟ハ債務者及債權者カ債務者カ債務者ニ於テ債務ノ本旨ニ從ヒタル給付ニ代ヘ債務ノ目的ニ非サル他ノ給付ヲ爲シ債權者ニ於テ其給付ヲ受ケ債務ヲ消滅セシムルコトヲ合意シ債務者カ現實ニ其給付ヲ爲スニ依リテ其效力ヲ生スルモノナレハ代物辨濟ハ一ノ要物契約タルト同時ニ有償契約ナリ (大正一〇、五、三)

○代物辨濟カ債務消滅ノ效力ヲ生スルニハ債務者カ本來ノ給付ニ代ヘテ

大 九 七 一 四

大 一〇 八 三 三

大 一〇 八 三 三

爲ス他ノ給付ノ現實ナルコトヲ必要トシ他ノ給付ヲ爲スヘキコトヲ單ニ債權者ト約スルノミヲ以テ足ルモノニ非サルヲ以テ債務者ノ爲ス他ノ給付カ不動産ノ所有權ヲ移轉スルニ在ル場合ニ於テハ當事者カ其意思表示ヲ爲スヲ以テ足レリトセス登記其他引渡行爲ヲ完了シ法律行爲カ當事者間ノミナラス第三者ニ對スル關係ニ於テモ全ク終了シタルニ非サレハ代物辨濟ハ成立セサルモノトス (大正一〇、五、三)

○如上ノ場合ニ於テ特ニ當事者ノ合意ニ依リ代物辨濟ノ目的物タル不動産ノ所有權移轉カ登記其他引渡行爲ノ完了スルヲ待タスシテ單ニ當事者間ニ移轉スルノミヲ以テ事足レリトシ此時ヲ以テ本來ノ債務ハ消滅ニ歸スルモノトスル特約ヲ爲スハ法律上毫モ妨ケナキ所ニシテ流抵當契約ハ實ニ之ニ該當スル特約ニ外ナラサルモノトス (大正一〇、五、三)

○債務者カ本來ノ債務ノ給付ニ代ヘ不動産ヲ以テ代物辨濟ヲ爲スヘキコトヲ約束シタルトキハ他ニ何等ノ特約ナキ限り當事者ハ通常所有權ヲ債權者ニ移轉スル外其ノ所有權ノ移轉ヲ第三者ニ對抗スル爲所有權移轉ノ登記ヲ完了シ第三者ニ對スル關係ニ於テモ完全ニ所有權ノ移轉アリタルトキ代物辨濟ヲ成立セシムル意思アルモノト解スルヲ相當トスレトモ當事者カ特ニ該不動産ノ引渡及登記ノ完了ヲ待タス單ニ所有權

大 一〇 八 三 三

大 一〇 八 三 三

○債權者ニ移轉シタルトキ若クハ其ノ所有權ノ移轉ト共ニ債務者ニ於テ該不動産ノ所有權移轉登記ヲ爲スニ必要ナル一切ノ書類ヲ完成シ之ヲ債權者ニ交付シタルトキニ代物辨濟成立シ本來ノ債務消滅スヘキコトヲ約シタル場合ニ該特約ハ代物辨濟ノ契約トシテ有效ニシテ之ヲ無効トスヘキ理由ナシ (大正二、二、二七)

○民法第七十九條第一項但書ノ規定ハ他物權タル抵當權カ代物辨濟ニ因リ消滅シタル場合ニ適用スヘキモノニ非ス (昭和二、七、一五)

第四百八十六條

○於音ノ所持人カ其支拂ヲ受ケタルトキハ受領證ヲ交付シ又ハ於音ニ之ヲ記入スルヲ通例トスルハ從來朝鮮ニ行ハレタル慣習ナリトス (大正七、五、二二)

第四百八十七條

○辨濟スヘキ債務額ニ爭アリテ債權者カ受領ヲ拒ミ債權證書ノ返還ヲ肯ンセサルトキハ債務者ハ債務額ノ支拂ヲ受ケテ債權證書ヲ返還スヘキコトヲ請求スルヲ得 (明治四三、一〇、一〇)

第四百八十八條

○消費貸借成立後其辨濟トシテ内入金ヲ爲シタルトキハ其入金當時ノ利

息若ハ元金ニ充當シ計算スヘキハ當然ナルモ當事者ノ合意ニ依リ其入金當時ノ元利金ニ充當セスシテ其以後ニ於ケル或一定ノ時期ノ元利金ニ充當スルハ妨ケナシ (大正五、一一、三〇)

第四百八十九條

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

第四百九十一條

○金錢貸借ニ付當事者間ニ特定ノ意思表示ナキトキハ辨濟金ハ先ツ利子ニ充當シ剩餘アレハ之ヲ元本ニ充當スルヲ法則トス (明治四四、四、二九)
○一個ノ債務ニ付元本ノ外利息ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ辨濟者カ其ノ債務ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付ヲ爲シタルトキハ之ヲ以テ先ツ利息ニ充當シ次ニ元本ニ充當スヘキモノニシテ辨濟者又ハ債權者ハ其ノ順序ヲ指定スルコトヲ得サルモノトス (大正一四、八、七)

○利息制限令所定ノ制限利率ヲ超過スル部分ノ利息ニ關スル契約ハ無効

三	二	七	四
一〇	二四	五	一
三六	二五	四	二八

五	二	四	一
三	二四	一	二
九七	四九	二五	二六

ナルカ故ニ法律上ノ充當ノ場合ニ於テハ其ノ利息額ハ制限利率ニ依リテ之ヲ算定スヘキモノトス (大正一四、八、七)

第四百九十二條

○債務者カ特約ニ依ル辨濟ノ場所ニ於テ有效ナル辨濟ノ提供ヲ爲シタル以上ハ不履行ニ因リテ生スヘキ一切ノ責任ヲ免レシムルモノナルヲ以テ縱令其提供當時債權者ノ住所不明ニシテ其後ニ至リ其住所明ニナリタルトキト雖モ其住所ニ於テ更ニ之カ提供ヲ爲ササルヘカラサルモノニアラス (大正七、四、二三)

○消費貸借ノ場合ニ於テ借主ハ辨濟ノ提供ヲ爲シタル時ヨリ遅延利子ヲ支拂フ義務ヲ免ルルモ本來ノ債務其モノハ辨濟ノ提供ノミニ依リテ之ヲ免ルヘキモノニ非ス (大正七、一一、五)

第四百九十三條

○債權者ハ一部ノ辨濟ヲ強要セラルルコトナシ從テ主債務者カ全部ヲ辨濟スル資力ナキコト明白ナルトキハ債權者ハ保證人ニ對シテ保證債務ノ履行ヲ求ムルコトヲ得 (明治四四、四、二九)

○辨濟提供ノ場合ニ於テモ約定利率ニ據ル利息ノ提供ヲ爲スヲ要セス法定ノ制限ニ相當スル利息ヲ提供スレハ足ルモノニシテ如上ノ提供ハ債

大 一四三二八二

大 七五三一

大 七五八四〇

明 四四一三五

○務ノ本旨ニ從ヒ現實ニ之ヲ爲シタルモノトシテ有效ナリ (大正六、三、三)

○債務者カ債務ノ本旨ニ從ヒ現實ニ辨濟ノ提供ヲ爲シタルニ拘ラス債權者カ之ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ債權者ハ遲滯ノ責ニ任セサルヘカラサルモノニシテ債務者カ辨濟ノ目的物ヲ供託スルニ非サレハ債權者ヲシテ遲滯ノ責ニ任セシムルコト能ハサルモノニ非ス (大正六、三、三)

○朝鮮ニ於テ戶主タル父ト同居スル子カ未タ獨立ノ生計ヲ立テサルモ相當ノ年齢ニ達シタル場合ニ其所有財産ニ對シ父ニ於テ管理收益ヲ爲ス權利ヲ有ストノ慣習ハ存セス從テ如上ノ場合ニ子ノ債務者カ父ニ對シテ爲シタル辨濟ハ子ニ對シテ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有セサルモノトス (大正七、六、二八)

○買戻ニツキ民法第五百八十三條ハ辨濟ノ提供ニ關スル同第四百九十三條ノ適用ヲ除外スヘキモノニアラス故ニ買主カ豫メ賣主ニ對シ買戻代金ノ受領ヲ拒絶スル意思ヲ表示シタルトキハ賣主ハ買戻權ヲ實行スルニ付現實ニ右代金ノ提供ヲ爲スヲ要セス其辨濟ノ準備トシテ認ムルニ足ルヘキ行爲ヲ爲シタルコトヲ買主ニ通知シ其受領ヲ催告スルヲ以テ

大 六四三九

大 六四三九

大 七五五二

足ルモノトス (大正八、五、九)

○而シテ買主ノ買戻金受領拒絶ノ意思表示ノ以後ニ於テ當事者間事情ノ變更ヲ認ムヘキモノアルトキハ格別ナルモ然ラサルニ於テハ受領ノ拒絶ト受領ノ催告トノ間ニ存スル期間ノ長短ハ前記買戻權ノ實行ニ何等ノ影響ヲ及ササルモノトス (大正八、五、九)

○買戻ニツキ民法第四百九十三條但書ノ規定ハ賣主カ未タ現實ニ債務ノ本旨ニ從ヒタル買戻金ノ提供ヲ爲ササル場合ニ始メテ其適用ヲ見ルヘキモノニシテ之カ爲メ賣主ニ於テ一旦現實ニ債務ノ本旨ニ從ヒタル買戻金ノ提供ヲ爲シ買主ニ於テ之カ受領ヲ拒絶シタル事實アルヲ要スルモノニアラス (大正八、五、九)

○債務者カ辨濟期日ニ辨濟ノ場所タル債權者ノ住所ニ債務ノ目的物ヲ携帶シテ其受領ヲ催告シタルニ債權者ハ不在ニシテ面會スルヲ得ス債權者ノ妻亦債權者ノ不在ヲ理由トシテ其受領ヲ拒絶シタル場合ニ於テ若其日時カ辨濟期日ニ該當スルトキハ債務者ハ現實ニ履行ノ提供ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘカラサルモ其日時カ辨濟期日前ナルトキハ現實ニ履行ノ提供ヲ爲シタルモノト謂フコトヲ得ス (大正九、四、三〇)

○同時履行ノ雙務契約ニ在リテ當事者ノ一方ニ債務不履行ノ責任アリト

大 八 六 三 八 三

大 八 六 三 八 四

大 八 六 三 八 四

大 九 七 一 四 二

爲スニハ相手方ニ於テ自己ノ債務ヲ提供シ他ノ一方ノ履行ヲ催告シ他ノ一方カ其ノ債務ヲ履行セサルコトヲ要スルモノナレハ相手方カ其ノ債務ヲ提供セスシテ單ニ期日ニ至リ他ノ一方ニ對シ債務ヲ履行スヘキコトヲ催告シタル場合ニ他ノ一方カ其ノ債務ノ履行ヲ爲ササルモ不履行ノ責アリト爲スヲ得サルモノニシテ相手方ノ履行ノ催告ニ對シ同時履行ノ抗辯ヲ爲シタルト否トハ敢テ問フ所ニ非ス (大正八、六、一四)

○同時ニ履行スヘキ雙務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ヲシテ履行遲滞ノ責ニ任セシムルニハ自己ノ債務ニ付辨濟ノ提供ヲ爲ササルヘカラス然ラサルトキハ相手方ハ縱令辨濟ヲ爲サスシテ履行期日ヲ經過スルモ之カ爲ニ直ニ遲滞ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス從テ相手方ノ遲滞ヲ前提トスル民法第五百四十一條ノ契約解除權ハ發生セサルモノトス (大正九、六、八)

○雙務契約ノ當事者ノ一方カ先ツ自己ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ縱令其ノ債務ヲ履行セサリシトスルモ履行遲滞ノ責ヲ負フコトナシ (大正九、一、三)

○契約ノ目的物カ甲乙二種ノ重石鑛ヲ包含スル場合ニ於テ上告人カ現ニ提供シタル重石鑛カ不純物混入ノ爲メ甲乙何レノ重石鑛トシテモ取引

大 八 六 四 七

大 九 七 二 三 三

大 九 七 四 三 九

ノ目的物ニ適合セサルモノニ非サル以上上告人カ之ヲ高價ナル甲トシテ引受ヲ要メタル場合ハ格別現ニ低價ナル乙トシテ引受ヲ要メタル場合ニ於テハ他ニ特殊ノ事情ノ存セサル限りハ假令不純物混入ノ爲メ甲乙何レニ屬スルヤ一般取引ノ標準ニ依リ不明ナルトキト雖モ被上告人ハ之ヲ乙トシテ引受クルニ付何等不利益ナキモノナレハ之カ引受ヲ拒絶スルノ理由ナキモノト認ムルヲ相當トス (大正九、六、一一)

○上告人ノ提供シタル重石鑛ニ對シ被上告人ハ最初ノ見本ノ採リ方ニ缺點アル故全部ノ物品ニ付見本ヲ交付セラレタキ旨申出テタルニ上告人カ之ニ應セサリシ爲メ其授受ヲ爲シ得サリシ場合ニ於テ右重石鑛ノ不受領ニ付被上告人ニ違約ノ責ナシト爲スニハ上告人ハ被上告人ニ其提供ノ重石鑛ニ付見本交付ノ義務アルコト及上告人カ最初交付シタル見本ノ採リ方ハ缺點アリタルコトヲ決定スルヲ要ス (大正九、六、一一)

○雙務契約ノ場合ト雖被上告人ノ宿舍カ履行ノ場所ナルトキ被上告人カ履行期日ニ現金ニ代ル預金手形ヲ所持シテ自己ノ債務ノ履行ヲ準備シ上告人ヨリ契約ノ書類ヲ持參シ之ト引換ニ其債務ノ履行ヲ爲スコトヲ待チタルニ上告人ニ於テ契約ノ書類ヲ持參セサリシトキハ被上告人ハ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シタルモ上告人ニ於テ其債務ノ履行ヲ提供セ

大 九 七 二四三

大 九 七 二四三

サリシモノト爲スヘキヲ以テ上告人ニ履行遲滯ノ責アルコトヲ認ムルハ相當ナリ (大正九、一一、一一)

○民法第四百九十三條ノ規定ハ債務者カ辨濟ノ提供ヲ爲ス場合ノ規定ニシテ義務ノ履行ニ協力ヲ爲スヘキ債權者カ債務者ニ對シ其債務ノ履行ヲ催告スル場合ニ適用若クハ準用アルニ非サレハ債權者カ債務者ニ對シ催告ヲ爲スニ當リ債務者ノ義務ノ履行ニ協力スヘキ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シ催告ヲ爲ササルハカラサルモノニ非ス (大正一〇、六、一七)

○履行ノ提供アリト認ムヘキ場合ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲シタル場合ハ勿論債權者カ豫メ其受領ヲ拒ミタルトキ債務者ニ於テ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其受領ヲ催告シタル場合ニモ亦履行ノ提供アリト看做スヘキモノトス (大正四、四、二〇)

○雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ債務ノ提供ヲ爲スモ相手方ニ於テ其債務履行ヲ爲ササル意思明確ナル場合ニハ假令一方ハ自己ノ債務ノ提供ヲ爲ササルモ相手方ハ期限ヲ徒過スルトモニ遲滯ノ責ヲ免レサルモ而カモ此場合ニ於テモ少クトモ一方ニ眞實債務ヲ履行スルノ意思ヲ有セサルヘカラサルモノトス (大正一〇、一〇、一四)

○履行ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ現實ニ之ヲ爲スコトヲ要シ其履行ノ

大 九 七 四〇〇

大 一〇 八 二三四

大 四 三 三二

大 一〇 八 二九六

準備ヲ爲シテ之カ通知ヲ爲シ受領ノ催告ヲ爲スヲ以テ足レリトスルニハ債務者カ豫メ其受領ヲ拒ミ又ハ履行ニ付相手方ノ行爲ヲ要スル場合
タラサルヘカラサルモノトス (大正一〇、一一、一五)

○賣買ノ當事者間ニ一定ノ期日ニ一定ノ場所ニ於テ同時ニ各自ノ義務履
行ノ準備ヲ爲シテ該場所ニ到リ相手方ハ同日同所ニ到ラサルトキハ一
方ノ當事者ハ現實ニ自己ノ義務履行ノ提供ヲ爲シ得サルヘキハ勿論ナ
レハ斯カル場合ニハ其ノ一方ノ當事者ハ自己ノ遲滞ノ責任ヲ免ルヘキ
有效ナル履行ノ提供ヲ爲シタルモノト爲シ相手方ニハ遲滞ノ責任發生
スルモノトス (大正一一、一一、一〇)

○賣主カ言語上ノ提供ヲ爲シ其提供カ有效トナルニハ賣主ニ於テ自己ノ
義務ノ履行ニ付豫メ準備ヲ爲スコトヲ要シ其準備ナキニ拘ラス言語上
ノ提供ヲ爲スモ提供ノ效力ヲ生スルモノニ非ス (大正一一、一一、二八)

○賣主甲カ買主乙丙丁三名ニ對シ各別ニ高粱一車宛ヲ賣渡シ其履行ノ爲
メ準備セル高粱ハ一車ニ過キササルニ拘ラス買主乙丙丁各自ニ對シ同時
ニ履行ノ準備アリトシ言語上ノ提供ヲ爲スモ買主ニ於テ履行ノ協力ヲ
爲サントスルトキ乙丙丁中ノ一人ニ對シテノミ其引渡ヲ爲シ得ヘキニ
止マリ爾餘ノ二人ニ對シテハ引渡ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ其二

大
一〇
八
四五

大
二
九
四七〇

大
二
九
五〇六

人ニ對スル言語上ノ提供ハ準備ナクシテ爲サレタル提供ナリト爲スノ
外ナシ (大正一一、一一、二八)

○前項ノ場合ニ買主乙丙丁中何人ニ對スル提供カ有效ナリヤハ他ニ特別
ノ事情ナキ限り之ヲ知ルニ由ナキモノニシテ右乙丙丁中特定ノ一人ニ
對スル提供カ有效ニシテ其者ニ不履行ノ責アリト爲スニハ理由ヲ附シ
特ニ其一人ニ對スル提供カ有效ニシテ爾餘ノ買主ニ對スル提供ノ無効
タルコトヲ說示スルヲ要シ任意ニ乙丙丁中ノ一人ヲ捉ヘ賣主甲ノ準備
シタル高粱ノ數量カ同人ニ對スル義務ヲ履行スルニ足ルノ一事ヲ以テ
同人ニ對スル言語上ノ提供ヲ有效ナリト速斷スルヲ得ス (大正一一、一
一、二八)

大
二
九
五〇六

大
二
九
五〇六

○契約履行ノ終期ヲ約定スルニ一定ノ期日ヲ以テシタル場合ニ其ノ最終
ノ期日ニ於テハ其ノ時刻ノ何時タルヲ問ハス當事者ノ一方カ其ノ債務
ノ履行ヲ提供シ之ト引換ニ爲スヘキ相手方ノ債務ノ同時履行ヲ請求ス
ルヲ得ト爲スハ當事者カ期日ヲ約定シタル本旨ニ副フモノト謂フヘク
期日ハ其ノ日ノ午後十二時ヲ以テ終了スヘキモノナレハ特別ノ慣習又
ハ契約ナキ限り當事者ハ同時刻ノ終了ニ至ル迄互ニ相手方ノ之ヲ爲ス
ヘキコトヲ期待セサルヘカラサルモノト解スルヲ相當トス (大正一一、

五、四)

○民法第四百九十三條但書ニ規定スル催告ニハ目的物受領ノ期日ヲ定ムル必要ナキモノトス (大正一一、六、八)

○代金支拂ノ債務カ債權者ノ住所ニ非サル登記所所在ノ場所ニ出會シテ履行スヘキモノナルトキハ其ハ民法第四百九十三條ニ所謂債務ノ履行ニ付債權者ノ行爲ヲ要スル場合ニ該當スルモノト謂フヘシ從テ之カ辨濟ノ提供ハ辨濟ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知シテ其ノ受領ヲ催告スルヲ以テ足ル (大正一五、一一、二)

○預金手形(記名式所持人拂預證券)ニ付取引上現金ノ交付ニ代ル慣習アルトキハ履行ノ場所ニ於テ其預金手形ヲ所持シ居リタル事實ニ由リテ代金支拂債務ニ付テノ履行ヲ提供シタル事實ヲ認ムルコトヲ得 (大正九、一一、一一)

○辨濟ノ提供ハ債務ノ本旨ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要スト雖金錢貸借ニ於テ現實ニ提供ヲ爲スニハ必スシモ現金ニ限ルト解スヘキモノニ非ス苟モ一般取引上現金ト同様ニ取扱ハルルモノナルトキハ尙現實ニ提供アリタルモノト解スルヲ妨ケス (昭和三、一〇、一一)

○信用アル銀行ノ振出ニ係ル小切手ハ銀行ノ營業時間内ハ現金ト同様ニ

取扱ハルルモノト解スヘク營業時間外ナルトキハ債權者ニ於テ現金ヲ直ニ他ニ使用スル等ノ特段ナル事情ノ存セサル限り現金ト同様ニ解スルヲ以テ信義ノ原則ニ合スルモノト謂フヘク取引上亦是認セララル所ナリ (昭和三、一〇、一一)

第四百九十四條

○債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミタルトキハ辨濟者ハ債權者ノ爲メニ辨濟ノ目的物ヲ供託シテ其債務ヲ免ルルコトヲ得ルモノニシテ供託ノ通知及供託書ノ交付ノ遅延ハ供託ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノトス (大正一〇、一一、一一)

○供託ヲ爲シタル債務者カ供託ノ通知ヲ爲ス義務ヲ怠リタルトキハ之ニ因リ生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ヲ免ルル能ハスト雖該通知ハ供託ノ法律上ノ效果ヲ生スヘキ要件ニ非サルヲ以テ其通知ナキノ故ヲ以テ供託ハ債務辨濟ノ效果ヲ發生セサルモノト爲スヲ得ス (大正一一、六、一三)

○債務者カ供託受領證ヲ債權者ニ交付スルハ唯債權者ヲシテ供託物ヲ受取ルノ便宜ヲ得セシムルノ目的ニ出テタルモノニシテ受領證交付ノ有無ハ供託其モノノ效力ニ何等ノ影響ナシ (大正一一、六、一三)

大	大	大	昭	大	大	大	大
二	二	一〇	三	九	一五	三	三
九	九	八	一五	七	一三	一五	一五
二〇〇	二〇〇	三六	二八	四〇〇	三六	二八	二八

第四百九十五條

○辨濟者カ債權者ノ名ヲ以テ銀行ニ預金スルモ民法第四百九十五條ニ所謂供託ニ該當セス (大正七、一一、五)

○辨濟ノ目的物ノ供託トハ債權者カ辨濟ノ受領ヲ拒ミ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ若クハ辨濟者ノ過失ナクシテ債權者ヲ確知スルコト能ハサル場合ニ於テ辨濟者カ其債務ヲ消滅セシムル目的ヲ以テ辨濟ノ目的物ヲ供託所ニ寄託シ其保管ニ付スル法律行為ヲ謂フ從テ寄託關係ノ成立シタル以上ハ供託受領證ヲ債權者ニ交付スルヲ俟タス供託ハ其效力ヲ生スルモノトス (大正七、一一、三〇)

○民法第四百九十五條ニ所謂債務履行地ノ供託所トハ債務履行ノ場所タル最小ノ行政區劃内ニ存在スル供託所ノ意義ナリトス (大正一四、三、三)

○前項ノ供託所ナキトキハ裁判所ニ供託所ノ指定又ハ供託物保管者ノ選任ヲ請求スルヲ本則トスレトモ法令ニ別段ノ定アルトキハ之ニ依ルヘキモノトス (大正一四、三、三)

○供託所ノ存在セサル地ニ於テ爲スヘキ辨濟目的物ノ供託ニ付法令ヲ以テ供託所ヲ指定シ又ハ供託所ニ代ハルヘキモノヲ定ムルトキハ其カ債務履行地ニ存在スルモノナルトキト否トヲ問ハス其ノ所ニ有效ニ供託

大 七 五 八四〇

大 七 五 九三三

大 一四 二 三

大 一四 二 三

ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (大正一四、三、三)

○大正元年制令第一號但書ノ規定及朝鮮總督ノ右規定ニ依ル供託所ノ指定ハ朝鮮ノ各道ニ數箇ノ供託所ヲ配置シ其ノ所在道ノ區劃ヲ以テ其ノ所管區域ト爲シ之ヲシテ其ノ地ニ於テ爲スヘキ一切ノ供託事務ヲ取扱ハシムル趣旨ニ出テタルモノト解スルヲ相當トス (大正一四、三、三)

○所管區域ヲ一ニセル數箇ノ供託所存在スルトキ何レノ供託所ニ供託スヘキカハ供託原因ノ如何其ノ他各種供託ノ性質ニ從ヒテ之ヲ選定スヘキモノト解スルヲ妥當トス (大正一四、三、三)

第四百九十九條

○利害ノ關係ヲ有セサル第三者カ債務者ノ意思ニ反セスシテ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ第三者ハ債務者ニ對シ求償權ヲ有スルモノニシテ求償ニ付債權者ノ承諾ヲ必要トセサルコト勿論ナルモ第三者カ民法第四百九十九條ニ依リ債權者ニ代位シ債權者ノ權利ヲ行使セムトスルニハ其辨濟ト同時ニ代位ニ付債權者ノ承諾ヲ得タルコトヲ必要トス而シテ第三者ハ以上何レノ權利ヲ行使スルモ其自由ニ屬スルモノトス (大正一一、三、二三)

○納稅擔保物ノ上ニ國ノ有シタル抵當權ハ代納者ノ納稅義務者ニ對シテ

大 一四 二 三

大 一四 二 三

大 一四 二 三

大 三 一〇 六

○有スル求債權ノ擔保ノ爲メニ代位辨濟ノ規定ニ準シ代納者ニ移轉ス
(昭和二、四、一二)

第五百條

○民法第五百條ニ所謂辨濟ヲ爲スニ付正當ノ利益ヲ有スル者ト爲スニハ
辨濟者カ其債務ニ付利害關係ヲ有スルコト及其利害關係ハ正當ナル法
律上ノ原因ニ基クコトノ二箇ノ要件ヲ具備セサルヘカラサルモノニシ
テ例ヘハ保證人、物上保證人、第三取得者不可分債務者、連帶債務者
等ハ之ニ該當スルモ單ニ債務者ノ委託ヲ受ケテ辨濟ヲ爲シタル第三者
ノ如キハ之ニ該當セス (大正一一、三、二三)

○民法第五百四條ニ所謂故意ハ擔保ノ喪失減少ニ付テ存スルヲ以テ足り
第五百條ノ規定ニ依リ代位ヲ爲スヘキ者ノ存在ヲ認識スルコトヲ必要
トスルモノニアラス (昭和三、一一、二七)

第五百一條

○代位辨濟者カ民法第五百一條ノ規定ニ依リ債權者ノ權利ヲ行フニハ自
己ニ固有ノ求債權アル場合ナルコトヲ要件トス (大正六、六、八)

第五百三條

○民法第五百三條ハ代位辨濟ニ因リテ辨濟ヲ受ケタル債權者ノ爲スヘキ

行爲ヲ規定シタルモノナレトモ債權者カ辨濟ヲ受ケ單ニ其債權證書ヲ
辨濟者ニ交付シタル一事ハ未タ必スシモ之ヲ以テ代位ヲ承諾シタルモ
ノト推定セサルヘカラサルモノニアラス (大正一一、三、二三)

第五百四條

○保證人カ擔保ノ喪失又ハ減少ニ因ル免責ノ程度ハ債權者ノ故意又ハ懈
怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シ之ニ因リテ償還ヲ受クルコト能ハ
サルニ至リタル限度ニ於テ之ヲ定ムヘキモノトス (大正六、六、二九)

○抵當權者カ其抵當權ヲ拋棄シタリトノ一事ヲ以テ直ニ故意又ハ懈怠ニ
出テタルモノト看做ササルヘカラサルモノニアラス其之ヲ拋棄スルニ
付正當ノ事由存スルトキハ尙之ヲ善意無過失ナリト認ムルヲ妨ケス
(大正七、一一、二四)

○民法第五百四條ノ規定ハ代位ヲ爲スヘキ者ハ喪失又ハ減少シタル擔保
ニ依リテ償還ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ限度ニ於テ其ノ責ヲ免ルルノ
趣旨ニシテ主タル債務者ニ償還ノ資力アルト否トヲ問ハサルモノト解
スルヲ相當トス (大正一五、一〇、二六)

○民法第五百四條ニ所謂故意ハ擔保ノ喪失減少ニ付テ存スルヲ以テ足り
第五百條ノ規定ニ依リ代位ヲ爲スヘキ者ノ存在ヲ認識スルコトヲ必要

昭 二 四 九〇

大 三 一〇 六九

昭 三 一五 三三一

大 六 四 四八五

大 三 一〇 七〇

大 六 四 五九四

大 七 五 一〇一七

大 一五 一三 三三六

トスルモノニアラス (昭和三、一一、二七)

第二款 相 殺

第五百五條

○相殺ヲ爲スニハ相殺セララルル債權カ辨濟期ニ在ルコトヲ要セス只債務者カ辨濟期前ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ足ルモノトス (大正八、五、二)

○民法第五百五條ニハ「雙方ノ債務カ辨濟期ニ在ルトキ」トアルカ故ニ相殺ヲ爲スニハ相殺スヘキ債權ハ勿論相殺セララルル債權カ辨濟期ニ在ルコトヲ要スルモノト解スヘキカ如シト雖モ民法第三百三十六條ニ依レル期限ハ債務者ノ利益ノ爲ニ定メタルモノト推定セララルルカ故ニ債務者ハ其利益ヲ拋棄シテ辨濟期前ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ相殺ハ辨濟ト實質上同一ノ效果ヲ生スルモノナルカ故ニ相殺セララルル債權ノ辨濟期前ニ之ヲ爲スコトヲ得ト解釋セサルヲ得ス (大正八、五、二)

○相殺ヲ主張スル者ノ債權ニ同時履行ノ抗辯權附着スル場合ニハ債務者ノ同時履行ニ係ラサル他ノ債務トノ相殺ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス (大正九、一二、二一)

○保證人ハ諸種ノ抗辯權ヲ有スルモノニシテ相殺ヲ爲ス債權者ノ債權カ

三 一五 三三二

八 六 三〇七

八 六 三〇七

九 七 四九一

保證人ニ對スル債權タル場合ニ單ニ期限ノ到來セル一事ニ依リ之ヲ以テ相殺ニ供シ得ヘキモノトスルトキハ一方ノ意思表示ニ依リ保證人ハ此等ノ抗辯權ヲ不當ニ喪失スル結果トナルモノナレハ保證債務ハ抗辯權ノ附着セル間ハ相殺ニ適セサルモノトス (大正一〇、六、三)

○從テ其債權者ハ此等抗辯權カ保證人ノ拋棄若クハ其他ノ事由ニ依リ消滅シ相殺ヲ爲スニ適スルニ至リタル上ニ非サレハ之ヲ以テ相殺ノ用ニ供スルヲ得サルモノニシテ其相殺適狀ニアルコトハ相殺ヲ爲ス債權者ニ於テ之ヲ主張シ立證スヘキモノトス (大正一〇、六、三)

○支拂拒絕證書作成期間經過後手形所持人カ手形債務者ニ對シ債務ヲ負擔シ已ニ相殺ニ適シタル後ニ於テ裏書ヲ爲シタル時ハ手形債務者ハ被裏書人ニ對シ直接相殺ノ意思表示ヲ爲シ得ルモノトス (大正一三、九、二六)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

○債務額カ法定ノ制限利率ヲ超脱シテ計算セラレタルモノナリトスルモ債務者ニ於テ之ヲ承認シ辨濟スルニ代ヘテ任意自己ノ有スル債權ト相殺ヲ爲シタルトキハ債權ハ其ノ對當額ニ於テ消滅ニ歸スルモノナルヲ以テ其ノ後ニ至リ制限利率ニ引直シ辨濟ニ付法定ノ充當方法ニ依ルコトヲ得サルモノトス (昭和二、一〇、一一)

二 一四 三四九

三 一 二 一四七

一〇 八 一九四

一〇 八 一九四

第五百六條

○相殺ハ意思表示ニ依リテ行ハルルコトハ朝鮮ニ於テモ從來是認セラレタル慣習ナリ (隆熙三明治四二、九、九)

○民法第五百六條第二項ニ所謂相殺ヲ爲スニ適シタルトキ即相殺適狀ニ在リト爲スニハ相殺ノ性質上雙方ノ債權カ相對立シ且辨濟期ノ到來シタルコトヲ必要トス從テ當事者ノ一方カ第三者ヨリ讓受ケタル債權ヲ以テ他方ノ既ニ辨濟期到來シタル債權ニ對シ相殺ヲ對抗セントスルトキハ債權ヲ讓受ケタル後ニシテ且其債權ノ辨濟期到來シタルトキニ始メテ相殺適狀ニ在ルモノト爲スヘキニ依リ若シ既ニ辨濟期ノ到來シタル債權ヲ讓受ケタルトキハ其讓受ケノ當日ヲ以テ相殺適狀ニ在ルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ債權ヲ讓受ケル以前ニハ第三者ノ債權ニシテ未タ自己ノ債權ニ非サルカ故ニ雙方ノ債權カ相對立スト云フコトヲ得サレハナリ (大正一〇、一〇、二八)

○雙方ノ債權カ辨濟期ヲ異ニスル場合ニ於ケル相殺適狀ハ後ノ辨濟期ニ在ルヲ以テ此ノ時期ヲ標準トシテ差引計算ヲ爲スヘキモノトス (大正

三
一
五〇

大
一〇
八
三五七

一三、五、六)

○原告カ第一審ニ於テ定期米取引損金ノ支拂ヲ求メ被告ハ原告ニ對シ同額ノ貸金債權アルコトヲ主張シ相殺ノ抗辯ヲ提出シ第二審ニ於テモ同様ノ抗辯ヲ提出シ原告カ右反對債權ノ存在ヲ認メタルトキハ原告ハ其ノ申立ヲ擴張スルカ或ハ被告ノ反對債權ヲ減少セシムル特殊ノ理由アルニ非サレハ原告ノ債權ハ消滅ニ歸スヘキモノトス(然レトモ第二審ニ於テ申立ヲ擴張シ新ナル請求ヲ爲スニハ其ノ請求原因ヲ變更セサルコトヲ要スルカ故ニ若シ原告カ第二審ニ至リ定期米取引損金以外ニ新ニ貸金債權アルコトヲ主張シ其ノ支拂ヲ請求スルトキハ請求原因ヲ異ニスル新ナル請求ニシテ是認スルコトヲ得ス(二)若シ前示ノ如キ請求ニ非スシテ單ニ定期米取引損金以外ニ別口貸金債權ノ存在スルコトヲ主張シ自ラ相殺ノ意思表示ヲ爲シ被告ノ反對債權ト差引計算ヲ爲シ其ノ殘餘ノ支拂ヲ請求スルモノナルトキハ被告カ既ニ第一審ニ於テ爲シタル相殺ノ意思表示ノ效力ヲ滅却セシメサル限り原告ノ請求ヲ認容スルコトヲ得ス(三)若シ別口貸金債權ト被告ノ反對債權トハ相互ニ差引計算ヲ爲スヘキ特約其ノ他ノ事情アルニ依リ先ツ此ノ兩債權ノ差引計算ヲ行ヒ其ノ殘額ニ付定期米取引損金債權ト差引計算ヲ爲シ其ノ殘餘ノ支

大
一三
二
九二

拂ヲ請求スルモノナルトキハ認定資料ノ有無ヲ審査シ請求ノ當否ヲ決スルコトヲ得ヘシ (大正一三、五、六)

第五百十一條

○支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者ハ民法第五百十一條ニ依リ差止前ニ取得シタル債權ニ依リ差押債權カ差止後辨濟期ノ到來スヘキトキト雖モ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗シ得ヘキモノトス (大正八、五、二)

○債務者ト第三債務者トノ間ニ於テ第三債務者カ差止前ニ取得セル債權ヲ以テ差止ノ目的トナリタル債權カ辨濟期到來シ相殺適狀ヲ呈スルニ至リタルトキハ特ニ相殺ノ意思表示ヲ必要トセス當然消滅スヘキ旨ノ契約カ債權差止以前ニ於テ締結セラレタル場合ニ於テハ其契約上當事者ニ生シタル法律關係ハ差止ニ依リ影響ヲ受クルコトナキニ依リ相殺適狀カ差止以後ニ發生シタル場合ト雖モ第三債務者ハ相殺ヲ以テ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得 (大正八、五、二)

第三款 更改

第五百十三條

○當座貸越金ヲ約束手形ニ變更シタルトキハ債務ノ更改ナリ (明治四四、三、一)

○表面上約束手形ヲ授受スルモノ内實舊債務ヲ存續セシムル契約ハ當事者間ニ對抗シ得ヘキモノトス從テ舊債務ヲ請求スルハ相當ナリ (明治四四、三、一五)

○債務者カ金錢ノ支拂ニ代ヘテ小切手ヲ振出シタル場合ハ之ヲ以テ單ニ支拂ノ方法ニ供スルニ過キス其小切手ノ交付ニ依リ債務ノ更改ヲ生シ若クハ代物辨濟トナルヘキモノニ非ス (大正三、五、八)

○他人ノ振出シタル小切手ヲ以テ金錢債務ノ辨濟ノ爲メ債權者ニ交付シタル場合ニ於テモ特別ノ意思表示ナキ限りハ現金ノ交付ニ代ヘ金錢支拂ノ方法トシテ之ヲ交付シタリトスルヲ以テ取引上ニ於ケル普通ノ狀態ナリトス從テ債權者ニ對シテ小切手ヲ交付スルモノ不渡ノ場合ニ於テハ債務關係ハ依然トシテ存在スヘキモノトス (大正三、五、八)

○辨濟ニ代ヘテ約束手形ヲ交付スルモノ手形ニ記載スヘキ要件ヲ缺如シテ手形上ノ效力ヲ發生セサルトキハ更改ハ要素ニ錯誤アリテ無効ニ歸シ舊債務ハ消滅セサルモノトス (大正三、二、二六)

○舊債務ノ消滅シテ新債務ノ發生スルハ更改ニ限ルニアラス支拂フヘキ債務ヲ負擔スル場合ニ當事者雙方合意ノ上之ヲ貸金ニ改メタルトキニ於テモ舊債務消滅シテ新債務發生スルモノトス (大正四、二、一一)

大	大	大	大	明
四	三	三	三	四四
三	二	二	二	一
三五	五六九	四三	四三	二二四

大	大	大	大
四四	八	八	一三
一	六	六	二
二四	三〇八	三〇八	九

○數個ノ債權ヲ一個ノ債權ニ更改シタルトキハ新舊債權ハ其目的ヲ異ニスルヲ以テ債務ノ要素ニ變更ヲ來シ更改契約ハ有效ニ成立スルモノトス (大正四、五、七)

○普通債務ヲ負擔スル債務者カ其債權者ノ振出シタル爲替手形ニ對シ支拂人トシテ引受ヲ爲シタル場合ニ於テ當事者ノ意思カ舊債務ヲ消滅セシメ之ニ代ヘテ爲替手形ニ引受ヲ爲シタルニ在リトセハ普通債務ヲ手形債務ニ變更シタルモノニシテ民法第五百十三條第一項ニ所謂債務ノ要素ヲ變更シタルニ該當シ更改契約成立スルモノトス (大正一一、四、二)

第五百十四條

○債務者ノ交替ニ因ル更改ハ舊債務者ノ意思ニ反セサル限りハ新債務者ト債權者トノ契約ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得 (大正五、七、一〇)

○債務引受ノ契約ハ無名契約トシテ有效トス (大正五、四、二一)

○債務ノ引受ハ債權者引受人間ノ契約ヲ以テ之ヲ爲シ債務者ノ承諾ヲ要スルモノニ非ス (大正五、八、二二)

○債務ノ引受ハ債務ノ同一性ヲ保チ債務ヲ引受クル場合ニ認ムヘキモノナレハ引受人ノ負擔スル債務カ原債務者ノ負擔スル債務其モノニシテ

債務引受

大

四三二七四

大

二一九一五二

大

五五三六九

大

五三三〇〇

大

五三七〇二

其内容及原因ニ於テ原債務者ノ負擔スル債務ト同一ナルヲ要スルモノトス (大正八、三、一一)

○引受人カ原債務者ノ負擔セシ數個ノ貸金債務ヲ合併シテ一個ノ貸金債務トシテ負擔スル如キハ彼此債務ノ内容ヲ異ニスルカ故ニ更改ニシテ引受ニ非ス然レトモ原債務ト引受債務トカ單ニ辨濟期又ハ利率ヲ異ニスルコトアルモ法律上之カ爲ニ債務ノ同一性ヲ缺クモノト爲スヲ得サルカ故ニ其引受ハ有效ナルモノトス (大正八、三、一一)

○債務引受ニ付テハ民法ニ何等ノ規定ナキヲ以テ第三者ト債權者トノ間ニ債務引受契約ヲ爲シタル場合ニ於テ原債務者カ其地位ヨリ脫退シテ引受人之ニ代ハリタル所謂免責的引受アリタルモノト解スヘキヤ將又引受人新ニ債務者トナリ原債務者ト共ニ同一債務ヲ負擔シタル所謂附加的引受アリタルモノト解スヘキヤハ專ラ其引受契約ノ内容如何ニ依リテ定マルヘキ事實問題ニ屬シ法律上其效果ヲ推定シタルモノナキモノトス (大正一一、三、一〇)

○敍上ノ場合ニ於テ原債務ニ於ケル主債務者又ハ保證債務者カ從來負擔シタル債務ノ履行ヲ請求セラレタルニ當リ免責的引受アリタリト主張シテ其債務ヲ免レントセハ一般舉證ノ原則ニ基キ其免責ノ事實ヲ主張

大

八六八七

大

八六八七

大

二一九七九

スルニ於テ利益ヲ有スル原債務者ニ於テ之カ舉證ヲ爲スヘキ責任アリトス (大正一、三、一〇)

○單ナル辨濟擔當ノ約旨ナリト見ルヘキモ債務引受契約ヲ認ムルニ足ラスト判示シタルノミニシテ其辨濟擔當ナルコトカ引受契約ト如何ナル點ニ於テ異ナルヤヲ説明セサルハ理由不備ノ違法アリ (大正一、二、一、三〇)

第五百十六條

○債權者ノ交替ニ因ル更改契約ヲ締結スル際債務者カ異議ヲ留メスシテ契約ヲ爲シタルトキハ假令舊債權ニシテ存在セサル場合ト雖モ更改契約ハ無効ニ歸スヘキモノニ非ス (大正六、六、一五)

○賭博債務ニ付債權ノ讓渡アリテ債務者之ヲ承諾シタル事實又ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ノ事實アリタリトセハ債務者ハ民法第四百六十八條第一項又ハ同第五百十六條ニ依リ讓受人又ハ新債權者ニ對シテハ賭博債務無効ノ事由ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正一、三、一〇)

第二章 契約

第一節 總則

第一款 契約ノ成立

○送金依頼者ヨリ送金受取人ニ宛テタル送金案内電信送達紙ヲ持參スル者ニ對シ爲替金ヲ支拂フヘク之ニ關スル一切ノ故障ハ送金依頼者ニ於テ擔當スヘキ趣意ノ特約ハ送金依頼者ニ於テ送金ニ伴フ危險負擔ヲ約スルニ外ナラスシテ有效ナリトス (大正元、一〇、八)

○渡船營業ヲ爲スニ付官廳ノ許可ヲ受クルモ爲メニ渡船營業權ナル一ノ財産權ヲ生スルモノニアラサレハ渡船營業權ナルモノヲ以テ讓渡ノ目的ト爲スモ其讓渡ハ無効ナリ (大正四、六、八)

○鑛業權者ハ自身ニ又ハ自己ノ責任ニ於テ鑛業代理人ヲ以テ鑛業ヲ管理シ鑛物ノ採掘ヲ爲スコトヲ要スルモノニシテ其鑛業權ヲ目的トシ鑛業權者ニアラサル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一任シ鑛物ノ採掘收益ヲ爲サシムルカ如キ契約ハ無効ナリトス (大正五、一、三〇)

○契約證書ニ署名シタル者ハ其契約證書ニ記載シタル明文ニ依據シ契約ヲ爲シタルモノト推定セラルヘキモノナルヲ以テ裁判所カ契約證書ノ真正ニ成立シタルコトヲ認メタル以上ハ之ニ署名シタル者ニ於テ證書

大	二	九	七九
大	六	四	五〇〇
大	三	一〇	一
大	二	九	八四

大	元	二	二七
大	四	三	一八七
大	五	三	九〇〇

記載ノ明文ニ依據シ契約ヲ爲シタルモノト一應認メサルヘカラスト雖
之カ爲メニ他ノ事實若クハ證據ヲ資料トシテ以テ契約者ノ眞意ヲ判斷
シ其眞意カ證書記載ノ明文ニ符合セサルモノト認ムル場合ニ於テハ其
明文ニ反シテ契約ノ趣旨ヲ解釋スルコトヲ得サルモノニ非ス (大正六、
三、九)

○漁業權讓渡ノ契約ハ朝鮮總督ノ許可ニ依リ始メテ權利移轉ノ效力ヲ生
スルモノニシテ其許可以前ニ在リテハ單ニ當事者間ニ權利ヲ移轉スヘ
キ債權的權利義務ヲ生スルニ止マルモノトス (大正六、一、九)

○漁業權讓渡ノ契約アリタルモ未タ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ漁業權
ノ移轉セサルニ先タチ其漁場ニ於テ利益ノ收得ヲ爲シタル讓受人ノ行
爲ハ讓渡人ノ漁業權ヲ侵害シタルモノニ外ナラス (大正六、一、九)

○鑛業權者ニ非サル他人ニ採掘ノ權利ヲ授與シ之ニ鑛業ノ管理經營ヲ一
任スルニ非スシテ鑛業權者カ他ノ者ト契約シ鑛業權者自ラ手ヲ下シテ
採取ヲ爲サス其者ヲシテ鑛業權者ノ監督ノ下ニ其從業者トシテ鑛物ノ
採取ニ從事セシメ採取シタル鑛物ニ對スル權利ハ採取ト同時ニ鑛業權
者ヨリ採取者ニ移轉セシムルカ如キハ鑛業權者自カラ鑛業ノ管理經營
ヲ爲スモノニ外ナラサレハ如上ノ契約ハ無効ニ非ス (大正六、一、二七)

六	四一五
六	四九二
六	四九二
六	四〇一

○鑛業權者カ自己ノ經營スル鑛山ニ於テ其監督ノ下ニ採取者ヲシテ鑛物
ヲ採取セシムル場合ニ於テモ鑛物ノ所有權ハ先ツ鑛業權者ニ歸スヘキ
ハ當然ナレトモ鑛業權者ト採取者トノ間ニ於ケル契約ヲ以テ採取者カ
採取シタル鑛物カ鑛業權者ノ所有ニ歸スルト共ニ即時ニ該所有權ヲ採
取者ニ移轉スヘキ旨ヲ定ムルハ契約當事者ノ自由ニシテ之ヲ禁止スヘ
キ理由ナシ (大正六、一、二七)

○鑛業權ノ讓渡ハ之ヲ鑛業原簿ニ登録スルニ非サレハ其效力ヲ生セサル
モノナルカ故ニ鑛業權讓渡契約ニ因リテ生シタル讓受人ノ權利ハ其登
録ヲ經サル間ハ當事者間ニ債權的效力アルニ過キス從テ其讓受人ハ未
タ鑛業權者ニ非ス而シテ鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者ハ刑
罰ニ處セララルコト朝鮮鑛業令第四十四條第一項ノ規定スル所ナルヲ
以テ鑛業權ノ讓渡人カ其登録前ニ於テ其讓受人ニ對シ鑛物ノ採掘權ヲ
許與スル契約ノ如キハ法令ノ認容セサルモノナルコト明瞭ナリ (大正
九、一、一九)

○朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ鑛業原簿ニ登録ヲ爲スニ非サレハ其效力
ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登録前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタ
ルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セララル

六	四〇一
九	七四五

ヲ免レス從テ登録前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無効ニ歸スルト同時ニ授受シタル代償金ハ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス (大正一一、六、三〇)

大 二 九 三 三

○營業讓渡ノ契約アリタルトキハ當事者間ニ其意義ヲ明示セサル限りハ營業財産ノ包括的移轉ヲ目的トスル契約ナリト解スヘク官廳ノ許可ニヨル營業自由ノ如キ一個財産權トシテ讓渡シ得ヘカラサルモノノ移轉ヲ目的トスル契約ナリト解スヘキモノニアラス (大正七、四、三〇)

大 七 五 三 三

○漁業權者カ單ニ自己ノ權利ニ屬スル漁場ニ於テ他人ト共同シテ漁業ヲ經營スヘキ旨ノ約旨ト漁業權者カ自己ノ有スル漁業權ヲ他人トノ共有ト爲スヘキ旨ノ約旨トハ彼此其内容ヲ異ニスルモノナルカ故ニ縱令前者ノ契約ヲ肯定シタルトキト雖當然後者ノ契約ノ存在ヲ肯定セサルヘカラサルモノニ非ス (大正八、三、二一)

大 八 六 一 三

○大正二年三月朝鮮總督府訓令第八號朝鮮總督府郵便所長服務規程第二條第二項カ郵便所長ノ第三者ノ行爲ニ因ル民事上ノ損害賠償責任ヲ規定セルモノナリトセハ訓令ヲ以テハ斯ル事項ヲ定メ得ヘキモノニ非サ

- レハ同服務規程ハ法律トシテ一般遵由ノ效ナカルヘシト雖當事者カ同服務規程ノ規定ヲ援用シ其契約ノ内容ト爲スハ何等妨ナキ所ニシテ其事項カ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反セサル限り之ヲ内容トスル契約ハ有效ニシテ當事者カ之ニ羈束セラルヘキコト言フ俟タス (大正九、三、二)
- 右郵便所長服務規程第二條第二項ハ郵便所所屬ノ雇員又ハ傭人カ其職務ノ執行ニ關シ其行爲ニ因リ政府ノ損害ヲ惹起シタルトキハ其行爲カ不可抗力ニ基因スル場合ノ外總テ郵便所長ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキ義務アリトスル趣旨ナリ從テ雇員又ハ傭人ノ行爲カ犯罪行爲ナルトキト雖モ苟モ其行爲カ其職務ノ執行ニ關連シ之ニ因リテ政府ニ損害ヲ生セシメタル以上ハ郵便所長ニ於テ其損害ヲ賠償セサルヘカラサルモノナルモ之カ爲同規定ヲ内容トスル契約ハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスルモノト云フヲ得ス (大正九、三、二)
- 契約ノ内容カ重要ナル事項ニ屬シ且同種ノ契約ニ付契約書ヲ作成スルヲ以テ通常ノ事態ナリトスルモ該契約カ書面ノ作成ヲ以テ成立ノ要件ト爲スモノニ非サル限り契約書ノ存在セサル一事ヲ以テ當該契約ノ存在ヲ否認スルノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス (大正九、五、一四)
- 同時ニ締結シタル契約ト雖之カ證書ヲ作成スルニ當リテハ必スシモ一

大 九 七 六 二	大 九 七 六 二	大 九 七 六 二
大 九 七 一 七 一	大 九 七 一 七 一	大 九 七 一 七 一

○箇ノ書面ニ其全部ヲ網羅セサルヘカラサルモノニ非スシテ數箇ノ書面ニ分割記載スルモ何等ノ妨ケナク又代理人カ其契約書ヲ作成スル場合ニ於テ一ハ本人ヨリノ授權ニ基キ本人名義ヲ用ヒ一ハ代理人名義ヲ用フルモ何等妨ケナキモノトス (大正一〇、七、二二)

○多衆ノ私有地ヲ包含スル地域ニ於ケル水利灌溉事業經營ノ許可ヲ得タル者カ同一事項ニ付許可ノ出願ヲ爲サントスル者トノ間ニ若シ前者カ許可ニヨリ得タル權利ヲ主張セサルコトヲ表明スルニ於テハ後者ノ許可ヲ容易ナラシムルコトヲ得ヘシトノ豫想ノ下ニ一種ノ出捐契約ヲ爲シ其内容ニ於テ前者ハ後者カ一定ノ報酬ヲ支拂フナラハ自己ハ已ニ許可ニヨリ得タル權利ヲ主張セサルヘク後者ハ之ニ對シ自己カ新ニ許可ヲ得タルトキハ所定ノ報酬ヲ支拂フヘキコトヲ約シ而カモ當事者ハ前者カ許可ニ依リ得タル權利ヲ讓渡スルニ非ス唯主觀的考察ニ於テ前者カ約旨ヲ守リ後者カ許可ヲ得ル場合ニハ恰カモ前者ノ權利ノ承繼アリタル場合ニ等シキ損益ヲ生スヘキコトヲ想見シ豫期ノ場合カ實現シタルトキハ之ヲ以テ權利ノ承繼ト看做シ後者ヨリ其報酬ヲ支拂フ約旨ナルトキハ斯ル契約ハ有效ニ成立スルモノトス (大正一一、六、二〇)

○雙務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行ヲ俟ツテ自己ノ債務ヲ履行

大 二〇 八二五

大 二二 九三二

スヘキ特約アリト主張シタル場合ニ裁判所カ其ノ何レノ主張特約ヲモ認メ得サルトキハ雙務契約上債務履行ノ原則ニ依リ各當事者ノ債務ハ之ヲ引換ニ履行スヘキモノト判定スヘキモノトス (大正一一、五、四)

○契約履行ノ終期ヲ約定スルニ一定ノ期日ヲ以テシタル場合ニ其ノ最終ノ期日ニ於テハ其ノ時刻ノ何時タルヲ問ハス當事者ノ一方カ其ノ債務ノ履行ヲ提供シ之ト引換ニ爲スヘキ相手方ノ債務ノ同時履行ヲ請求スルヲ得ト爲スハ當事者カ期日ヲ約定シタル本旨ニ副フモノト謂フヘク期日ハ其ノ日ノ午後十二時ヲ以テ終了スヘキモノナレハ特別ノ慣習又ハ契約ナキ限り當事者ハ同時刻ノ終了ニ至ル迄互ニ相手方ノ之ヲ爲スヘキコトヲ期待セサルヘカラサルモノト解スルヲ相當トス (大正一二、五、四)

○漁業權讓渡ノ契約ハ朝鮮總督ノ許可ニ依リテ始メテ權利移轉ノ效力ヲ生シ其ノ許可以前ニ在テハ單ニ當事者間ニ漁業權ヲ移轉セシムヘキ債權的權利關係ヲ生スルニ過キス而シテ此種債權的權利ノ讓渡ニ付テハ債權讓渡ノ手續ヲ履踐スヘキモノナルヲ以テ許可以前ニ於テ讓受人ヨリ更ニ他人ニ讓渡シタルトキハ新ニ之ヲ讓受ケタル者ハ漁業權者ト協力シテ漁業權讓渡ニ因ル許可出願ノ手續ヲ爲スヘキモノトス (大正一二、

大 二二 一〇 二三四

大 二二 一〇 二三四

六、二二

○讓受人カ許可以前ニ於テ前示債權的權利ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ他ニ特別ノ事由ナキ限りハ讓渡ニ依リテ其ノ權利關係ヲ脫退シタルモノト認ムルヲ相當トス從テ脫退後ニ於テ欺罔手段ヲ施シ自己名義ニ許可出願ノ手續ヲ爲サシムルノ權利ヲ獲得シタルトキハ財產上不法ノ利益ヲ得タルモノニシテ詐欺罪ヲ構成スルモノトス (大正二二、六、二二)

○現在ニ漁業權名義ヲ有セサル者ニ對シテ漁業權讓渡ニ因ル許可出願ノ手續ヲ爲サシムル債權的權利ヲ獲得スル民事訴訟ヲ提起シ其ノ勝訴ノ確定判決ヲ得タルトキト雖財產上ノ利益ヲ有スルニ至ルコト明ナルヲ以テ其ノ權利取得ハ欺詐罪ノ目的タルコトヲ得ルモノトス (大正二二、六、二二)

○契約ハ二人以上ノ當事者ノ相對立セル意思表示ノ合致ヲ其ノ缺クヘカラサル要素トスル法律行為ナレハ其ノ一方ニ屬スル者ハ同時ニ其ノ相手方タルコトヲ得ス隨ツテ裁判所カ多數當事者間ニ一ノ契約ノ成立シタルコトヲ認定スルニハ其ノ雙方ニ屬スル各人ハ互ニ別異ノ人タルコトヲ明ニスルコトヲ要ス (大正二二、九、一八)

○漁業組合ノ有スル漁業權ニ付一部ノ組合員カ組合規約ニ依リ一定ノ地

大 三三〇 八三

大 刑 三三〇 八三

大 刑 三三〇 八三

大 三三〇 二六七

先海面ニ於テ特定ノ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル場合ニ於テ組合規約ニ別段ノ定ナキ限り該組合員ハ其ノ權利ヲ有セサル他ノ組合員ニ對シ其ノ地先海面ニ於テ一定ノ期間同種ノ漁業ヲ爲スコトヲ認容スル趣旨ノ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス斯ル契約ハ一ノ債權契約トシテ有效ナリトス (大正一三、九、二六)

○數人カ各自堀ヲ設ケ夫々河川ヨリ引水シテ自己ノ畚ヲ灌漑シ來レル場合ニ河川ノ水量十分ナラスシテ全畚ヲ灌漑スルニ足ラサルトキ各堀ノ何レカ先ニ又幾何ノ量ヲ引水シ得ヘキカノ如キ事項ハ自ラ慣習ニ依リテ定マレル所ナルモ蒙利畚ノ所有者其ノ他利害關係人ノ合意ヲ以テ有效ニ之ニ關スル協定ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (昭和三、一〇、五)

○各別ノ堀ニ依リ引水スル數箇ノ水利權ノ行使ニ關シ權利者相互間ニ爲ス協定ノ效力ハ普通債權關係ニ屬シ一方ハ他方ニ對シ協定ノ趣旨ニ從ヒテ各自ノ水利權ヲ行使スヘキ義務ヲ負ヒ且其ノ效力ハ特別ノ事情存セサル限り特定承繼人ニ及フモノトス (昭和三、一〇、五)

○訴訟ノ當事者間ニ原告勝訴ノ判決確定スルモ強制執行ヲ爲ササルヘキ旨ヲ約シタルニ拘ラス之ニ違反シテ強制執行ヲ爲スハ不當ニシテ相手方ハ之ヲ拒否スルノ權利ヲ有スルモノトス (昭和二、一、二五)

大 三三 一一 二四二

昭 三 一五 二七五

昭 三 一五 二七五

昭 二 一四 二二

朝鮮ニ於ケル穀物市場所屬ノ仲買人ニ對シ市場ニ於ケル穀物ノ延取引ヲ委託シタル場合ニ於テハ別段ノ意思表示ナキ限り當該取引ヲ市場ニ於テ爲スコトヲ要件ト爲シタルモノト認ムヘキモノトス(昭和三、七、三一)

第五百二十一條

○契約ノ申込ハ當事者カ商人タルト否トヲ問ハス契約ノ成立ニ必要ナル内容ヲ包含スルコトヲ要ス換言スレハ相手方カ之ニ對シ直ニ承諾ヲ爲シ得ル程度ニ於テ其内容ヲ有スルモノナラサルヘカラス然レトモ右内容ハ必スシモ申込其モノニ表示セラルルコトヲ要セス慣習又ハ當事者間ノ從來ノ取引状態ヲ參酌シテ其内容ヲ知ルコトヲ得ル場合ト雖モ申込タルヲ妨ケス (大正九、一一、九)

第五百二十六條

○隔地者間ノ契約ハ申込者ノ特別ノ意思表示ニ依リ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テハ契約ハ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アリタル時ニ成立シ其特別ノ意思表示ハ如何ナル表示方法ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (大正七、六、一一)

第二款 契約ノ效力

第五百三十三條

○雙務契約ニ於テ同時履行ノ義務アル場合ニ其履行期ヲ經過シ當事者ノ一方カ其義務ヲ履行セサル意思ヲ的確ニ表示シタルトキハ相手方ハ自己ノ義務ノ履行ヲ提供セサルモ其當事者ノ一方ハ義務ノ履行ヲ爲ササル意思表示ニ依リ當然不履行ノ責アルモノナレトモ其意思ノ表示カ履行期前ナルトキハ義務ノ履行ヲ爲サスシテ其期限ヲ經過シタルトキ不履行ノ責任ヲ生スルモノトス (大正六、三、一三)

○雙務契約當事者ノ一方ハ相手方ノ債務履行ヲ提供スルマテ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノナレトモ反對ノ特約アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス (大正七、三、一九)

○同時履行ノ抗辯ナルモノハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムニ在ルヲ以テ自己ノ債務ノ存在ヲ前提トセサルヘカラサルモノニシテ自己ノ債務カ消滅シタリトノ抗辯トハ相容レサルモノトス (大正七、四、五)

○雙務契約當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スニハ特約ナキ限りハ自己ノ債務履行又ハ履行ノ提供ヲ要件トナスモノニ非ス (大正七、五、一四)

○土地所有權移轉登記ノ申請若クハ證明ノ申請カ登記官吏若クハ證明官

三
一五
二七

九
七
三九

七
五
五三

六
四
一六

七
五
二〇

七
五
二三

七
五
三九

○ 更ニ受理セラレタル時直チニ賣買代金ヲ支拂フヘキ旨ノ契約ニ對シテハ同時履行ノ原則ヲ適用スヘキモノニシテ買主ノ代金支拂ノ義務ハ登記又ハ證明カ受理セラレタル後ニ非サレハ履行期ニ達セサルモノト謂フヲ得ス (大正七、五、二八)

○ 債務履行ノ請求拒絶ノ問題ト債務不履行ノ責任問題トハ自ラ別個ノ問題ニ屬シ前者ニ付テハ同時履行ノ抗辯權ヲ援用シテ之ヲ行使スルヲ要スト雖後者ニ付テハ然ラサルモノトス (大正七、九、一三)

○ 同時履行ノ債務契約ニ在リテ當事者ノ一方ニ債務不履行ノ責任アリト爲スニハ相手方ニ於テ自己ノ債務ヲ提供シ他ノ一方ノ履行ヲ催告シ他ノ一方カ其ノ債務ヲ履行セサルコトヲ要スルモノナレハ相手方カ其債務ヲ提供セスシテ單ニ期日ニ至リ他ノ一方ニ對シ債務ヲ履行スヘキコトヲ催告シタル場合ニ他ノ一方カ其ノ債務ノ履行ヲ爲ササルモ不履行ノ責アリト爲スヲ得サルモノニシテ相手方ノ履行ノ催告ニ對シ同時履行ノ抗辯ヲ爲シタルト否トハ敢テ問フ所ニ非ス (大正八、六、一四)

○ 同時ニ履行スヘキ債務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ヲシテ履行遲滯ノ責ニ任セシムルニハ自己ノ債務ニ付辨濟ノ提供ヲ爲ササルヘカラス然ラサルトキハ相手方カ縱令辨濟ヲ爲サスシテ履行期日ヲ經

大 七
大 五
大 四六一

大 七
大 五
大 七九

大 八
大 六
大 四七

過スルモ之カ爲ニ直ニ遲滯ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス從テ相手方ノ遲滯ヲ前提トスル民法第五百四十一條ノ契約解除權ハ發生セサルモノトス (大正九、六、八)

○ 雙務契約ノ當事者ノ一方ハ先ツ自己ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ縱令其ノ債務ヲ履行セサリシトスルモ履行遲滯ノ責ヲ負フコトナシ (大正九、一、三)

○ 雙務契約ノ當事者ノ一方カ會テ一度現實ノ履行ヲ爲シ又ハ相手方カ豫メ受領拒絶ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ履行ニ必要ナル準備ヲ爲シ因テ相手方ヲ受領遲滯ニ付シタリトスルモ其提供又ハ準備ニシテ繼續スル場合ハ格別然ラサルニ於テハ相手方ハ之ニ依リ反對給付ニ付同時履行ノ抗辯權ヲ喪失スヘキモノニ非ス (大正九、二、一七)

○ 相手方カ土地代金支拂ノ義務ヲ負ヒ自己カ土地所有權移轉登記手續履行ノ義務ヲ負ヒ且同時ニ之ヲ履行スヘキ場合ニ於テ登記手續ノ履行ニハ相手方ノ行為ヲ要スルコト勿論ナルヲ以テ之カ提供アリタリト爲スニハ必スシモ登記手續ニ關スル一切ノ書類ヲ登記所ニ持參シ相手方ノ來會ヲ待チ居ルカ如キ現實ノ提供ヲ爲スヲ要セス相手方カ受領ヲ申出ツルニ於テハ何時ニテモ現實ノ提供ヲ爲シ得ル程度ニ之ヲ準備シ其旨

大 九
大 七
大 二二二

大 九
大 七
大 四三九

大 九
大 七
大 五二

ヲ通知シテ其受領ヲ催告スルヲ以テ足り其準備アリタリト爲スニハ必
スシモ登記手續ニ關スル一切ノ書類ヲ登記所ニ持參スルヲ要セス又必
スシモ自身登記所ニ出頭シテ相手方ノ來會ヲ待チ居ルヲ要セサルモノ
トス (大正九、六、九)

○不動産買賣契約ニ於テ當事者カ不動産ノ所有權移轉登記(若クハ證明)
濟ノ上代金ヲ支拂フコトヲ約シタル場合ニ於テハ其約旨ハ特別ノ事情
ナキ限り不動産所有權移轉登記(若クハ證明)義務ト代金支拂義務ト同
時ニ履行スヘキコトヲ約シタルモノト解スヘキモノトス (大正九、一二、
三)

○原告カ被告トノ間ニ同時履行ノ雙務契約ノ締結セラレタルコトヲ原因
トシ被告ニ對シ自己ノ債務履行ト引換ニ反對給付タル債務ノ履行ヲ請
求シ被告カ自己ノ債務ヲ爭フノミナラス原告ヨリ受クヘキ反對給付ノ
内容範圍ヲ爭ヒ原告ノ同時履行ノ請求ヲ拒絶セントスル意思ノ認め得
ヘキ場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ債務ニ付テノミ判斷スルニ止マラス
更ニ其反對給付タル原告ノ債務ノ内容範圍カ原告ノ主張ノ如キモノナ
ルヤ否ヲ確定スルニ非サレハ原告ノ請求ヲ是認スヘキニ非ス (大正九、
一一、二一)

○雙務契約ニ於テ當事者雙方ノ債務ヲ同時ニ履行スヘキ場合ニ當事者一
方カ自己ノ債務ノ履行ヲ提供スルコトナク單ニ相手方ニ其債務ノ履行
ヲ請求シタルニ對シ相手方ヨリ同時履行ノ抗辯ヲ提出シタルトキハ裁
判所ハ特ニ原告ニ於テ反對ノ意思ヲ表示セサル限りハ被告ニ其債務ノ
履行ヲ條件トシテ交換的ニ債務ノ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ與フヘキ
モノトス (大正一〇、九、二〇)

○原告カ雙務契約ノ當事者ニ非サルモ其當事者ノ債權者トシテ自己ノ債
權ヲ保全スル爲其債務者タル當事者一方ノ相手方ニ對スル債權ヲ行使
セントスル場合ニ於テ其相手方タル被告カ同時履行ノ抗辯ヲ提出シタ
ルトキト雖債權者カ現實ノ履行ヲ爲ササル間ハ其履行ト交換的ニ被告
カ原告ニ履行ヲ爲スヘキ旨ノ判決ヲ爲スヘキモノトス (大正一〇、九、二〇)
○雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ債務ノ提供ヲ爲スモ相手方ニ於テ其債
務履行ヲ爲ササル意思明確ナル場合ニハ假令一方ハ自己債務ノ提供ヲ
爲ササルモ相手方ハ期限ヲ徒過スルト共ニ遲滞ノ責ヲ免レサルモ而カ
モ此場合ニ於テモ少クトモ一方ニ眞實債務ヲ履行スルノ意思ヲ有セサ
ルヘカラサルモノトス (大正一〇、一〇、一四)

○同時履行ノ雙務契約ニ在リテハ當事者ノ一方ハ先ツ自己ニ屬スル債務

大 一〇 八 二九六

大 一〇 八 二七五

大 一〇 八 二七五

大 九 七 二三二

大 九 七 四三九

大 九 七 四九六

○ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ其期限ニ債務ヲ履行セサルモ此一事ヲ以テ直ニ不履行ノ責アリト爲スコトヲ得ス (大正一〇、一〇、二五)

○同時ニ履行スヘキ雙務契約ニ於テ當事者雙方カ契約ニ定メタル履行期日ニ各債務ノ履行ヲ爲サスシテ期日ヲ徒過シタルトキハ爾後該債務ハ期限ノ定メナキ債務ト同一視シ何時ニテモ雙方ヨリ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノナルモ之カ爲雙方ノ債務カ各獨立シタル片務契約ニ變スルモノニ非ス依然トシテ雙務契約タル性質ヲ有スルモノナレハ更ニ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ニ對シ其債務ノ履行ヲ請求シ相手方カ其債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ始メテ債務者ニ遲滯ノ責任ヲ生ス債務ノ履行ノ提供アリタルニ拘ラス債權者カ債務ノ履行ノ受領ヲ拒ミタルトキハ提供アリタルトキヨリ遲滯ノ責ニ任ス (大正一〇、一一、一五)

○當事者雙方ノ債務ヲ同時ニ履行シ得ヘキ雙務契約ニ於テ日ヲ以テ履行期限ヲ定メタル場合ニ於テハ期日ノ最初ノ時間ヨリ最終ノ時間ニ至ル迄ヲ以テ履行期限ト約シタルモノト解スヘク從テ縱令期日ノ中間時ニ於テ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ履行ヲ請

大
一〇
八
三四九

大
一〇
八
四四

求シタルトキト雖別段ノ事情ナキ限り (例令ハ商法第二百八十三條所定ノ如キ場合) 相手方ハ直ニ其請求ニ應スル義務ナク期日ノ最後ノ瞬間迄ニ自己ノ債務ノ履行ヲ爲スコトヲ得ヘク從テ當事者ノ一方ニ於テモ其瞬間迄ニ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ (大正一〇、一一、二九)

○賣買ノ當事者間ニ一定ノ期日ニ一定ノ場所ニ於テ同時ニ各自ノ義務ヲ履行スヘキコトヲ約定シタル場合ニ於テ一方ノミカ該期日ニ自己ノ義務履行ノ準備ヲ爲シテ該場所ニ到リ相手方ハ同日同所ニ到ラサルトキハ一方ノ當事者ハ現實ニ自己ノ義務履行ノ提供ヲ爲シ得サルヘキハ勿論ナレハ斯カル場合ニハ其ノ一方ノ當事者ハ自己ノ遲滯ノ責任ヲ免ルヘキ有效ナル履行ノ提供ヲ爲シタルモノト爲シ相手方ニハ遲滯ノ責任發生スルモノトス (大正一一、一一、一〇)

○同時ニ履行スヘキ雙務契約ノ場合ニ於テ相手方ヲ遲滯ニ付スルニハ管ニ相手方ニ債務不履行ノ事實アルノミヲ以テ足レリトセス自己ノ債務履行ヲ提供セサルヘカラサルモノトス (大正一一、一一、二二)

○同時履行ノ雙務契約ニ在リテ其ノ債務ノ履行カ期限ノ定メナク且當事者ノ一方カ豫メ相手方ノ履行ヲ受領スルコトヲ拒絶シ自己ノ義務ヲ履

大
一〇
八
四八

大
一一
九
四七〇

大
一一
九
四九七

行セサル意思明確ナル場合ニハ相手方タル債權者ハ其ノ當事者ノ一方ニ對シ現實ニ義務ノ履行ヲ提供シ若クハ履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知スルノ要ナク單ニ履行ノ催告ヲ爲スニ依リ遲滯ニ付シ得ヘキモノナルヲ以テ斯ル場合ニ債權者カ相當期間ヲ定メテ履行ノ催告ヲ爲シタルトキハ其ノ催告ハ一面債務者ヲ遲滯ニ付スル效力ヲ有スルト同時ニ一面ニハ民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告タル效力ヲ有シ其ノ期間ヲ經過シ履行ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノニシテ債務者ヲ遲滯ニ付スル催告ト民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告トヲ區別シ前後時ヲ異ニシ二重ニ催告ヲ爲スノ要ナキモノトス
(大正一一、一二、一四)

○前項ノ場合ニ其ノ相當期間ヲ定メ履行ノ催告ヲ爲スニ當リ債權者ハ期間内ニ履行ナキトキハ期間ノ經過ト同時ニ契約ハ解除セラルヘキ旨條件附ニテ解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得 (大正一一、一二、一四)

○雙務契約ニ因リテ生シタル債務カ同時ニ履行ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ履行ニ付期限ノ定ナキトキハ當事者ノ一方ノ債務履行ト同時ニ當然相手方ニ遲滯ノ責任ヲ生スヘキモノニ非スシテ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ニ對シ其ノ債務ノ履行ヲ請求シタルニ拘

大 三三
大 一〇 三四九

大 三三
大 一〇 三五〇

ラス相手方カ債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ始メテ相手方ニ遲滯ノ責任ヲ生スヘキモノトス (大正一一、一二、一四)

○雙務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行ヲ俟ツテ自己ノ債務ヲ履行スヘキ特約アリト主張シタル場合ニ裁判所カ其ノ何レノ主張特約ヲモ認メ得サルトキハ雙務契約上債務履行ノ原則ニ依リ各當事者ノ債務ハ之ヲ引換ニ履行スヘキモノト判定スヘキモノトス (大正一一、一二、一四)

○雙務契約ノ當事者カ互ニ相手方ノ債務履行アリタル後ニ自己ノ債務ヲ履行スヘキ特約アリト主張シタル場合ニ於テ其ノ何レノ主張スル特約ヲモ認メ得ヘキ資料ナキトキハ各當事者ノ債務ハ同時履行ノ債務ナリト判定スヘク斯ク判定シタルハトテ當事者ノ主張セサル事實ヲ認定シタル違法アリト爲スヲ得ス (大正一四、一五、二七)

○契約解除ノ效果ハ相對的ナルカ故ニ第三者ノ權利關係ニ影響ヲ及ホササルモノニシテ此ノ第三者中ニハ物權ヲ讓受ケタル特定承繼人ヲ包含スルコト當然ナリ (昭和二、四、一五)

○信託者カ不動産ヲ信託行爲ニ依リテ讓渡シタル後該信託契約ヲ解除シタル場合ニ於テ其ノ以前ニ受託者ヨリ第三者ニ讓渡シ其ノ登記ヲ經由シタルトキハ此ノ第三者ニ對シ其ノ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス解

大 三三
大 一〇 二
大 六

大 三三
大 一〇 二四

大 三三
大 一〇 二

大 三三
大 一〇 二

除ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス (昭和二、四、一五)

第五百三十四條

○不特定物タル黄鐵ヲ給付スヘキ持參債務ニアリテ債務者カ契約ノ目的物ヲ運送人ニ託シ發送シタルノミニテハ債務者ハ未タ民法第四百一條第二項ニ所謂給付ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ完了シタリト爲スヲ得サルヲ以テ不特定物タル黄鐵ハ之ニ依リ特定セス從テ危險負擔ニ關スル民法第五百三十四條第一項ノ規定ハ其適用ナク其運送中ニ生シタル危險ハ債務者ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノナルカ故ニ該黄鐵カ運送中ニ滅失シタル如キ場合ニハ債務者ハ更ニ其債務ノ履行ヲ爲ササルヘカラス (大正九、一二、一〇)

第五百三十六條

○未登記若クハ未證明ノ不動産所有權ヲ賣買シ移轉ノ登記若クハ證明ヲ爲シタル後代金ヲ支拂フヘキ旨ノ契約成立シタルトキハ賣主ハ先ツ以テ自己名義ノ所有權保存ノ登記若クハ證明ヲ受ケ然ル後之ヲ買主ニ移轉ノ登記若クハ證明ヲ爲スヘキ義務ヲ負フモノニシテ之ヲ履行セサル間ハ代金ノ支拂ヲ請求スルコト能ハサルモノナレトモ買主ニ於テ其買受ケタル所有權ヲ處分シ其處分行爲ニ因リ土地調査令ニ依ル査定ヲシ

昭 二 一四 一三

大 九 七 四六二

テ確定スルニ至ラシメタルトキハ即チ買主ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ登記若シクハ證明ノ義務履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルモノニ外ナラサルヲ以テ賣主ハ民法第五百三十六條第二項ノ趣旨ニ依リ代金請求ノ權利ヲ行使シ得ルモノトス (大正七、二、一)

第五百三十七條

○契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ契約ノ利益ヲ享受スルノ意思ヲ表示シ第三者ノ權利發生シタルトキハ爾後當事者ハ雙方ノ合意ヲ以テ契約ヲ解除シ第三者ノ權利ヲ消滅セシムルコトヲ得サルモノトス (大正一一、八、二五)

第三款 契約ノ解除

第五百四十條

○契約ノ解除ト契約ノ履行トハ全然相反スル行爲ニシテ二者併存スルモノニ非ス從テ解除ノ意思ヲ表示シタル以上ハ履行タル代金ノ受領ヲ拒絶スル意思ヲモ表示シタルモノト認定スルハ不法ニ非ス (大正四、四、二〇)
○還退ナル文詞ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル解除條件附特約ノ場合ニ於テハ買戻ノ意義ニ使用セラルルヲ通例トスト雖賣買契約後ニ於テハ或ハ單純ナル同契約解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ條件ヲ附シタル同契約

大 七 五 三三

大 二 九 三五

大 四 三 三二

解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ再賣買ノ豫約ノ意義ニ使用セラレル等種々ノ場合アルヘキヲ以テ朝鮮一般ニ行ハルル慣習上常ニ必ス單純ナル契約解除ノ意義ノミニ使用セラレルモノト謂フヲ得ス (大正六、三、一三)

○當事者カ契約締結後履行完了前ニ於テ契約解除ノ合意ヲ爲スコトハ當事者ノ自由ニシテ其合意ハ有效ナリ (大正六、六、二九)

○契約ノ當事者ハ其一方ニ不履行ノ責アル場合ト否トヲ問ハス雙方合意ノ上契約ヲ解除スルコトヲ得 (大正九、二、二四)

○保管ノ目的ニ出テタル信託所爲ニアリテハ信託者ハ其一方ノ意思表示ニ依リ任意ニ其信託契約ヲ解除スルコトヲ得 (大正八、一〇、一四)

○所有權移轉ノ登記方法ニ關スル契約ハ基本タル所有權移轉契約ノ存在ヲ前提トシ之ニ從タル契約ニ外ナラサルヲ以テ基本タル契約カ解除セラルルトキハ其解除ノ效力ハ當然從タル契約ニモ及フヘキモノナレハ縱令其從タル契約ニ第三者ノ加入シタルトキト雖特ニ其者ノ同意ヲ求メ若ハ之ニ解除ノ意思表示ヲ爲スノ要ナク從タル契約ハ基本タル契約ト共ニ當然解除ニ歸スヘキモノトス (大正八、四、一五)

○契約解除ノ意思表示ニ付テハ法律上一定ノ方式ヲ要スルコトヲ規定セサルヲ以テ明示ノ方法ニテ又ハ默示ノ方法ニテ之ヲ爲スコトヲ得ヘキ

六	六	六	六
四	四	四	四
一八九	一八九	一八九	一八九
六	六	六	六
四〇一	四〇一	四〇一	四〇一
九	九	九	九
七五八	七五八	七五八	七五八
六	六	六	六
六五六	六五六	六五六	六五六
八	八	八	八
六三九	六三九	六三九	六三九

ニ因リ解除權ヲ有スル者カ契約ノ存續ト相容レサル訴狀ヲ裁判所ニ提出シ其訴狀カ相手方ニ送達セラレタルトキハ暗黙ニ契約解除ノ意思表示ヲ爲シタルモノト解スヘキモノトス (大正八、六、一三)

○物ノ保管ヲ目的トスル信託讓渡契約ニ於テ信託者ハ相手方ニ對シ契約ノ主タル效力トシテ物ノ保管ヲ請求シ得ルト共ニ契約ノ從タル效力トシテ何時ニテモ物ノ返還ヲ請求シ得ヘキカ故ニ信託者ハ何時ニテモ相手方ノ同意ヲ得スシテ契約關係ヲ解消スル目的ヲ以テ物ノ返還ヲ請求シ得ヘシト雖契約關係ノ消滅ハ請求ニ因リテ發生スルモノニ非スシテ返還義務ノ消滅ニ因リテ發生スヘキモノトス (大正一一、一一、一七)

○契約ニ依リ當事者ノ一方カ第三者ニ對シ或給付ヲ爲スコトヲ約シタル場合ニ於テ第三者カ契約ノ利益ヲ享受スルノ意思ヲ表示シ第三者ノ權利發生シタルトキハ爾後當事者ハ雙方ノ合意ヲ以テ契約ヲ解除シ第三者ノ權利ヲ消滅セシムルコトヲ得サルモノトス (大正一一、八、二五)

○民事訴訟法第三百八十一條ニ依レル和解ハ私法上不成立又ハ無效若ハ取消又ハ解除ノ原因アルトキハ特ニ和解無效又ハ取消等ノ形成判決ヲ受クル迄モ無ク此等ノ效果ヲ生スルモノトス (大正一三、五、二二)

○指名債權ヲ讓渡シタル後ニ至リ其ノ讓渡契約ヲ解除スルコトハ當初ヨ

大	大	大	大
二	二	二	二
九	九	九	九
三三五	三三五	三三五	三三五
二	二	二	二
二	二	二	二
一三〇	一三〇	一三〇	一三〇

○ 契約ヲ締結セサリシカ如キ状態ニ回復セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ當事者ノ合意アル場合ニハ有效ト解スルコトヲ妨ケス
(昭和二、四、一一)

○ 右ノ場合ニ債權者ノ交替スルコトハ讓渡ノ場合ト異ナラサルカ故ニ之ヲ債務者ニ通知スルカ又ハ債務者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス而シテ債務者ニ對スル通知ハ債權讓渡人ヨリ爲スヲ以テ足ルモノトス (昭和二、四、一一)

○ 債權讓受人ヨリ讓渡契約解除ノ通知ヲ爲シタル以上ハ反證ナキ限り適法ニ解除アリタルモノト推認スルヲ相當トス (昭和二、四、一一)

○ 民法第四百二十三條ニ依ル代位權ノ行使ハ債權者自己ノ名ニ於テ債務者ノ權利ヲ行使スルモノナルニ依リ第三者ハ債務者ニ對スルト同シク債權者ニ對シテモ契約解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得 (昭和三、二、二八)

第五百四一條

○ 契約當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行スルニアラサレハ契約ノ目的ヲ達セサル場合ヲ除クノ外相手方ハ履行ヲ催告シ若シ其履行ナキトキハ契約ヲ解除スルヲ得ヘク其履行ノ催告ヲ爲スニ當リテ相當期間ヲ定ムルヲ要セサルコトハ朝鮮

昭 二 二四 一〇五

昭 二 二四 一〇五

昭 二 二四 一〇六

昭 三 一五 五三

ニ於ケル慣習トス (明治四五、六、一八)

○ 民法第五百四一條ノ規定ニ從ヒ履行ヲ催告スル爲メ定メタル期間カ相當ノ期間ナリヤ否ヤハ抗辯トシテ提出セラレタル場合ニ於テ始メテ判定スヘキモノニシテ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ屬セサルモノトス (大正四、一〇、二六)

○ 朝鮮ニ於テ從來朝鮮人間ノ契約ノ解除ニ付テハ當事者ノ一方カ其債務ヲ履行セサルトキハ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行スルニアラサレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達セサル場合ヲ除ク外相手方ハ履行ヲ催告シ若シ其履行ナキトキハ契約ヲ解除スルヲ得ヘク其履行ノ催告ヲ爲スニ當リテ相當期間ヲ定ムルヲ要セサル慣習ハ明治四十五年四月一日朝鮮民事令ノ施行ト同時ニ廢滅ニ歸シ其以後ニ於テハ民法ノ規定ニ準應シ一定ノ日時若クハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニアラサレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達セサル場合ハ催告ヲ要セサルモ否ラサル場合ニ於テハ一應相當期間ヲ定メ催告ヲ爲シ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキニアラサレハ契約ヲ解除スルヲ得サルモノトス (大正六、一〇、二三)

○ 契約當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ期間ヲ定メテ契約履行ノ催告ヲ爲スト同時ニ右期間内ニ履行ナキトキハ契約ヲ解除スル意思表示ヲ爲シ

明 四五 一四八二

大 四 三 三〇三

大 六 四 八六

タル場合ニ於テハ右期間ノ經過ニ因リ契約解除權發生スルト同時ニ契約ハ解除セラルルモノトス (大正六、三、六)

○契約當事者ノ一方カ相手方ニ對シ約旨ニ從ヒ契約ノ履行ヲ求メタルモ相手方カ其履行ヲ拒ミタルニ依リ之ニ對シ該契約解除ノ意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テ其相手方ノ意思ヲ推測シテ解除ノ意思表示ヲ承諾シタルモノト爲スヲ得ス (大正六、一一、一六)

○債務者カ豫メ債務ノ履行ヲ拒絶スル場合ニ於テモ債權者カ契約ヲ解除スルカ爲メニハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告スルコトヲ要ス (大正六、一一、一六)

○朝鮮人間ノ契約ノ解除ニ付テモ明治四十五年四月一日朝鮮民事令施行以後ニ於テハ民法ノ規定ニ從ヒ一定ノ日時又ハ一定期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ハ格別其他ノ場合ニ於テハ一應相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲スヲ得サルモノトス (大正七、二、二六)

○種類ニ從ヒ定メタル物ヲ數回ニ分割シテ供給スヘキ賣買契約ノ場合ハ數箇ノ契約ヲ締結シタル場合ト異ナリ一箇ノ契約ニシテ唯其履行期ヲ

六
四
一
四

六
四
九
八〇

六
四
九
八〇

七
五
一
〇六

分割シタルニ過キササルモノナレハ各部分ノ不履行ハ即契約ノ不履行ニ外ナラサルヲ以テ債權者ハ之ヲ事由トシ民法第五百四十一條ニ依リ契約全部ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (大正九、五、一一)

○同時履行ノ雙務契約ニ在リテ當事者ノ一方ニ債務不履行ノ責任アリト爲スニハ相手方ニ於テ自己ノ債務ヲ提供シ他ノ一方ノ履行ヲ催告シ他ノ一方カ其債務ヲ履行セサルコトヲ要スルモノナレハ相手方カ其債務ヲ提供セスシテ單ニ期日ニ至リ他ノ一方ニ對シ債務ヲ履行スヘキコトヲ催告シタル場合ニ他ノ一方カ其債務ノ履行ヲ爲ササルモ不履行ノ責アリト爲スヲ得サルモノニシテ相手方ノ履行ノ催告ニ對シ同時履行ノ抗辯ヲ爲シタルト否トハ敢テ問フ所ニアラス (大正八、六、一四)

○債務ノ履行ニ付期限ノ定メアル場合ニ於テ其履行期以後ノ履行ノ催告ハ債權者ニ於テ大體履行ノ準備ヲ爲シ居ルコトヲ前提トスルモノナレハ債權者ハ其催告ヲ爲スニ付債務者ニ於テ最後ノ履行準備ヲ爲シテ給付ヲ完了スルニ足ルヘキ期間ヲ存スルヲ以テ足ルモノト解スルヲ相當トス (大正九、七、六)

○同時ニ履行スヘキ雙務契約ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ヲシテ履行遲滯ノ責ニ任セシムルニハ自己ノ債務ニ付辨濟ノ提供ヲ爲ササル

九
七
一
六九

八
六
四
七

九
七
三
二九

ヘカラス然ラサルトキハ相手方ハ縱令辨濟ヲ爲サスシテ履行期日ヲ經過スルモ之カ爲ニ直ニ遲滯ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス從テ相手方ノ遲滯ヲ前提トスル民法第五百四十一條ノ契約解除權ハ發生セサルモノトス (大正九、六、八)

○雙務契約ノ當事者ノ一方ハ先ツ自己ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ縱令其債務ヲ履行セサリシトスルモ履行遲滯ノ責ヲ負フコトナシ (大正九、一、三)

○雙務契約ニ於テ當事者ノ一方カ債務ノ提供ヲ爲スモ相手方ニ於テ其債務履行ヲ爲ササル意思明確ナル場合ニハ假令一方ハ自己ノ債務ノ提供ヲ爲ササルモ相手方ハ期限ヲ徒過スルトトモニ遲滯ノ責ヲ免レサルモ而カモ此場合ニ於テモ少クトモ一方ニ眞實債務ヲ履行スルノ意思ヲ有セサルヘカラサルモノトス (大正一〇、一〇、一四)

○同時履行ノ雙務契約ニ在リテハ當事者ノ一方ハ先ツ自己ニ屬スル債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務履行ヲ催告スルニ非サレハ相手方ハ其期限ニ債務ヲ履行セサルモ此一事ヲ以テ直ニ不履行ノ責アリト爲スコトヲ得ス (大正一〇、一〇、二五)

○同時ニ履行スヘキ雙務契約ニ於テ當事者雙方カ契約ニ定メタル履行期

大 九 七 二三

大 九 七 四三九

大 一〇 八 二九六

大 一〇 八 三四九

日ニ各債務ノ履行ヲ爲サスシテ期日ヲ徒過シタルトキハ爾後該債務ハ期限ノ定メナキ債務ト同一視シ何時ニテモ雙方ヨリ履行ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノナルモ之カ爲雙方債務カ各獨立シタル片務契約ニ變スルモノニアラス依然トシテ雙務契約タル性質ヲ有スルモノナレハ更ニ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シ相手方ニ對シ其債務ノ履行ヲ請求シ相手方カ其債務ノ履行ヲ爲ササル場合ニ於テ始メテ債務者ニ遲滯ノ責任ヲ生ス債務ノ履行ノ提供アリタルニ拘ラス債權者カ債務ノ履行ノ受領ヲ拒ミタルトキハ提供アリタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス (大正一〇、一一、一五)

○當事者雙方ノ債務ヲ同時ニ履行シ得ヘキ雙務契約ニ於テ日ヲ以テ履行期限ヲ定メタル場合ニ於テハ期日ノ最初ノ時間ヨリ最終ノ時間ニ至ル迄ヲ以テ履行期限ト約シタルモノト解スヘク從テ縱令期日ノ中間時ニ於テ當事者ノ一方ヨリ自己ノ債務ノ履行ヲ提供シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求シタルトキト雖別段ノ事情ナキ限り(例令ハ商法第二百八十三條所定ノ如キ場合)相手方ハ直ニ其請求ニ應スル義務ナク期日ノ最後ノ瞬間迄ニ自己ノ債務ノ履行ヲ爲スコトヲ得ヘク從テ當事者ノ一方ニ於テモ其瞬間迄ニ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

大 一〇 八 四四五

(大正一〇、一一、二九)

○債務ノ履行ニ付期限ノ定メアル場合ニ於テ債務者カ其期限ヲ怠リタル爲メ債權者カ契約解除ヲ爲サント欲シ履行ノ催告ヲ爲スニハ債務者ハ該期限迄ニ大體履行ノ準備ヲ爲シ居ルコトヲ前提トシ債務者ニ於テ最後ノ履行準備ヲ爲シテ給付ヲ完了スルニ足ルヘキ期間ヲ存スルヲ以テ足ルモノニシテ債權者カ債務者ノ爲メ屢次延期ヲ爲シタル事實ノ如キハ必スシモ催告期間ノ相當ナリヤ否ヤヲ決スル標準ト爲スニ足ラサルモノトス (大正一〇、六、一七)

○民法第五百四十一條ニ規定セル相當ノ期間トハ債務者カ催告ニ因リ始メテ履行ノ準備ニ着手シ以テ其完了マテニ必要トスル如キ十分ノ餘裕ヲ存スル期間ヲ云フモノニアラス唯債務者ノ契約上相當ノ準備ヲ了シタル履行ニ付之レカ實現ヲ期待シ得ヘキ期間ヲ指定スルヲ以テ足レリトスヘク其他債務者個人ノ關係ノミヲ玆ニ之ヲ顧慮スヘキニアラス専ラ客觀的事情即チ之ヲ指定スル債權者ニ於テ當時知り若ハ知ルヘカリシ事情ニ依リテ相當ナリトスル期間ヲ指定スヘキモノトス (大正一一、六、八)

○債權者ノ指定シタル期間ノ當否ヲ判斷スルニ當リ其判斷ノ憑據タルヘ

大 一〇八 四八八

大 一〇八 二三三

大 三二〇 二六六

キ諸般ノ事情ノ存否如何ヲ認定スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルコト論ヲ俟タサル所ナリト雖是等ノ事情カ正當ニ斟酌セラレタルヤ否ヤハ法律問題ニ屬シ上告裁判所ノ判斷ヲ受クヘキ事項ナリトス (大正一一、六、八)

○同時履行ノ雙務契約ニ在リテ其ノ債務ノ履行カ期限ノ定メナク且當事者ノ一方カ豫メ相手方ノ履行ヲ受領スルコトヲ拒絕シ自己ノ義務ヲ履行セサル意思明確ナル場合ニハ相手方タル債權者ハ其ノ當事者ノ一方ニ對シ現實ニ義務ノ履行ヲ提供シ若クハ履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ通知スルノ要ナク單ニ履行ノ催告ヲ爲スニ依リ遲滞ニ付シ得ヘキモノナルヲ以テ斯ル場合ニ債權者カ相當期間ヲ定メテ履行ノ催告ヲ爲シタルトキハ其ノ催告ハ一面債務者ヲ遲滞ニ付スル效力ヲ有スルト同時ニ一面ニハ民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告タル效力ヲ有シ其ノ期間ヲ經過シ履行ヲ爲ササルトキハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘキモノニシテ債務者ヲ遲滞ニ付スル催告ト民法第五百四十一條所定ノ履行ノ催告トヲ區別シ前後時ヲ異ニシ二重ニ催告ヲ爲スノ要ナキモノトス (大正一一、二二、一四)

○前項ノ場合ニ其ノ相當期間ヲ定メ履行ノ催告ヲ爲スニ當リ債權者ハ期

大 三二〇 二六六

大 三二〇 三四九

間内ニ履行ナキトキハ期間ノ經過ト同時ニ契約ハ解除セラルヘキ旨條
件附ニテ解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得 (大正一二、二、一四)

三
一〇
三五〇

○民法第五百四十一條ニ規定スル相當ノ期間トハ債務者カ既ニ契約上相
當ノ準備ヲ了シタル履行ニ付最後ノ履行準備ヲ爲シテ給付ヲ完了スル
ニ足ルヘキ期間ヲ謂フモノナレハ當事者雙方同時履行ノ賣買契約ニ於
テ賣主カ買主ニ對シ一定ノ日ヲ指定シテ其ノ履行ヲ催告シ來リタルト
キハ該催告ニ依リ賣主ハ既ニ自己ノ債務ノ履行ニ付テモ其ノ指定ノ日
マテニ一切ノ準備ヲ完了スヘキコトヲ表明シタルモノト認ムルヲ相當
ト爲スヘキカ故ニ斯ノ如キ場合買主カ其ノ指定ノ日ノ前日之ニ對シ賣
主ノ爲スヘキ反對給付ニ付テモ同日履行スヘキコトヲ以テ催告シタル
トキハ其ノ催告ノ爲ニ存シタル期間ハ假令一日ニ滿タストスルモ最後
ノ履行準備ヲ爲シテ其ノ給付ヲ完了スルニ足ルモノナル以上其ノ催告
ハ尙民法第五百四十一條ニ定メタル要件ヲ遵守シタルモノト謂ハサル
ヘカラス (大正一四、五、一)

大
一四
三
一六一

聊

○債權者カ相當ノ期間ヲ定メテ履行ヲ催告シタルニ拘ハラズ債務者カ其
ノ期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ契約ヲ解除スルヲ得ルモノ
ニシテ一旦契約解除權ノ發生シタル以上爾後債務者カ履行ノ提供ヲ爲

シ若ハ履行ニ付債權者ノ協力ヲ求ムルコトアルモ債權者ハ必スシモ之
ニ應スルノ要アルモノニ非ス之ニ應スルト將タ之ヲ拒絶スルトハ全ク
債權者ノ任意ナリト解スルヲ相當ト爲スカ故ニ債權者ニ於テ之ヲ拒絶
シタレハトテ之カ爲ニ債務者ヲシテ履行遲滞ノ責ヲ免レシムヘキ理由
ナク從テ又既ニ債權者ニ發生シタル解除權ニ何等消長ヲ及ホスヘキモ
ノニ非ス (大正一四、五、一)

大
一四
三
一六一

【反對】

○債權者カ債務者ノ履行遲滞ニ因リ契約ヲ解除スル權利ヲ取得シタル場合ト雖モ未タ其權利
ヲ行使セサル間ハ依然トシテ存續スルヲ以テ債權者モ債務ノ履行ヲ請求スルヲ得ヘキハ勿
論債務者モ亦其債務ヲ履行スルコトヲ得ヘキモノトス從テ債務者ノ履行遲滞後債權者ノ解
除權行使前ニ於テ債務者カ履行ノ提供ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之カ履行ヲ拒絶シテ除
權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス (大正九、六、二二)

大
九
七
二七九

○支拂ヲ催告セル金額カ債權額ヨリ大ナルトキト雖催告ハ現ニ存スル債
權額ニ對シ有效ニシテ債務者ハ現ニ存スル債權額ノ辨濟ヲ提供セサル
トキハ遲滞ノ責ヲ免レサルモノトス (大正一五、三、一九)

大
一五
三
四

○民法第五百四十一條ニ依リ契約ノ解除權ヲ有スルニハ債務者ノ付遲滞
ヲ前提トスヘキモノナルモ遲滞ニ付スルカ爲ノ催告ヲ爲シタル後更ニ
同條所定ノ催告ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス履行期日ノ定ナク又ハ

債權者ノ過失ニ因ラスシテ履行期日ヲ經過シタル債務ニ在リテハ債權者ハ相當ノ期間ヲ定メテ履行ヲ催告シ之ニ因リテ債務者ヲ遲滯ニ付スルト同時ニ其ノ期間内ニ履行ナキトキハ契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス (大正一五、一一、二)

○契約解除ノ前提タル催告ニ相當期間ヲ明示セサリシ場合ニ於テモ爾後相當期間ヲ經過シ尙債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ契約ノ解除ヲ爲スヲ妨ケサルモノトス (昭和四、一〇、一一)

第五百四十二條

○所謂定期契約即民法第五百四十二條所定ノ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ノ契約トハ汎ク一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行セララルコトカ特ニ契約締結ノ要件トセラルル場合ノ契約ヲ意味シ單ニ其ノ日時期間内ニ履行セラレサルトキハ之カ爲ニ履行不能ヲ生スル場合ニ於ケル契約ノミナラス尙一定ノ日時期間内ニ履行セララルコトカ當事者間ニ當該契約ヲ締結スルノ動機ヲ爲シタル場合ニ於ケル契約ヲモ包含スルモノトス (大正一五、五、一四)

第五百四十三條

○賣主カ其賣買ノ目的物ヲ第三者ニ讓渡スルモ之ヲ以テ直ニ最初ノ買主ニ對スル賣主ノ債務ハ履行不能ノ状態ニ陥リタルモノト認ムヘキモノニ非ス (大正六、七、九)

○雙務契約當事者ノ一方ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ其債務カ履行不能トナリタルトキト雖モ之カ爲メニ相手方ノ債務カ當然消滅スルモノニ非サルコトハ民法第五百四十三條ニ於テ之ヲ以テ契約解除ノ原因ト爲シタルニ徴シテ明ナリ (大正七、四、五)

○不動産ノ所有者カ第一ノ買主ニ其不動産ヲ讓渡シタル後更ニ第三者ニ之ヲ讓渡シ其所有權移轉登記ヲ了シ而カモ其第三者ハ永代自ラ之ヲ所有セント欲シ之ヲ買受ケ相當代價ヲ以テシテハ之ヲ他ニ讓渡スル意思ナキ場合ニ在リテハ法律上ヨリ之ヲ觀察スレハ其賣主ノ第一ノ買主ニ對スル義務ノ履行ハ不能ニ歸シタリト認ムルヲ相當トス (大正八、九、二六)

○債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ債務ノ履行不能トナリタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ契約ヲ解除スルコトナク直ニ履行ニ代ルヘキ填補賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (大正一一、一一、九)

○不動産賣買ニ於テ賣主カ其ノ目的物ヲ第三者ニ讓渡シ其ノ所有權移轉

大	大	大	大
一三	八	七	六
一〇	六	五	四
三三〇	五〇五	三三	六〇

大	昭	大
一五	四	一五
一三	一六	一三
一一	二四九	三七

登記ヲ經由シタルトキハ右賣買ニ付買戻又ハ再賣買ノ豫約等ノ存在ニ
 因リ第三者ヨリ目的物ノ所有權ヲ回復シテ之ヲ買主ニ移轉スルコトノ
 可能ナルコトヲ證明シタル場合ハ格別然ラサル場合ニハ賣主カ買主ニ
 對シ負擔セル所有權移轉ノ義務ハ履行不能ノ狀態ニ在ルモノリ推定ス
 ヘキモノトス何トナレハ賣主カ更ニ第三者ヨリ其ノ所有權ヲ讓受ケ之
 ヲ買主ニ移轉スルコトハ物理的ニハ不能ナリト謂フコト能ハサルモ賣
 主カ買主トノ契約ヲ無視シテ第三者ニ讓渡シ其ノ所有權移轉登記ヲ經
 由シタル以上ハ第三者ヨリ回復シテ所有權ヲ移轉スル意思ナキモノト
 推定スヘク又第三者ヲシテ目的物ノ再讓渡ヲ承諾セシムル手段方法ヲ
 有セサルモノト推定スルヲ以テ取引上ノ通念ニ適合スルモノト爲セハ
 ナリ (大正一四、二、二七)

【反對】

○賣主カ其賣買ノ目的物ヲ更ニ第三者ニ讓渡シ所有權移轉登記ヲ爲シタルトキト雖賣主ハ更
 ニ第三者ヨリ其所有權ヲ讓受ケタル上買主ニ對シ所有權移轉ノ義務ヲ履行スルコトハ必ス
 シモ不能ナリト云フ能ハサルヲ以テ賣主カ賣買目的物ヲ第三者ニ讓渡シ其所有權移轉登記
 ヲ經タル一事ヲ以テ直ニ賣主ノ買主ニ對スル所有權移轉ノ義務カ履行不能ニ陥リタルモノ
 ト認ムヘキモノニ非ス (大正七、一二、一三)

第五百四十五條

大 一四三 二四

大 七 五 九六九

○當事者カ合意解除ヲ爲スニ當リ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ損害賠
 償ノ請求權ヲ有スルト否トハ各場合ニ依リテ異リ若シ當事者ニ於テ義
 務ノ不履行ナキニ拘ラス解除ノ合意ヲ爲シタルトキハ不履行ニ因ル損
 害賠償請求權ハ發生セス之ニ反シ若シ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ義務
 不履行ノ原因ト爲シ解除ノ合意ヲ爲シタル場合ニ於テハ當事者ノ一方
 カ他ノ一方ノ義務不履行ノ原因トシテ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘカラ
 サルモノニ非ス (大正六、六、二九)

○不動産ヲ信託的ニ讓渡シタル場合ニ受託者カ之ヲ第三者ニ讓渡シタル
 トキハ第三者ハ所有權ヲ取得スヘキモ未タ其權利移轉ノ證明又ハ登記
 ヲ爲ササル内信託者カ信託的讓渡契約ヲ解除シ若ハ賣買契約ニ因リ受
 託者ヨリ外部關係ノ權利ヲ回收シ權利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲シタル
 トキハ其ノ權利移轉ヲ證明又ハ登記ヲ爲ササル第三者ニ對抗シ得ヘク
 而シテ其ノ民法第五百四十五條ハ必スシモ朝鮮民事令第十三條ノ規定
 ヲ除外シ不動産ヲ買受ケタル第三者ハ契約ノ解除者ニ對シ證明又ハ登
 記ナクシテ其權利ノ移轉ヲ對抗シ得ルモノトスル趣旨ニ非サレハ前述
 ノ場合ニ受託者ヨリ土地ヲ買受ケタル第三者ハ信託契約ヲ解除シ其權
 利移轉ノ證明又ハ登記ヲ爲シタル信託者ニ對シ權利ノ移轉ヲ對抗スル

大 六 四 六〇一

ヲ得ス (大正七、四、九)

○民法第五百四十五條第一項但書ノ場合ニ於テモ朝鮮民事令第十三條ノ適用ヲ除外スヘキモノニアラスシテ同條但書ニ該當スル第三者ト雖モ其權利カ物權ニシテ而カモ其物權ノ取得ニ付證明又ハ登記ヲ受ケサル以上ハ其欠缺ヲ主張スルニ付正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス (大正七、五、二一)

○民法第五百四十五條ノ規定ニ依ル原狀回復義務者ハ相手方ヲシテ若其契約ナカリセハ享有シ得ヘカリシ地位ニ復セシムル義務ヲ有スルモノニシテ自己カ相手方ノ出捐又ハ給付ニ因リ果シテ利益ヲ受ケタルヤ否ヤ又其利益カ現存スルヤ否ヤニ拘ハラサルモノトス反之民法第七百三條ノ規定ニ依ル不當利得返還義務者ハ其受ケタル利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スルノミヲ以テ足り相手方ノ地位カ原狀ニ復スルヤ否ヤニ拘ハラサルモノトス (大正八、四、一五)

○合意解除ノ結果契約ハ全然解除セラレ不履行ニ因ル法律上ノ解除權ヲ行使シタルト同一ノ目的ヲ達シ得ヘシト雖モ合意解除ハ法律上ノ解除權ノ行使ニ非サルヲ以テ當事者カ別段ノ定ヲ爲ササル限り各當事者ハ不當利得ノ原則ニ依リ互ニ給付シタル物ノ返還請求權アルニ過キスシ

大 七 五 二 四 二

大 七 五 四 三 九

大 八 六 二 三 〇

テ民法第五百四十五條第三項ハ其適用ナキモノナルカ故ニ不履行ニ因リ生シタル損害ナルト特約ニ依リ豫定セル違約金タルトヲ問ハス之カ請求ヲ爲スヲ得サルモノナルモ當事者カ合意解除ヲ爲スニ當リ明示又ハ默示ノ合意ニ依リ特ニ不履行ニ因ル損害賠償ノ請求ヲ留保シタルトキハ其請求ヲ爲シ得ヘキコト論ヲ俟タス (大正九、一、二、二四)

○土地賣買契約ヲ解除シタル場合ニ於テ現ニ登記簿上ニ存スル所有權移轉登記ニ關シ之ヲ原狀ニ復セシムルカ爲メニハ必スシモ抹消登記ニ因リ現在ノ所有者名義ノ登記ヲ抹消シテ原所有者名義ノ登記ニ復セシムル方法ノミヲ以テ適法ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス登記簿上ノ所有名義人ナル回復義務者ヲシテ更ニ回復權利者ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ爲サシメ之ニ因リテ原狀ニ復セシムルコトヲモ得ヘキモノトス (大正一〇、二、八)

○民法第五百四十五條ハ解除權ヲ行使シタル場合ノ規定ナレハ當事者ノ合意ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニハ之ヲ適用スルヲ得ス當事者ノ合意ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テ若シ同條ト同一ノ效果ヲ生セシムル趣旨ノ特約ヲ爲シタルトキハ固ヨリ其特約ニ從フヘキモ然ラサレハ民法第七百三條以下不當利得ノ規定ニ依リ返還義務ヲ生スルニ過キスシテ同時履行ノ抗辯權ヲ生スルコトナキモノトス (大正一〇、三、八)

大 九 七 五 一 八

大 一 〇 八 二 四

大 一 〇 八 六 三

○解除權ノ行使ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケサルヲ以テ買主ヨリ代金全部ヲ支拂ヒタルニ賣主ノ責ニ因ル履行不能ノ爲メ契約ヲ解除シタル場合ノ如キハ賣主ニ於テ未タ買主ヲ原狀ニ回復セシメサル間ハ買主ハ履行不能ニ因ル損害賠償トシテ賣買ノ目的物ノ價格ニ相當スル金額中ヨリ返還ヲ受クヘキ代金額ヲ控除スルヲ要セスシテ其全額ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス (大正一〇、一〇、一八)

○契約ノ解除ハ契約ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ即時ニ目的物ノ所有權移轉ノ效力ヲ生セシムル賣買カ解除セラレタルトキハ契約ニ因ル所有權移轉ノ效力ハ消滅シテ買主ニ移轉シタル所有權ハ當事者ノ意思表示ヲ俟タス原權利者タル賣主ニ復歸ス (大正一〇、一一、二二)

○不動産ノ所有者カ之ヲ他人ニ賣却シ買主カ更ニ之ヲ第三者ニ轉賣シタル場合ニ於テ第一次ノ賣買契約カ解除セラレタルトキハ第一次ノ賣買契約ニ於ケル買主ト賣主トノ間竝ニ其買主ト轉買者トノ間ニ何レモ所有權ノ得喪ヲ來スヘキ場合ナルヲ以テ當初ノ賣主ト轉買者タル第三者トノ間ニ於テ互ニ其所有權ヲ主張セントスルトキハ其權利ノ優劣ニ付テハ民事令第十三條ノ適用アルモノトス (大正一〇、一一、二二)

○右ノ場合ニ於テ當初ノ賣主カ解除權ヲ行使シタルニ依リ回復シタリト

大 一〇 八 三六

大 一〇 八 四四五

大 一〇 八 四四六

スル所有權ヲ轉買者タル第三者ニ對抗セントスルニハ不動産所有權ニ付自己名義ノ登記又ハ證明ノ存スルカ若クハ一旦買主名義ニ登記又ハ證明セラレタル場合ニ於テ抹消登記又ハ抹消證明若クハ移轉登記又ハ移轉證明ニ由リ登記名義又ハ證明名義カ自己ニ回復セラレタルコトヲ要シ又轉買者タル第三者カ取得シタリトスル所有權ヲ解除者タル賣主ニ對抗セントスルニハ自己ノ登記又ハ證明ヲ經由セサルヘカラス (大正一〇、一一、二二)

○民法第五百四十五條ハ必スシモ朝鮮民事令第十三條ノ規定ヲ除外スルモノニ非ス (大正一〇、一一、二二)

○不動産賣買契約ハ解除セラレタル場合ニ於テ買主ヨリ不動産ヲ賃借シタル者ト雖賃貸借ニ付登記ヲ爲スニ非サレハ賃借權ヲ以テ解除者ニ對抗スルコトヲ得ス此見解ハ民法第五百四十五條但書ノ規定アルカ爲メニ影響アルコトナシ (大正一〇、一一、二二)

○信託契約ニ因リ物ヲ保管セル債務者カ不法ニ之ヲ處分シタル場合ニ債權者カ債務者ニ對スル不法行爲ヲ原因トシテ損害賠償ヲ求ムルト將タ民法第五百四十五條第三項ニ依リ不履行ニ因ル損害賠償ヲ求ムルトハ其自由ナリ (大正一〇、一一、二三)

大 一〇 八 四四六

大 一〇 八 四四六

大 一〇 八 四四七

大 一〇 八 四五五

○不動産ノ信託の讓渡契約ヲ爲シタル信託者カ該信託的讓渡契約ヲ解除シ之ニ伴フ權利ノ移轉ニ付證明又ハ登記ヲ經タルトキハ信託者ハ之ヲ以テ該契約存續中受託者ヨリ其ノ不動産上ニ生育スル立木ヲ讓受ケタルモ其ノ公示方法ヲ施行セサル第三者ニ對抗シ得ヘキモノニシテコノ場合ニハ民法第五百四十五條第一項但書ノ規定ノ適用ナキモノトス
(大正一二、五、四)

○債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ債務ノ履行不能トナリタルトキハ債權者ハ債務者ニ對シ契約ヲ解除スルコトナク直ニ履行ニ代ルヘキ填補賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (大正一二、二、九)

○契約解除ニ因リ金錢ヲ返還スヘキ場合ニ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要スルハ原狀回復ノ範圍ニ屬スルモノニシテ返還義務ノ履行遲滯ニ因ルモノニ非ス (大正一四、二、一八)

○契約ノ解除ハ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ第三者カ賣買契約ノ目的タル不動産上ノ物權ヲ取得シ其ノ登記ヲ爲シタルトキハ最初ノ賣主ハ契約解除ノミニ依リテ直ニ其ノ權利ヲ回復スルモノニ非スト雖第三者カ未タ其ノ登記ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ否認シ自己ノ權利回復ヲ主張スルコトヲ得ヘシ (昭和四、九、六)

大	三	一〇	一一〇
大	三	一〇	三三〇
大	一四	二二	四九九
昭	四	一六	二二九

○契約解除ノ效果ハ相對的ナルカ故ニ第三者ノ權利關係ニ影響ヲ及ホササルモノニシテ此ノ第三者中ニハ物權ヲ讓受ケタル特定承繼人ヲ包含スルコト當然ナリ (昭二、四、一五)

○信託者カ不動産ヲ信託行爲ニ依リテ讓渡シタル後該信託契約ヲ解除シタル場合ニ於テ其ノ以前ニ受託者ヨリ第三者ニ讓渡シ其ノ登記ヲ經由シタルトキハ此ノ第三者ニ對シ其ノ善意ナルト其ノ惡意ナルトヲ問ハス解除ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス (昭二、四、一五)

第二節 贈 與

○贈與契約ノ目的カ不動産所有權ノ移轉ナルトキハ贈與者ハ受贈者ニ對シ所有權移轉登記ヲ爲シ或ハ不動産ノ引渡ヲ爲ス義務アルハ勿論ナルモ這ハ贈與者カ受贈者ヲシテ所有者トシテ完全ナル支配權ヲ行使セシムル爲メ所有權ノ移轉ニ隨伴スル義務ニ過キサレハ受贈者ハ所有權ノ移轉ニ交渉ナクシテ斯ル登記引渡等ノ請求權ヲ行使シ能ハサルモノナリ (大正八、四、一五)

○贈與契約ノ履行ニ因リ目的タル土地ノ所有權カ受贈者ニ移轉シタルモ未タ登記竝ニ引渡ノ義務ノ履行ヲ了セサル中途ニ於テ土地カ査定ニ依リ贈與者ノ所有ト確定シタルトキハ贈與者カ所有權ヲ取得スルト同時

昭	二	二四	一一
昭	二	二四	一一
大	八	六	二〇

ニ受贈者ハ所有權ヲ喪失スルヲ以テ爾後新ナル物權變動ノ發生ト共ニ贈與契約ニ準據スヘキ特別ノ事情ナキ限り受贈者ハ贈與契約ニ依リ登記並ニ引渡ノ義務履行ヲ請求スル權利ナシ即チ如上ノ義務ハ査定確定ノ日ニ受贈者ノ所有權ノ喪失スルト同時ニ自然消滅ニ歸スヘキモノトス (大正八、四、一五)

○朝鮮人タル戸主ノ長男カ戸主ノ死亡ニ因リ戸主相續ヲ爲シ前戸主ニ屬セシ一切ノ財産ヲ承繼シタル場合ニ於テ朝鮮ノ慣習ニ從ヒ其ノ財産ノ幾部ヲ次男以下ノ衆子ニ分與スルハ當該相續人カ慣習上定レル義務ノ履行ヲ爲スニ外ナラスシテ所謂贈與ニ該當スルモノニ非ス (昭和四、二、三)

第五百四十九條

○贈與ノ目的物ハ必スシモ契約當時ニ於テ自己ノ所有ニ屬スル物タルコトヲ要セス將來取得スヘキ物ト雖是ヲ與フル契約ハ尙民法第五百四十九條ニ所謂自己ノ財産ヲ與フルコトニ該當ス (大正一〇、一〇、一四)

第五百五十條

○民法第五百五十條ニ所謂履行ヲ終ハリタリトハ不動産贈與ノ場合ニ於テハ引渡ヲ爲スヲ以テ足り其所有權移轉登記ヲモ完了セサルヘカラサ

大 八 六二〇

昭 四 一六二七

大 一〇 八三〇九

ルモノニ非ス (大正一〇、一〇、一四)

第三節 賣 買

第一款 總 則

○契約ノ解除ト契約ノ履行トハ全然相反スル行爲ニシテ二者併存スルモノニ非ス從テ解除ノ意思ヲ表示シタル以上ハ履行タル代金ノ受領ヲ拒絶スル意思ヲモ表示シタルモノト認定スルハ不法ニ非ス (大正四、四、二〇)

○保管者カ賣買ニ因リテ其保管物ノ所有權ヲ得タルトキハ同時ニ其占有ハ改定セラレ保管義務モ亦消滅スヘキモノトス (大正五、三、七)

○朝鮮人間ニ於テ仲介人ノ手ヲ經テ土地家屋ヲ賣買シタルトキハ特約ナキ限りハ一般ニ依頼者ヨリ仲介人ニ對シテ口錢ヲ支拂フ慣習アリ其額ハ各地方ニ依リ多少ノ差異アルモ賣買代金百分ノ一乃至二ニシテ京畿道方面ニ於テハ百分ノ一ヲ支拂フ慣習アリ (大正八、六、三〇)

○仲介料(口錢)ハ仲介ヲ依頼シタル者ヨリ支拂フ慣習ナルヲ以テ賣主買主雙方ヨリ仲介ヲ依頼シタルトキハ仲介人ハ雙方ヨリ各之カ仲介料ヲ貰受クルコトヲ得ヘキモノトス (大正八、六、三〇)

○甲乙間ニ設定シタル信託的賣渡抵當ノ目的物タル地所ヲ設定者甲ニ於

大 一〇 八三〇九

大 四 三 一一

大 五 三 四三

大 八 六 四四九

大 八 六 四四九

テ他人ニ賣渡スモ甲ハ乙ニ對シテ債務ヲ辨濟シタルトキハ其賣渡抵當地所ノ所有名義ヲ自己ニ復歸セシムル權利ヲ有スルモノトス (大正五、八、一一)

○債權擔保ノ目的ニ出テタル信託的賣買ハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ所有權ハ債權者ニ移轉スルモ當事者間ノ内部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效力ヲ生セス唯債權者ハ辨濟期ニ至リ辨濟ヲ受ケサルトキ其擔保物件ヲ處分シ得ヘキニ止マリ所有權ハ依然トシテ債務者ニ存スルモノトス (大正五、一、二五)

○權利ノ信託的賣買トハ一定ノ目的ヲ達スル手段トシテ其目的ヲ超過シ賣買ノ形式ヲ執リタル意思表示ニシテ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ常ニ權利移轉ノ效果ヲ生スルモノトス而シテ當事者間ノ内部關係ニ於テハ權利ヲ移轉スル場合ト然ラサル場合トアルヘク又信託的賣買ニ依リ達セントスル目的及賣買ノ形式方法ニ付テハ制限ナシ (大正六、七、六)

○信託行爲ニアリテハ當事者間ニ於テハ通例所有權移轉ノ效果ヲ生セサルモ外部關係ニ於テハ其移轉ノ效有ヲ生スルモノナレハ第三者ヨリシテ之ヲ見レハ信託者ハ所有者ニアラスシテ受託者カ常ニ所有者ト認メ

大 五 三六四

大 五 三三七

大 六 四六五七

ラルヘキモノナルカ故ニ信託者ニ於テ信託行爲ノ目的タリシ不動産ヲ第三者ニ賣渡シタルトキハ其賣買ハ必スシモ無効ニアラサルヘキモ信託者カ受託者ニ移轉セル所有權ヲ回復シ之ヲ第三者ニ移轉セサル限り當然所有權移轉ノ效果ヲ生スルモノニアラス (大正七、五、七)

○債權擔保ノ目的ヲ以テスル信託的所有權讓渡行爲ニ在リテハ特別ノ意思表示ヲ以テ外部關係ニ於ケルト同時ニ内部關係ニ於テモ所有權ヲ移轉スヘキモノト爲スヲ妨ケサルモ特別ノ意思表示ナキ以上ハ外部關係ニ於テノミ所有權移轉ノ效果ヲ發生シ内部關係ニ於テハ然ラスト爲スヲ通例トス (大正七、四、二三)

○債務者(信託者)カ其所有地所ヲ賣渡抵當トシ信託的ニ債權者ニ其權利ヲ讓渡セルニ拘ハラス當然第三者ト所有權移轉ノ效果ヲ生スヘキ賣買契約ヲ締結シ得ヘキコトヲ理由トシテ其賣主ハ土地ノ所有者タル被上告人受託者ナリトノ相手方ノ主張ヲ排斥セルハ失當ナリ (大正七、五、七)

○債權擔保ノ目的ニ出テタル信託的賣買即所謂賣渡抵當ニ在リテハ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ所有權ハ債權者ニ移轉スルモ當事者間ノ内部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效力ヲ生セサルヲ通常トスルモノナレ

大 七 五三六五

大 七 五三一

大 七 三三五

ハ賣渡擔保ニシテ特殊ノ效力ヲ有スルモノト認メラレサル限り如上ノ效力ヲ有スル通常ノモノト推認セラルヘク其之ヲ推認スルニ付特ニ證據ニ依ルヲ要セサルモノトス (大正九、七、二三)

第五百五十五條

○牌旨ハ賣買ノ誘引狀ニ過キスシテ賣買ノ申込書若クハ豫約書又ハ賣買ノ代理委任狀ニアラス牌旨發行者カ買受ノ意思表示ニ對シテ承諾即チ賣却ノ意思表示ヲ爲スニ因リテ賣買契約成立スルモノトス (隆熙三、明治四二、九、三)

○賣却行爲ニシテ刑法大全第六百三十六條ノ犯罪ヲ構成スルトキハ買得者ノ國籍如何ヲ問ハス其賣買ハ全然無効ニ歸シ何等ノ效果ヲモ發生セス (明治四三、一〇、二二)

○朝鮮人間ニ在リテ特定物ノ賣買ハ當事者ノ合意ニ依リテ成立シ其成立ニ付目的物ノ引渡ヲ要セス (明治四四、一、二八)

○賣主ニ於テ賣渡シタル物件ヲ他ニ賣却スルモ之カ爲メニ買主ニ對シテ物件引渡ノ義務ヲ免ルルモノニアラス (明治四四、七、八)

○朝鮮人間ニ於テ一旦典當ニ供シ又ハ賣却シタル土地家屋ヲ他人ニ再ヒ典當ニ供シ又ハ賣却シタルトキハ刑法大全第六百三十六條ニ違背シ其

大 九 七 三五四

三 一 三五

明 四三 一 二二六

明 四四 一 一九〇

明 四四 一 三三五

典當又ハ賣却ハ法律上無効トス (明治四四、八、二二)

○地所賣買ノ無効トナリタル場合ニ於テ交付シタル金員ノ返還請求ハ不當利得金返還請求ニ外ナラス (明治四四、一〇、一三)

○田番賣買契約ニ於テ代金ノ完済ト舊文記ノ授受トヲ待チ始メテ所有權ヲ移轉スヘキコトヲ特約スルハ公益ニ反スル意思表示ニアラス從テ其意思表示ハ有效ナリ (明治四五、一、一七)

○舊韓國ノ法律ニ依レハ信託行爲ニ因リ受託者ハ信託者以外ノ者ニ對シ信託者ノ承諾ヲ得スシテ目的物ヲ處分セサル債務負擔ノ下ニ所有權ヲ取得シ其後右債務ニ違背シ目的物ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テモ讓受人善意ナルトキハ完全ニ其所有權ヲ取得スヘキモノトス (大正元、一〇、二九)

○甲カ乙ヲ所有名義者ト爲シタル行爲カ信託行爲ニ基クトキハ信託者ト受託者トノ内部關係ニ於テハ所有權移轉ノ效果ヲ生セサルモ第三者ニ對スル外部關係ニ於テハ表面上ノ所有者ハ眞ノ所有者ト看做サルヘキヲ以テ第三者カ之レト賣買ヲ爲シタルトキハ其賣買ハ有效ナリトス若シ又虛偽ノ意思表示ニ因ルトキハ當事者間ニハ所有權移轉ノ效力ヲ生セサルモ其事情ヲ知ラサル善意ノ第三者カ表面上ノ所有者ヲ以テ眞ノ

明 四四 一 三四

明 四四 一 三六六

明 四五 一 四三二

大 元 二 四三

所有者ナリト信シ之ト賣買契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ有效ニシテ
第三者ハ所有權ヲ取得スヘキモノトス而シテ此法則ハ朝鮮民事令施行
前ト雖朝鮮ニ行ハレタルモノナリ (大正二、九、九)

○賣買契約ニ於テ賣主カ眞ニ賣渡ノ意思ナク買主ヨリ代金ヲ騙取スルノ
目的ヲ以テ賣買ニ依リテ相手方ニ所有權ヲ移轉スルコトヲ約シタルト
キハ其行爲ハ詐欺ナリト雖右賣主ノ意思表示カ眞意ニアラサルコトハ
賣買ノ要素ニ關セス從テ賣買ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナシ是ハ朝鮮
民事令施行前ニ於ケル朝鮮人間ノ法律關係ニ付テモ行ハレタル條理ナ
リ (大正二、一〇、一〇)

○位土ノ共有ナルモノハ一門共同ノ祖先祭祀ノ用ニ供スル爲メ一門ニ屬
スル者ニ限リテ共有スル性質ノモノナレハ一門ニ屬セサル者カ共有者
ノ一人ヨリ他ノ共有者ノ承諾ナク其單獨所有ナリトシテ買受ケタル場
合ニハ其賣買契約ハ全然無効ナリトス (大正五、一、二二)

○出版物カ賣買ニ因リ引渡ヲ終了シタル後ニ至リテ偶發賣頒布ヲ禁止セ
ラルルモ遡リテ其賣買ヲ無効ナラシムルコトナシ (大正五、四、二五)

○賣買契約ヲ爲スニ當リ必スシテ契約當時ニ代金ヲ確定スルコトヲ要セ
ス契約ノ趣旨ニ從ヘハ後日之ヲ確定スルヲ得ヘキモノナルトキハ該契

大	二
大	二三五
大	二
大	二三七
大	五
大	三三八〇
大	五
大	三五六

約ハ有效ナリトス (大正五、一〇、一〇)

○田畝ニ生スル一定ノ稻作其他ノ農作物ヲ其生立ノ儘賣買シタルトキハ
其賣買ノ目的物ハ確定物ニシテ且不動産ナリ (大正五、一、二八)

○賣渡證書ノ授受ヲ以テ賣買ニ因ル權利移轉ノ要件トスル慣習ノ存在ハ
之ヲ認メス (大正六、二、二〇)

○賣渡證書ハ代金受領證書ニアラス從テ第三者カ賣渡證書ヲ買主ノ許ニ
持參シタリトスルモ其者カ賣主ニ代リ代金受領ノ權限ヲ有スルモノナ
ルヤ否ヤニ付爭アルトキハ其權限アリト主張スル者ニ於テ立證ヲ爲サ
サルヘカラサルモノニシテ其單ニ賣渡證書ヲ持參シタル一事ヲ以テ其
權限アリトノ推定ヲ下スヘキモノニアラス (大正六、二、二〇)

○同一特定物ニ付所有者カ甲者ニ對シ賣買契約ヲ爲シタル後更ニ乙者ニ
對シ賣買契約ヲ爲シタル場合ニ甲者ニ對スル賣買契約カ解除セララル
トキハ其特定物ノ所有權ハ所有者ニ復歸スルト同時ニ乙者ニ對スル賣
買契約ノ結果トシテ右所有權ハ當然乙者ニ移轉スルモノトス (大正六、
五、二五)

○朝鮮人間ニ於ケル山坂賣買契約ノ際ニハ必スシモ山坂ノ地籍届配達證
明書及ヒ圖面ヲ買主ニ交付シ且山坂ノ面積及四標ヲ契約書ニ明記セサ

大	五
大	三七六
大	五
大	三九二九
大	六
大	四一〇八
大	六
大	四二〇八
大	六
大	四四三

ルヘカラサルモノニ非サルノミナラス買主ニ於テ山坂ノ舊文書及前掲書面ノ交付ヲ受クルニ非サレハ賣買ヲ爲ササルカ如キ慣習ノ存在ハ之ヲ認メス (大正六、一一、一三)

○朝鮮ニ於テ舊韓國光武八年頃ニ在リテ朝鮮人間ニ於ケル不動産ノ賣買文記ニ實際ノ買主ニ非サル家族又ハ奴僕ノ名義ヲ買主トシテ表示スルカ如キ事例ハ行ハレタルモノトス (大正六、一二、二一)

○禁止規定ノ趣旨カ一定ノ效果ノ發生其モノヲ禁止スルニ在ルトキハ其效果ノ發生ヲ目的トスル法律行為ハ無効ナルモ之ニ反シ禁止規定ノ趣旨カ唯一定ノ效果ヲ生スルニ付テノ特定ノ手段ヲ禁止スルニ止マルトキハ之ニ違反スル法律行為ハ無効ニ非ス (大正八、七、三一)

○市場規則第十九條ニ於ケル同規則第八條ノ許可ヲ受ケタル營業者カ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ其營業ヲ爲シタルトキハ之ヲ處罰スル規定ハ許可ヲ受ケタル營業者ノ水産物ノ販賣其モノヲ禁止スル趣旨ニ非ス專ラ行政上斯ル營業上ノ取締ヲ爲ス必要ノ爲該營業者カ水産物ノ販賣ヲ營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ競賣ノ方法ニヨリ營業的ニ爲スコトヲ禁止スルモノニシテ則チ水産物販賣ノ一定ノ手段ヲ禁止スルノ趣旨ト解スヘキモノナレハ營業者カ右禁止規定ニ

六	六	六
四	四	四
九	九	九
五	五	五
六	六	六
四	四	四
二	二	二
五	五	五
三	三	三

反シテ爲シタル水産物ノ賣買ハ無効ニ非ス (大正八、七、三一)

○白米ノ賣買契約ニ於ケル申込ハ商人間ト雖其品質價格及數量ヲ包含スルコトヲ要ス若シ品質及價格ノミヲ表示シ數量ヲ示ササルモ尙申込タル效力アリトセンカ相手方ノ要求スル數量ノ多寡如何ニ拘ラス契約成立スルコトトナリ申込者ノ意思ニ反スル結果ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ故ニ斯ル場合ニ於テハ慣習若クハ當事者間ノ從來ノ取引状態ニシテ參酌スヘキモノアラハ之ヲ參酌シテ申込ト認メ得ルヤ否ヤヲ決セサルヘカラス (大正九、一一、九)

○不動産ノ賣主カ買主ニ對シテ不動産ノ完全ナル所有權ヲ移轉セントスルニハ買主ヲシテ第三者ニ對シ其權利ノ取得ヲ對抗スルコトヲ得セシメサルヘカラサレハ賣主カ不動産ノ所有權移轉登記手續ヲ履行スルコトハ賣買ニ基ク賣主ノ義務ト稱スルヲ妨ケス (大正一〇、六、一七)

○賣買代金支拂ノ方法トシテ手形ヲ振出スハ買主カ手形ノ支拂期日ニ代金ヲ支拂フヘキコトヲ確保スルモノニ非ス又代金支拂ニ付テ期限ヲ定ムルモノニモ非ス手形ノ振出即チ代金ノ支拂ナルヲ以テ假令手形振出ノ義務ハ賣買契約ヨリ當然生スルモノニ非スト雖モ苟クモ代金支拂ノ方法トシテ手形ヲ振出ス特約ノ存スル場合ニ於テハ手形振出ノ義務カ

八	九	一〇
六	七	八
四	三	二
九	八	七
六	五	四
四	三	二
九	八	七
六	五	四
四	三	二

賣買契約上ノ義務ニ屬スルコト論ヲ俟タス (大正一〇、一〇、一四)

○特定物ノ賣買ニ在テハ其物ノ所有權ヲ將來移轉スヘキ特約ナキ限りハ即時ニ所有權移轉ノ效力ヲ生ス (大正一〇、一一、二二)

○契約ノ解除ハ契約ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルヲ以テ即時ニ目的物ノ所有權移轉ノ效力ヲ生セシムル賣買カ解除セラレタルトキハ契約ニ因ル所有權移轉ノ效力ハ消滅シテ買主ニ移轉シタル所有權ハ當事者ノ意思表示ヲ俟タス原權利者タル賣主ニ復歸ス (大正一〇、一一、二二)

○不動産賣買契約ニ於テ當事者カ不動産所有權移轉登記濟證ト引換ニ賣買代金ヲ支拂フコトヲ約シタル場合ニ於テハ其約旨ハ特別ノ事情ナキ限り不動産所有權移轉登記義務ト同時ニ履行スヘキコトヲ約シタルモノト解スヘキモノトス (大正一〇、一〇、二五)

○登記手續ヲ爲ス義務ハ登記ノ完了ニ依リテ遂行セラルルモノナルヲ以テ判決主文ニ於テ登記手續履行ト同時ニ代金支拂ヲ爲スヘキコトヲ宣言シタルトキハ登記完了ト同時ニ代金ヲ支拂フヘキコトヲ命シタルモノトス (大正一〇、一一、一三)

○特別ノ賣買ニ在テハ其物ノ所有權ヲ將來移轉スヘキ特約ナキ限りハ賣買成立ト同時ニ所有權移轉ノ效力ヲ生ス (大正一一、五、二)

大	二〇	八	二九五
大	二〇	八	四四五
大	一〇	八	三四九
大	一〇	八	五二九
大	二	九	一五七

○自己ノ不動産ヲ賣却シタル賣主カ擅ニ之ヲ他人ニ賣却シ其者ノ爲ニ所有權移轉登記ヲ了シタルトキハ後ノ買主ハ完全ナル所有權ヲ取得スヘク之ト同時ニ前買主ニ對スル所有權移轉ノ效果ヲ滅却セシムルニ至ルヘシ (大正一一、五、二)

○如上賣主ノ第二次ノ賣却行爲ハ前買主ノ所有權ヲ侵害スル不法行爲ニシテ賣主ハ之カ爲メ前買主ニ生シタル損害ヲ賠償スル義務アリ從テ前買主ハ之ヲ賠償セシムル物權的請求權ヲ取得スヘシ (大正一一、五、二)

○如上第二項ノ賣買ニ因ル所有權移轉登記ノ行ハレタル場合ニ於テ賣主カ所有權ヲ回復シテ前買主ヨリ完全ナル給付ヲ爲シ得サル場合ニ在テハ前買主ハ契約上ノ債務不履行若クハ履行不能ヲ原因トシテ損害賠償ヲ請求シ得ヘク又賣主カ所有權ヲ回復シテ前買主ニ完全ナル給付ヲ爲シ得ル場合ニハ契約上ノ債務履行ヲ請求シ得ヘシ (大正一一、五、二)

○此等債權的請求權ハ前示不法行爲ニ因ル物權的請求權ト競合スルモノニシテ其中一個ノ請求權ノ辨濟ニ因リ他ノ請求權ハ消滅スルモノトス (大正一一、五、二)

○物權ノ設定移轉ハ之ヲ目的トスル物權的意思表示ニ因リテ其效力ヲ生スルモノニシテ物權ノ設定移轉ノ義務ヲ生スル債權的意思表示ニ因リ

大	二	九	一五七
大	二	九	一五七
大	二	九	一五七
大	二	九	一五七
大	二	九	一五七

當然其效力ヲ生スヘキニ非ス (大正一一、五、二)

○特定物ノ賣買ニ於ケルカ如キ即時ニ物ノ所有權移轉ノ效力ヲ生スル賣買ニ於テモ觀念上所有權ヲ移轉スヘキ債務ヲ生セシムル債權的意思表示ト其債務ノ履行トシテ所有權ヲ移轉セシムル物權的意思表示トヲ區別スヘク單ニ此等ノ行爲ハ同時ニ行ハルルニ過キス (大正一一、五、二)

○賣買ハ當事者ノ一方カ或財產權ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ代金ヲ支拂フコトヲ約スルニ因リテ成立スルモノナレハ縱令其ノ意思ヲ表示スルニ當リ或物ノ貸付ト謂ヒ又ハ金錢ノ返濟若ハ對價金ノ支拂等ノ語辭ヲ使用スルモ苟モ其ノ效果意思ニシテ如上ノ趣旨ニ適合スルモノナル以上ハ之ヲ賣買ト認ムヘキモノトス (大正一三、三、一一)

○所謂賣渡抵當ニ在リテハ特殊ノ效力ヲ有スルモノト認メラレサル限り當事者間ノ内部關係ニ於テハ目的物件ノ所有權移轉ノ效ヲ生セサルモノト推認セラルヘキモノトス (大正一四、三、二〇)

○賣買ニ因ル代金支拂ノ債務カ賣買ノ目的物タル土地ニ付所有權移轉登記ヲ爲スト同時ニ履行スヘキ關係ニ在ルモノナルトキハ其ノ履行ノ場所ハ一應所轄登記所所在ノ場所トスル約旨ト解スルヲ相當トス (大正一一、一一、二)

二	九	一五
二	九	一五
三	二	三
四	三	六
五	三	七六

○當事者ノ一方カ金錢ヲ給付スルコトヲ約シ相手方カ之ニ財產權ヲ移轉スルコトヲ約シ之ヲ通俗ニ賣買ト稱スル場合ニ於テモ其ノ金額ニシテ財產權ノ目的物ノ價格ニ比シ格外ニ低廉ナルトキハ特別ノ事情ナキ限り當事者ノ意思ハ財產權ノ移轉ト金錢ノ給付トヲ對價的關係ニ置キタルモノニ非スシテ賣買以外ノ所謂賣渡抵當其ノ他ノ契約成立シタルヘシトノ疑ヲ容ルル餘地アルモノナルカ故ニ賣買成立シタリト認ムルカ爲ニハ特別ノ事情存スルコトヲ究メサルヘカラス (昭和二、五、二〇)

○賣買ニ於ケル代金ノ額カ目的物件ノ價額ニ比シ低廉ニシテ著シク不權衡ナル場合ニ於テ其ノ契約カ賣主ノ輕卒無經驗又ハ急迫ナル困窮ニ乘シテ約諾セシメタルモノナルトキハ公序良俗ニ反スルモノトシテ之ヲ無効ト爲スモノトス (昭和三、一一、一七)

第五百五十六條

○還退ナル文詞ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル解除條件附特約ノ場合ニ於テハ買戻ノ意義ニ使用セラルルヲ通例トスト雖賣買契約後ニ於テハ或ハ單純ナル同契約解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ條件ヲ附シタル同契約解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ再賣買ノ豫約ノ意義ニ使用セラルル等種々ノ場合アルヘキヲ以テ朝鮮一般ニ行ハルル慣用上常ニ必ス單純ナル

二	一四	一七
三	一五	三二

契約解除ノ意義ノミニ使用セラルルモノト謂フヲ得ス (大正六、三、一三)
 ○再賣買豫約ノ權利者ハ再賣買ヲ完結スル一方的意思表示ニヨリ再賣買ヲ成立セシメ得ヘキモノニシテ他ノ相手方ノ承諾ヲ要スルモノニアラサレハ豫約權利者カ其契約ノ履行トシテ相手方ニ對シ承諾ノ意思表示ヲ訴求スルハ失當ナリ (大正六、六、一九)

○再賣買豫約ニ因ル賣買完結ノ意思表示ニ付テハ法律上何等ノ方式ヲ要スルモノニアラサルヲ以テ訴訟當事者ハ訴訟答辯書若ハ口頭辯論ニ於テ攻撃又ハ防禦ノ方法トシテ明示的若クハ默示的ニ之ヲ爲スコトヲ妨ケス然レトモ豫約權利者カ賣買完結ノ意思表示ヲ爲シタル日時ヲ限定シテ主張シタル場合ニ於テハ裁判所ハ其日時ニ其意思表示ヲ爲シタルヤ否ヤヲ審判スルニ止ムヘク其他ニ於テ其意思表示ナカリシヤ否ヤヲ審判スルノ職責ヲ有スルモノニアラス (大正八、四、一五)

○再賣買ノ豫約ハ相手方カ賣買完結ノ意思ヲ表示シタルトキヨリ賣買ノ效力ヲ生スヘキモノナルコト民法第五百五十六條第一項ノ規定スル所ナレトモ同條ハ敢テ強行的規定ニ非サルヲ以テ再賣買ノ豫約者ハ其相手方トノ間ニ若シ相手方ニ於テ再賣買期間内ニ約定ノ代金ヲ提供セサルトキハ當然再賣買ノ效力ヲ失フ旨ノ特約ヲ爲スコトヲ得サルモノニ

六 四 一八九

六 四 五五九

六 六 二二九

非ス (大正一〇、一一、八)

第五百五十七條

○民法第五百五十七條ニ依ル解除權ハ當事者間ニ於テ之ヲ行使セサルコトヲ特約スルヲ妨ケス (大正五、四、一四)

○朝鮮人間ノ賣買契約ニ於テ預約金(豫約金)或ハ契約金ナル文詞ヲ第五百五十七條ニ所謂契約解除ノ方法タル手附金ト同一意義ニ使用スル慣習アルコトハ當院ノ認メサル所ニシテ之ヲ手附金ノ趣意ニ解スルト否トハ事實承審官ノ職權ニ屬スルモノトス (大正七、七、五)

○買主カ賣主ニ手附ヲ交付シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スル迄ハ買主ハ其手附ヲ拋棄シテ契約ノ解除ヲ爲シ得ルコト民法第五百五十七條第一項ノ規定ニ徴シ明白ナリト雖買主カ賣主ノ債務履行前手附ヲ拋棄シテ契約ヲ解除シタル場合ニハ一應該解除ハ賣主カ契約ノ履行著手前適法ニ爲シタルモノト推定スヘク賣主カ該解除ハ契約ノ履行著手後ニ係ルヲ以テ無効ナリトシ以テ右推定ヲ覆ヘサントスルニハ須ラク賣主ニ於テ該解除カ契約ノ履行著手後ニ係ルコトヲ主張シ且立證セサルヘカラス (大正一〇、一〇、四)

○賣買ニ際リ買主カ賣主ニ手附ヲ交附シタルトキハ當事者ノ一方カ契約

一〇 八 三九六

五 三 五二六

七 五 五七二

一〇 八 二八四

ノ履行ニ著手スル迄ハ賣主ハ其ノ手附倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲナシ得ヘシト雖其ノ後買主カ賣主ニ對シ賣買代金ノ一部ヲ支拂ノ爲提供シ賣主ニ於テ異議ナク之ヲ受領シタルトキハ民法第五百五十七條ニ所謂契約ノ履行ニ著手アリタルモノト謂フヘク賣主ハ最早手附倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スヲ得サルモノトス (昭和四、一〇、四)

第二款 賣買ノ效力

○朝鮮人間ニ在リテ特定物ノ賣買ニ付其契約成立後物件引渡前ニ其物ニ關シテ賣主ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ損失ノ生シタルトキハ其損失ハ買主ノ負擔ニ屬スト爲スヲ當然トス (明治四三、一一、一一)

○賣買契約ニシテ完全ニ履行ヲ了リタル後ニ在テハ最早其契約ハ解除シ得ヘカラサルモノナルヲ以テ縱シヤ當事者間ニ解除ノ合意アリトスルモ固ヨリ契約解除トシテノ法律上ノ效果ヲ生スヘキモノニアラス (明治四四、一一、一五)

○開城ニ於テ蔘圃ノ賣買ニ付買主ヨリ賣主ニ對シ其代價ニ相當スル於音ヲ交付シ掌記ヲ作成シタル場合ニ於テ當事者一方ノ意思ニ依リ隨意ニ其賣買契約ヲ解除スルコトハ引渡ニ關シ當事者雙方立會ノ上實物調査ヲ爲シテ現物ノ引渡ヲ爲ス場合ナルト將タ以口傳掌ノ方法ニテ實物調

四 一六 二四三

四三 一 一四二

四四 一 四〇五

査ヲ爲サス口頭ニテ引渡ヲ爲ス場合ナルトヲ問ハス其引渡ノ行ハルル以前ニ限り許サルル慣習ナリトス (大正五、三、七)

○同一所有者ヨリ同一立木ヲ買受ケタル甲乙兩者間ニ其立木ノ所有權ヲ相爭ヒ後ニ買受ケタル者ヨリ前ニ買受ケタル者ノ賣買ハ既ニ解除セラレタリト主張シタル場合ニ於テ單ニ其賣買成立ノ前後ノミニ依リテ所有權ノ有無ヲ判定シ其解除ノ有無ニ付判斷ヲ與ヘサルハ重要ノ争點ニ對シテ判斷ヲ與ヘサル違法アルモノトス (大正五、三、三一)

○目的物數個アルモ一個ノ賣買契約ナルトキハ其中ノ一部ヲ解除シ他ノ一部ヲ存續セシムルコトハ法律ニ特別ノ規定アル場合ノ外許スヘカラサルモノトス (大正五、四、一四)

○民法第九十五條ニ所謂法律行為ノ要素ノ錯誤ハ通常人ヲ表意者ノ地位ニ置キ合理的ニ判斷シテ表意者カ意思表示ノ内容ニ付錯誤ナカリセハ其意思表示ヲ爲ササルヘカリシモノト認ムルコトヲ得ヘキ場合ニ於ケル錯誤ヲ指稱ス從テ買主カ約諾シタル代金ヲ支拂フ眞意ナカリシ場合ノ如キハ賣主ニ於テ誤信アルモ法律行為ノ要素ニ錯誤アルモノニアラスシテ賣渡ノ意思表示ヲ爲スニ至リタル理由ノ錯誤ニ外ナラサルモノトス (大正五、九、五)

大 五 三 四五

大 五 三 四六〇

大 五 三 四九二

大 五 三 七〇五

○賣買ノ目的物中一部ノ土地ヲ控除シ又一部ノ代金ヲ減額スルカ如キハ目的物ヲ變更スルモノト謂フヘカラス從テ賣買ノ要素ニ變更ヲ來タスコトナシ (大正五、一二、二二)

○賣主カ其賣買ノ目的物ヲ第三者ニ讓渡スモ之ヲ以テ直ニ最初ノ買主ニ對スル賣主ノ債務ハ履行不能ノ状態ニ陥リタルモノト認ムヘキモノニ非ス (大正六、七、九)

○賣主カ其賣買ノ目的物ヲ更ニ第三者ニ讓渡シ所有權移轉登記ヲ爲シタルトキト雖賣主ハ更ニ第三者ヨリ其所有權ヲ讓受ケタル上買主ニ對シ所有權移轉ノ義務ヲ履行スルコトハ必スシモ不能ナリト云フ能ハサルヲ以テ賣主カ賣買目的物ヲ第三者ニ讓渡シ其所有權移轉登記ヲ經タル一事ヲ以テ直ニ賣主ノ買主ニ對スル所有權移轉ノ義務カ履行不能ニ陥リタルモノト認ムヘキモノニ非ス (大正七、一二、一三)

○不動産ノ所有者カ第一ノ買主ニ其動産ヲ讓渡シタル後更ニ第三者ニ之ヲ讓渡シ其所有權移轉登記ヲ了シ而カモ其第三者ハ永代自ラ之ヲ所有セント欲シ之ヲ買受ケ相當代價ヲ以テシテハ之ヲ他ニ讓渡スル意思ナキ如キ場合ニ在リテハ法律上ヨリ之ヲ觀察スレハ其賣主ノ第一ノ買主ニ對スル義務ノ履行ハ不能ニ歸シタルモノト認ムルヲ相當トス (大正

大 五 三 九九七

大 六 四 八六〇

大 七 五 九六九

八、九、二六)

○被相續人ニ於テ其所有地所ヲ他人ニ賣却シ其所有權カ買主ニ移轉シタルトキハ家督相續人ハ相續ニ因リ其所有權ヲ取得スヘキ理由ナク從テ家督相續人カ更ニ之ヲ他人ニ賣渡スモ此者ハ所有權ノ取得スル能ハス縱令形式上所有權移轉登記手續ヲ經ルモ其登記ハ無効原因ニ因リ抹消セララルヘキモノトス (大正一〇、三、一八)

○斯カル場合ニ家督相續人カ前記ノ買主ニ對シテ負擔スル所有權移轉登記手續履行ノ義務ハ履行不能ニ歸シタルモノト謂フヲ得ス後ノ買主ニ賣戻ノ意思アルト否トハ茲ニ之ヲ問フノ要ナシ (大正一〇、三、一八)

○未證明ノ土地ノ買主カ同土地ニ付保存證明ヲ經タルモ該證明カ登記官吏ノ錯誤ニ因リ抹消セラレタル場合ニ於テ第一若シ買主カ更ニ他ニ所有權ヲ移轉シタル事實ナク又他ニ所有權ヲ移轉シタル事實アルモ其移轉證明若クハ登記ヲ經サルモノナルトキハ買主ハ自己ノ權利ヲ保全シ又ハ其後者ニ對スル移轉證明若ハ登記ノ義務ヲ履行スル爲ニハ其抹消セラレタル證明ノ回復ヲ請求シ得ルノミナラス民事令施行以後ニ在リテハ證明回復ノ方法ニ出テスシテ賣主ニ對シ移轉證明若ハ登記ノ手續ノ履行ヲ請求スルヲ妨クルモノニ非ス第二然レトモ買主ニ於テ更ニ他

大 八 六 五〇五

大 一〇 八 七七

大 一〇 八 七七

ニ其所有權ヲ移轉シ既ニ其移轉證明手續義務ヲ履行シタル後其證明モ亦保存證明ト共ニ抹消セラレタル如キ關係ニ在リテハ買主ハ抹消證明回復ノ請求ハ勿論賣主ニ對シ移轉證明若ハ登記手續ノ義務ノ履行ヲ求ムルヲ得サルモノトス何トナレハ買主ハ現ニ所有權ヲ有セス又重ネテ其後者ニ對シ移轉證明若ハ登記手續ヲ爲スヘキ責務ナキヲ以テナリ
(大正九、六、一一)

○土地所有權カ乙ヨリ丙丁戊己ニ輾轉讓渡セラレタル場合ニ於テ丙丁間ノ賣買カ詐害行爲トシテ乙丁間ノ確定判決ニ依リ取消サレ次テ乙丙間ノ賣買ハ乙ノ解除權ノ行使ニ依リ解除セラレタリトスルモ詐害行爲取消ノ效果ハ相對的ニシテ訴訟當事者間ニ取消ノ效果ヲ發生スルニ止マルモノナレハ現ニ轉得者戊己カ該訴訟ノ當事者ニ非サル限り前記取消ノ判決ニ依リ土地所有權ハ當然債務者丙ニ復歸スヘキモノニ非ス從テ又乙ハ乙丙間ノ賣買ノ解除ニ依リ該土地ノ所有權ヲ丙ヨリ自己ニ回復スルヲ得サルヤ當然ナレハ乙ハ如上原因ニ依リ該土地ノ上ニ自己ノ所有權ヲ主張スルヲ得ルモノニ非ス (大正九、六、一一)

第五百六十條

○賣買契約締結ノ當時賣買ノ目的物カ第三者ノ所有ニ屬スルコトヲ知ラ

ス賣主自己ノ所有ト信シテ之ヲ賣却シタル場合モ當初ヨリ第三者所有ノ物件ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ト同シク賣主ハ第三者ヨリ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負擔スルモノトス (大正四、四、二〇)

○他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ賣主カ其ノ權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキ善意ノ買主ハ一般債務ノ履行不能ナルトキト等シク契約ノ解除ヲ爲スコトナクシテ直ニ履行ニ代ル損害賠償ヲ請求シ得ルモノトス (大正一三、九、三〇)

○他人ノ物ト雖賣買ノ目的物ト爲シ得ルカ故ニ賣買ノ目的物カ何人ニ歸屬スルヤハ當然賣買契約ノ要素ヲ爲スモノナリト謂フコトヲ得ス
(昭和三、七、二四)

第五百六十三條

○民法第五百六十三條第三項ニ規定セル損害賠償ノ請求權ハ同法第五百六十四條ノ前條ニ定メタル權利トアル中ニ包含スルモノトス (大正四、七、六)

○民法第五百六十三條第一項ニ所謂「移轉スルコト能ハサルトキ」トハ其移轉カ必スシモ絶對的不能ノ場合ノミヲ謂フニ非ラス一般取引ノ通念

大	四	三	二	一
大	三	二	一	〇
大	二	一	〇	〇
大	一	〇	〇	〇

大	九	七	二	五
大	八	六	一	〇
大	七	五	〇	〇
大	六	四	〇	〇

ニ於テ不能ニ屬スヘキモノナルトキハ其移轉ハ尙不能タルヲ妨ケス
(大正七、一、二九)

○泷梁ノ賣買ニ於テ豫定ノ收穫高ニ不足アルモ其足ラサル部分ノ割合ニ
應シテ代金ノ減額ヲ爲スヘキ慣習ナシ (大正九、三、五)

第五百六十五條

○民法第五百六十五條ニ數量ヲ指示シテ爲シタル賣買トハ特定物ノ賣買
ニ於テ賣主カ其目的物ノ數量ヲ指示シ且其數量ヲ基礎トシテ代金額ヲ
定メタル場合ヲ指稱スルモノニシテ單ニ目的物ヨリ收得スヘキ收穫物
ノ數量ヲ指示シタル賣買ヲ云フモノニ非ス (大正九、三、五)

○上告人カ被上告人ヨリ本件未登記ノ土地ハ全部開墾セル畚ニシテ六十
町六反二畝二十三歩ノ面積アルモノトシ之ヲ買受ケタルニ其實一部ハ
未墾地ニシテ畚ニ非サリシトスルモ苟モ賣買ノ目的物タリシ土地ノ坪
數ニ不足ナク同面積ノ未登記土地存在セル以上賣買ノ目的物ノ數量ニ
不足アリト云フヲ得サルヲ以テ民法第五百六十五條ニ依ル代金減額ノ
請求權ナキモノトス (大正九、一、一、二)

○民法第五百六十五條ニ所謂數量ヲ指示シテ爲シタル賣買トハ特定物ノ
賣買ニ於テ賣主カ其目的物ノ數量ヲ指示シ且其數量ヲ基礎トシテ代金

大	大	大	大
九	九	九	七
七	七	七	五
四	七	七	二
五			

額ヲ定メタル場合ヲ指稱ス (大正一〇、二、二一)

○目的物ヨリ收得スヘキ收穫物ノ數量ヲ指示シ之ヲ賣却條件トスルモ之
ヲ標準トシテ目的物ノ數量ヲ指示シタルモノト云フヲ得ス (大正一〇、
二、二一)

第五百七十三條

○賣買ノ目的物ノ引渡ニ付期限アルトキハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ
期限ヲ附シタルモノト推定スルコト民法第五百七十三條ノ規定スル所
ナルヲ以テ從テ斯カル場合ニハ代金ノ支拂ニ付特ニ別異ナル期限ノ定
メアルコトノ反證ナキ限りハ目的物ノ引渡ト代金ノ支拂トハ同時履行
ニ係ルモノトス而シテ代金支拂ノ方法トシテ手形ヲ振出ス場合ニ於テ
モ亦之ト同一ニ論スヘキハ當然ナリ (大正一〇、一〇、一四)

第五百七十五條

○賣主ニ於テ既ニ賣買ノ目的物ヲ引渡シタル後ハ假令代金支拂時期ノ到
來以前ニ目的物ヨリ果實ヲ生シタルトキト雖モ其果實ハ賣主ニ屬セス
シテ買主ニ屬シ買主ハ民法第八十九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ取得スルモ
ノトス (大正九、一、二三)

○朝鮮ニ於テハ賣買ノ目的タル土地ノ收穫ニ付テハ特約ヲ以テ其歸屬ヲ

大	大	大	大
九	一〇	一〇	一〇
七	八	八	八
四	二九五	二九	二八

定ムルヲ通例トシ若特約ナキトキハ耕作地ニ在テハ其作物カ成熟セルトキハ賣主ノ所得ニ歸シ成熟ニ至ラサルトキハ買主ノ所得トシ稻田ニ在リテハ其收穫ハ白露前ノ賣買ニ在テハ買主ノ所得ニ歸シ白露後ノ賣買ニ在リテ賣主ノ所得ニ歸スル慣習ニシテ收穫期以後ニ於ケル土地賣買ニ在テハ稻田タルト否トニ關セス收穫物ハ賣買ノ目的ニ包含セストノ一般慣習アルコトナシ (大正九、五、二五)

○朝鮮ニ於ケル稻田ノ賣買ニ在リテハ其賣買白露前ナルトキハ收穫ハ買主ノ所得ニ歸シ白露後ナルトキハ賣主ノ所得ニ歸スル慣習一般ニ行ハレ獨リ朝鮮人相互間ノ賣買ニ限ラス内地人ト朝鮮人間ノ賣買ニモ行ハルル慣習ナリトス (大正一〇、二、二二)

○朝鮮ニ於テ稻田ノ賣買ニ付キ白露ノ前後ニ依リ其ノ收穫ノ歸屬ヲ異ニスル慣習ハ賣主カ土地ノ引渡ヲ爲シタル當時其地上ニ生育セル稻ヨリ生スヘキ收穫ニ關スルモノトス (大正一二、五、四)

○白露ノ前後ニ依リ土地ノ秋收カ買主ニ移轉シ若ハ移轉セスト爲スハ畚ノ賣買ニ關スル慣習ニシテ當事者ノ契約ノ内容ヲ解釋スルニ當リテノ規準ニ過キス競賣法及民事訴訟法ニ依ル強制競賣並國稅徵收令ニ依ル公賣ニ在リテハ競落ニ因リテ競落人若ハ買受人ニ移轉スル權利ノ内容

大 九 七 三二

大 一〇 八 四九六

大 三 一〇 二八

ハ法律ノ規定ニ依テ定マリ當事者ノ意思ヲ解釋スル餘地ナク從テ白露ノ前後ニ依リ區別アルコトナシ (昭和四、九、二七)

第三款 買 戻

第五百七十九條

○買戻ハ賣買契約ノ解除ナルモ買戻ヲ爲スニハ賣主ハ解除ノ意思表示ノ外ニ買戻代金及契約ノ費用ヲ現實ニ提供スルコトヲ要ス (大正五、一〇、三〇)

○適法ナル買戻權ノ行使アリタルトキハ賣買解除ノ效ヲ生シ既存ノ契約關係ヲ消滅セシメ曾テ契約ナカリシト同一ナル状態ニ回復セシムヘキモノトス從テ賣買ニ因リテ移轉シタル所有權ハ買戻ノ意思表示アリタルト同時ニ當然賣主ニ復歸シ別段ニ所有權ヲ移轉スル意思表示アルコトヲ要セス (大正五、一二、二二)

○民法第五百四十五條ハ解除ノ結果或ル給付行爲ヲ爲シテ原狀ニ回復スルコトヲ要スルカ如キ場合ニ於ケル義務ノ負擔ヲ規定シタルモノニシテ所有權ノ如キ買戻ノ意思表示ニ依リ當然原權利者ニ復歸スヘキモノニハ其適用ナキモノトス (大正五、一二、二二)

○民法第七十六條ニ所謂意思表示ハ物權ノ設定又ハ移轉ノ意思表示ヲ

大 四 一六 三〇

大 五 三 七九七

大 五 三 九九七

大 五 三 九九七

○指稱シ買戻ノ意思表示ハ之ヲ包含セス (大正五、一一、二二)

○還退ナル文詞ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル解除條件附特約ノ場合ニ於テハ買戻ノ意義ニ使用セラルルヲ通例トスト雖賣買契約後ニ於テハ或ハ單純ナル同契約解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ條件ヲ附シタル同契約解除ノ意義ニ使用セラレ或ハ再賣買ノ豫約ノ意義ニ使用セララル等種々ノ場合アルヘキヲ以テ朝鮮一般ニ行ハルル慣用上常ニ必ス單純ナル契約解除ノ意義ノミニ使用セラルルモノト謂フヲ得ス (大正六、三、一三)

○咸鏡北道明川郡地方ニ於テハ還退ノ特約ヲ附シテ土地ノ賣買ヲ爲ス場合ニハ契約ノ際原價ニテ還退ヲ爲スカ時價ニテ還退ヲ爲スカヲ約スルヲ通例トシ時價ニ依リ還退ヲ爲スコトヲ約シタル場合ニハ其文記ニ加文還退又ハ加錢還退ト記載スル慣習アリ (大正九、一一、一一)

○上記ノ慣習ニ依レハ還退ノ特約ニハ買主ニ於テ原價ヲ返還シテ賣買ノ解除ヲ爲シ得ル場合即民法ニ所謂買戻ノ特約ト同視シ得ヘキ場合ト賣主カ時價ヲ支拂ヒ所有權ヲ回復シ得ル場合即賣買ノ豫約ニ該當スヘキ場合アリトス (大正九、一一、一一)

○民法ニ所謂買戻契約ハ賣買契約ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ要シ賣買契約ノ後ニ至リテハ之ヲ爲スコトヲ得ス (大正六、三、一三)

○買戻ノ特約ニ依リ賣主カ買主ニ返還スヘキ代金ハ賣買代金ト同一ナルコトヲ要ス (大正六、六、三〇)

○買戻約款附賣買契約ノ場合ニ於テ賣主ハ買戻期間内ニ代金ヲ提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スコトヲ得サルコトハ朝鮮民事令施行以前朝鮮ニ於テ行ハレタル慣習ナリ (大正六、一一、一三)

○買戻ノ特約ニ依リ賣主カ買主ニ提供スヘキ金額ハ常ニ賣買代金ト同額タルヲ要スルモノニ非ス契約ノ費用ノ外尙當事者ノ特約ニ依リ賣買代金ノ利息ノ附加スルヲ妨ケサルハ民法第五百七十九條ノ解釋上何等疑ナキ所トス (大正九、六、二五)

○買戻特約附賣買契約ニ在リテハ買主カ賣主ニ對シ賣買ニ因ル所有權移轉登記手續ノ履行ヲ求メントスルニハ其賣買契約ニハ買戻特約ノ附着セルコトヲ表示シ賣買ニ因ル所有權移轉ノ登記ト共ニ買戻特約ノ登記手續ノ請求ヲ爲ササルヘカラス (大正九、一〇、二六)

○買戻權ハ債權ニ非スシテ買戻期間内賣買ノ賣主ニ於テ何時ニテモ原賣買ノ目的物ヲ買戻シ得ル形成權ナリ (大正一〇、一一、一)

第五百八十條

○朝鮮ニ於テハ朝鮮民事令施行前土地賣買ニ關シ不定期間ノ買戻契約ヲ

五	三	九	六	九	六	九	六
三	九	七	四	七	四	七	四
九	八	五	八	五	八	五	八

六	六	九	六	九	六	九	六
四	四	七	四	七	四	七	四
七	七	三	五	三	五	三	五
二	七	九	三	九	三	九	二

締結シタル慣習アリ (大正五、四、一一)

第五百八十三條

○買戻ニツキ民法第五百八十三條ハ辨濟ノ提供ニ關スル同第四百九十三條ノ適用ヲ除外スヘキモノニアラス故ニ買主カ豫メ賣主ニ對シ買戻代金ノ受領ヲ拒絶スル意思ヲ表示シタルトキハ賣主ハ買戻權ヲ實行スルニ付現實ニ右代金ノ提供ヲ爲スヲ要セス其辨濟ノ準備トシテ認ムルニ足ルヘキ行爲ヲ爲シタルコトヲ買主ニ通知シ其受領ヲ催告スルヲ以テ足ルモノトス (大正八、五、九)

○而シテ買主ノ買戻代金受領拒絶ノ意思表示ノ以後ニ於テ當事者間事情ノ變更ヲ認ムヘキモノアルトキハ格別ナルモ然ラサルニ於テハ受領ノ拒絶ト受領ノ催告トノ間ニ存スル期間ノ長短ハ前記買戻權ノ實行ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス (大正八、五、九)

○買戻ニツキ民法第四百九十三條但書ノ規定ハ賣主カ未タ現實ニ債務ノ本旨ニ從ヒタル買戻金ノ提供ヲ爲ササル場合ニ始メテ其適用ヲ見ルヘキモノニシテ之カ爲メ賣主ニ於テ一旦現實ニ債務ノ本旨ニ從ヒタル買戻金ノ提供ヲ爲シ買主ニ於テ之カ受領ヲ拒絶シタル事實アルヲ要スルモノニアラス (大正八、五、九)

大 五 三四八

大 八 六三三

大 八 六三四

大 八 六三四

○民法第五百八十三條ニ所謂代金ノ提供ハ金錢債務ノ辨濟ノ提供ニ外ナラサレハ其提供ノ場所ニ付別段ノ意思表示ナキトキハ同第四百八十四條ニ從ヒ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス (大正一〇、一〇、二五)

第五節 消費貸借

第五百八十七條

○娼妓ハ公認セラレタルモノナレハ其雇入資金ニ供スル金錢ノ貸借契約ハ之ヲ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル無効ノ契約ナリト謂フコトヲ得ス (明治四四、四、二九)

○消費貸借ノ場合ニ於テ借主ハ辨濟ノ提供ヲ爲シタル時ヨリ遅延利子ヲ支拂フ義務ヲ免ルルモ本來ノ債務其モノハ辨濟ノ提供ノミニ依リテ之ヲ免ルヘキモノニ非ス (大正七、一一、五)

○消費貸借ニ因ル債務ノ履行ヲ確保スル爲ニ抵當權ヲ設定シタルトキハ債權者ハ債務者カ債務ノ履行ヲ爲ササルニ當リ抵當權ノ實行ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サスシテ債務ノ履行ヲ要求シ得ヘシト雖反之流抵當權ヲ設定シタルトキハ債務者カ債務ノ履行ヲ爲ササルニ當リ當然代物辨濟ノ效果ヲ生シ之ニ因リ債務ハ消滅ニ歸スヘキモノナレハ抵當權ト流抵當權

大 一〇 八三四

明 四 一二五

大 七 八四〇

トハ其性質及效力ニ於テ相異ノ點アルコトヲ認メサルヘカラス然レトモ抵當權モ流抵當權モ共ニ消費貸借ニ因ル債務ノ履行ヲ確保スル爲ニ設定セラレタルモノナル以上消費貸借契約ニ對スル關係ニ於テハ通常從タル關係ニ在ルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ縱令從タル契約カ無効ナルトキト雖之カ爲ニ必スシモ主タル契約ヲ無効視セサルヘカラサルモノニ非スシテ特別ノ意思表示ナキ限り主タル契約ハ依然トシテ其效力ヲ保有スヘキハ當然ナレハ此關係ニ於テハ抵當權モ流抵當權モ共ニ同一ナリト謂ハサルヘカラス (大正一〇、二、二二)

○流抵當附消費貸借ヲ擔保スル爲ニ人的保證ヲ以テシタル場合ニ於テ保證人カ若シ流抵當契約ノ無効ナルトキハ消費貸借及其人的保證ヲ無効トスル旨ノ特別ノ意思表示ヲ爲シタリトセハ其事實ハ之ヲ主張スル者ニ於テ之ヲ立證セサルヘカラス其立證ナキニ於テ縱令流抵當契約カ無効ナルトキト雖消費貸借及其人的保證ハ原則トシテ之ヲ有效ト認ムヘキモノトス (大正一〇、二、二二)

○消費貸借契約ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ニ對シ法定利息ヲ支拂フコトヲ約シタルトキハ別段ノ事情ナキ限り債務者ハ法定利率ニ依ル利息ヲ支拂フ約旨ナリト解スヘキモノナレハ之ヲ以テ利息制限令ノ許容セ

大
一〇
八
四

大
一〇
八
三

ル最高ノ利率ニ依ル利息ヲ支拂フ約旨ト解スルニハ其之ヲ解スルニ足ルヘキ特別ノ理由ヲ明示スル要アルモノトス (大正一一、四、一四)

○金錢消費貸借ハ必スシモ現實ニ金錢ノ授受アルコトヲ要スルモノニ非スシテ縱令現實ニ金錢ノ授受ナキモ貸主カ借主ヲシテ現實ニ其金錢ノ授受アリタルト同一ノ經濟上ノ利益ヲ得セシメタルトキハ消費貸借成立スヘキモノトス (大正一一、七、七)

○借主カ貸主ニ對シ利息ヲ支拂フコトヲ要スル場合ニ貸主カ借主ニ對シ貸金ヲ交付シ更ニ同金員中ヨリ其利子ヲ受取ルヘキ手數ヲ省略シ貸主カ豫メ借主ニ交付スヘキ貸金中ヨリ之ヲ控除スルモ借主ハ之ヲ受取リタルト同一ノ經濟上ノ利益ヲ受クルモノナレハ其控除セル金額ニ付消費貸借成立スヘク又貸主カ借主ニ對シ自己若クハ第三者ノ振出ニ係ル小切手ヲ交付シ借主カ之ニ依リテ金融ヲ得現金ヲ受取ルコトヲ得タル如キ場合ニ於テモ借主ハ該小切手ノ授受ニ依リ現金ノ授受アリタルト同一ノ經濟上ノ利益ヲ得ヘキモノナルヲ以テ消費貸借ハ其小切手ノ授受ト同時ニ成立スルモノトス (大正一一、七、七)

○消費貸借及寄託ハ共ニ要物契約ナリト雖其ノ成立ニ要スル目的物ノ授受ハ現實ニ行ハルルコトヲ要セス經濟上授受アリタルト同一ノ狀態ニ

大
二
九
四

大
二
九
三〇

大
二
九
二六〇

置クヲ以テ足ル (大正一五、六、二二)

○消費貸借ノ貸主カ同時ニ寄託契約ノ受寄者トナリ相手方カ借主タルト同時ニ寄託者トナリテ同一金額ニ付消費貸借ト寄託トヲ契約スル場合ニハ金錢ノ引渡ヲ省略スルヲ妨ケス (大正一五、六、二二)

○當事者カ賭博ノ資金ニ供スル趣旨ニ於テ金錢ノ貸借ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該法律行爲ハ公序良俗ニ反スル事項ヲ目的トスルモノトシテ之ヲ無効トスヘキモノトス (昭和二、三、一一)

○利息制限令所定ノ制限利率ヲ超過スル部分ノ利息ニ關スル契約ハ無効ナルカ故ニ當事者既ニ任意授受ヲ了シタルモノハ格別未タ授受ヲ了セサルモノニ付テハ利息制限令ノ規定ニ從ヒ更ニ計算ヲ爲シ元利金ノ辨濟ヲ爲ササルヘカラサルモノニシテ縱令當事者カ利息制限令ノ規定ニ超過スル利息ヲ授受スヘキコトヲ約定スルモ有效ナル債務關係ヲ發生セシムルコトヲ得サルニ依リ其ノ債務關係ヲ目的ト爲シタル消費貸借ハ無効ナリ (昭二、九、六)

○面ノ出納ニ關シ現實ニ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ收入ヲ受領スル權限ハ會計員ニ屬シ面長ニ屬セス故ニ面カ第三者ヨリ金員ヲ借入レントスル場合ニハ面ノ代表者ハ面長ナルモ會計員ニ於テ借入金ヲ受領スルニ非サ

レハ消費貸借ノ效力ヲ生セス (昭和四、三、八)

第五百八十八條

○舊債務ノ消滅シテ新債務ノ發生スルハ更改ニ限ルニアラス支拂フヘキ債務ヲ負擔スル場合ニ當事者雙方合意ノ上之ヲ貸金ニ改メタルトキニ於テモ舊債務消滅シテ新債務發生スルモノトス (大正四、二、一一)

○當事者カ從來債務ノ目的タル金錢ヲ目的トシテ消費貸借(所謂準消費貸借)ノ成立シタルコトヲ主張シ其立證トシテ提出セラレタル證書ニ於テ從來債務ニ關スル記載ナク單ニ金錢ヲ借用スル旨ノ記載アルトキト雖反證ナキ限り其主張事實ハ一應立證セラレタルモノト云フヘク從來ノ債務ヲ否認シテ準消費貸借ノ成立セサルコトヲ主張スル者ハ反證ヲ提出スル義務アルモノトス (大正一一、七、二五)

○民法第五百八十八條ノ規定ニ依ル所謂準消費貸借ニ因ル金錢債務ノ支拂ヲ求ムル訴ニ於ケル請求ノ原因タル事實ハ當該準消費貸借ノ事實關係ニ外ナラスシテ其ノ貸借ノ目的ト爲シタル舊債務ノ發生事由ニ係ル事實ハ如上訴ニ於ケル請求ノ原因タル事實ニ屬セス從テ其ノ訴ノ原告タル者ハ何時ニテモ任意ニ斯ル事實ヲ補充シ若クハ更正スルコトヲ得ヘキモノトス (大正一一、八、七)

大	昭	大	昭
四	二	二	二
一六	四	一三	四
四	二	一五	六
三	一	一三	六
三五	一	一五	六
二	一	一三	六
九	一	一三	六
二七	一	一三	六
一	一	一三	六
一〇	一	一三	六
二六	一	一三	六

○金錢ノ消費貸借ノ豫約ニ基ク債權ノ目的ハ金錢ノ支拂其ノモノニ非スシテ金錢ノ支拂ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトニ在ルカ故ニ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ト謂フコトヲ得ス然レハ該豫約ニ基キ支拂フヘキ金錢ヲ以テ準消費寄託ノ目的ト爲スコトハ之ヲ許容セサルモノトス (大正一二、一〇、三〇)

第五百八十九條

○消費貸借ノ豫約ハ諾成契約ニシテ豫約者ハ契約ノ趣旨ニ從ヒ契約ノ目的物タル金錢其他ノ代替物ヲ引渡シ消費貸借ヲ成立セシムル債務ヲ負擔スルモノトス (大正一一、八、二五)

○豫約者カ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ相手方ハ債務ノ不履行ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒ其履行ヲ強制スルコトヲ得ヘキモノトス (大正一一、八、二五)

○消費貸借ハ借主ノ信用ヲ基礎トスルモノナルカ故ニ其ノ豫約ニ基ク債權利ハ讓渡スルコトヲ得サルモノトス (昭和四、九、二七)

第七節 貸借

第一款 總則

第六百一條

三	二	二	四
一〇	九	九	一六
三六	三五	三五	三七

○朝鮮ノ慣習ニ於テ小作地ハ小作人ニ於テ占有ヲ爲シ地主モ亦小作人ニ依リテ占有ヲ爲スモノニシテ舍音ハ之カ占有ヲ爲スモノニ非ス(大正二、三、一四)

○朝鮮ノ慣習ニ於テ賭租ハ他人ノ土地ニ付使用收益ヲ爲ス場合ノ對價ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ取得スル權利ノ存續期間日割ヲ以テ取得スヘキモノトス (大正二、三、一四)

○朝鮮ニ於テ小作ニ付期限ノ定ナキモノト雖モ春分後冬至前ノ耕作季節内ニ於テハ地主小作人共ニ隨意解約ヲ爲スコトヲ得サルハ一般ノ慣習ナリ (大正六、一〇、一九)

○朝鮮ニ於テ小作人ハ其小作地ニ對スル利益ノ行爲ヲ地主ノ代理トシテ爲スコトヲ得ヘシトノ一般慣習ハ存在セス (大正七、四、五)

○朝鮮ニ於テ番ノ貸借契約ニ基ク土地ノ賃料タル小作料ノ支拂方法ニ關シテハ打租ニ依ル場合ト賭租ニ依ル場合トノ二アリテ前者ハ毎年實地ニ就キ收穫ノ一半ヲ小作料トナスモノ後者ハ收穫ニ對スル小作料ノ割合ヲ定メ年ノ豊凶ニ拘ラス一定ノ小作料額ヲ支拂フモノニシテ二者何レニ從フヘキカハ固ヨリ契約當事者ノ自由ナリトス (大正七、七、九)

○當事者カ敵國人ニシテ家賃債權ニ付先取特權アリト主張スルトキハ大

二	二	六	七
二	二	四	七
一五九	一五九	八六四	六三〇

正六年五月五日朝鮮總督府令第二十六號（對敵取引禁止令施行ニ關スル件）ニ依リ其敵國人カ朝鮮總督ヨリ家屋貸借ノ許可ヲ受ケタリヤ否ヤヲ調査スルコトヲ要ス（大正七、七、一〇）

○土地ニ付相手方ノ所有權ヲ認メテ之ヲ賃借スル意思表示ヲ爲シタルトキハ反證ナキ限り當事者間ニ於テハ貸借人ニ所有權アリト推定スヘキモノトス（大正七、一一、二七）

○貸借契約ハ所有權ノ移轉ヲ目的トスルモノニ非スシテ單ニ物ノ使用收益ヲ目的トスルモノナレハ假令賃借人自身ノ所有物ト雖現在貸主カ其物ニ付權原ニ因リ占有ヲ爲スノ權利ヲ有スルトキハ其權利ノ範圍内ニ於テ貸借ノ成立ヲ妨ケサルモノトス（大正八、二、一四）

○貸借契約ハ單ニ物ノ使用收益ヲ目的トスルモノナルカ故ニ其目的物カ貸借人ノ所有ニ屬セスシテ賃借人ノ所有タル一事ニ依リ當然無効トナルモノニ非ス貸借人カ之ヲ賃借シ得ヘキ權利ヲ有スル場合ハ勿論所有者タル賃借人カ自己ノ所有物ヲ賃借スルニ付利益ヲ有スル場合例ヘハ物ノ所有ニ付當事者間爭アリ其爭ノ終局スル迄實際ノ所有者カ之ヲ賃借シ使用收益スルカ如キ場合ニアリテハ眞ノ所有者ト雖モ賃借契約ニ依リ利益ヲ受クヘキモノナルヲ以テ賃借契約ハ有效ニ成立スヘキモノトス（大正一〇、三、二五）

○賃借契約カ無効ナルトキハ該契約ニ基キ支拂ノ賃料ハ土地ノ使用ノ對價ナリト云フヲ得サルヲ以テ法定果實ナリト云フヲ得ス（大正一〇、三、二五）

○本件ニ付之ヲ觀ルニ一方ハ賃借權ノ存在スルコトヲ主張シ他方ハ之ヲ爭フモノナルヲ以テ繼續スヘキ權利關係ニ付爭ノ生シタル場合ニ該當シ一方ハ此爭アル賃借權ノ存否ヲ確定シ將來ニ繼續スヘキ爭ヲ絶止スルノ必要アリ且自己ニ有利ナル判決ヲ得テ爭ヲ絶止スルコトヲ得ヘク這ハ一方カ本件係爭地ニ付占有ヲ爲スト否トニ拘ラス又其究局ノ目的ヲ達スルカ爲メ更ニ給付ノ請求ヲ爲スヲ要スル場合ナルト否トヲ問ハサルカ故ニ確認ノ訴ヲ提起シ得ルコト多言ヲ要セス（大正一〇、七、一九）

○不動産賣買契約カ解除セラレタル場合ニ於テ買主ヨリ不動産ヲ賃借シタル者ト雖賃借借ニ付登記ヲ爲スニ非サレハ賃借權ヲ以テ解除者ニ對抗スルヲ得ス此見解ハ民法第五百四十五條但書ノ規定アルカ爲ニ影響アルコトナシ（大正一〇、一一、二二）

大	一〇	大	一〇
大	八	大	八
大	四四七	大	八九
大	八	大	八九
大	二五九	大	八
大	八	大	八
大	四四七	大	八

大	七	大	七
大	五六四	大	七
大	五二〇三	大	七
大	八	大	七
大	六四五	大	七
大	八	大	七
大	六四五	大	七

契約ナル場合トフ問ハス地主カ耕作者ニ土地ノ使用及收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ耕作者カ之ニ賃料ヲ支拂フコトヲ約スル契約關係ニシテ其條款ノ如何ニ從ヒ或ハ永小作或ハ賃借ノ關係成立スルニ止マリ組合關係ヲ形成セサルモノトス (大正一二、六、二二)

○不動産ノ賃借ハ之ヲ登記スヘキ特約アルニ非サレハ賃借人ハ登記ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス (大正一四、二二、二二)

○賃借人カ賃借物ニ付所有權ヲ取得シタルノ一事ニ因リ賃借契約ハ當然消滅ニ歸スヘキモノニ非ス (昭和二、五、二〇)

○前項ノ場合ニ於テ賃料ノ支拂ヲ拒否セムニハ賃借人カ其ノ所有權ニ基キ現實ニ物ヲ占有シ其ノ固有ノ權利トシテ使用收益ヲ爲シタルコト換言スレハ賃借人ニ於テ物ノ使用收益ニ付何等ノ權原ナキ爲其ノ義務ノ履行ヲ爲シ能ハサリシコトヲ主張シ且立證セサルヘカラス (昭和二、五、二〇)

第二款 賃借ノ效力 第六百五條

○不動産ニ付其ノ所有者カ他人ニ之ヲ賃借セル事情ヲ知リテ其ノ所有權ヲ取得シタル場合ニ於テモ其ノ賃借カ登記シタルモノニ非サルトキ

ハ別段ノ合意ノ存セサル限り第三取得者ハ該賃借關係ヲ無視シテ其ノ權利ヲ行使シ得ヘキモノトス (大正一四、七、一四)

第六百十二條

○傳賃契約ニ依リ家屋使用ノ權利ヲ得タル者カ該家屋所有者ノ承諾ヲ得スシテ其權利ヲ第三者ニ讓渡シテ全然其關係ヨリ離脱シ又ハ該契約ヲ持續シテ其家屋ヲ轉賃スルヲ得ルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ (明治四五、三、八)

○賃借人カ賃借人ノ承諾ヲ得スシテ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉賃スルモ其行爲ハ當然無効ニ歸スルモノニ非ス (大正四、一二、一七)

○平安北道博川郡德安面地方ニ在リテハ泥生地ヲ防塞シテ畚トナシ之ヲ耕作スル爲メ普通三年乃至六年ノ期限ヲ以テ賃借契約ヲ締結シ其期限内ニ於テハ借主ノ權利ハ物權的效力ヲ有シ其土地ノ所有權ヲ讓受ケタル第三者ニ對シテモ其權利ヲ對抗スルヲ得ヘキ地方慣習存在ス (大正七、三、八)

○賃借人カ之ニ住家其他ノ建物ヲ建築シ所有スル土地ノ買主ハ前所有者タル賣主ノ該土地賃借義務ヲ承繼シ引續キ其土地ヲ該建物所有者ニ貸與セサルヘカラサル慣習ハ平壤地方ニ存セス (大正一一、八、八)

大	大	大	大	大
二	七	四	四五	一四
九	五	三	一	三
二九二	一七〇	三五二	四四三	二六三

昭	大	大	大
二	二四	二四	二四
一七二	一七二	一七二	一七二

第三款 貸借ノ終了

第六百十七條

○將來ニ於ケル賃借人ノ滯納賃料ニ付存スル保證契約ハ保證期間ヲ定メ
ス貸借契約亦期限ノ定ナキ場合ニ於テハ保證人ヨリ之カ解約ノ申入
ヲ爲スコトヲ得 (大正一五、三、二三)

○保證契約ハ右解約申入後民法第六百十七條ノ期間ヲ經過スルコトニ因
リテ終了シ保證人ハ將來ニ向ツテ其ノ責任ヲ免ルルモノトス(大正一五、
三、二三)

第九節 請 負

第六百四十一條

○民法第六百四十一條ノ規定ハ注文者ニ於テ損害賠償ノ提供ヲ爲ササレ
ハ請負契約ヲ解除シ得サル趣旨ニ非スシテ注文者ハ解除ヲ爲シ得ルモ
之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セサルヘカラサルコトヲ規定シタルモ
ノトス (大正一二、六、五)

第十節 委 任

第六百四十三條

○舍音ハ其關係地所ニ付本主ノ爲メニ作人ヨリ收租等ヲ爲シ其引渡ヲ了

ルマテハ代理占有ヲ爲スヘキ性質ノモノニシテ法律上ノ意義ニ於テハ
管理人ニ異ナラス (明治四三、四、二二)

○取立委任ヲ受クルモ裁判上ニテハ訴訟ヲ提起スルヲ得ス (明治四三、九、
二六)

○朝鮮人間ニ於テ仲介人ノ手ヲ經テ土地家屋ヲ賣買シタルトキハ特約ナ
キ限りハ一般ニ依頼者ヨリ仲介人ニ對シテ口錢ヲ支拂フ慣習アリ其額
ハ各地方ニ依リ多少ノ差異アルモ賣買代金百分ノ一乃至二ニシテ京畿
道方面ニ於テハ百分ノ一ヲ支拂フ慣習アリ (大正八、六、三〇)

○仲介料(口錢)ハ仲介ヲ依頼シタル者ヨリ支拂フ慣習ナルヲ以テ賣主買
主雙方ヨリ仲介ヲ依頼シタルトキハ仲介人ハ雙方ヨリ各之カ仲介料ヲ
貰受クルコトヲ得ヘキモノトス (大正八、六、三〇)

○田番ノ管理ヲ委託セラレタル舍音ハ其田番ニ付本主ノ爲作人ヨリ賭租
ノ取立ヲ爲シ本主ニ對シ之カ引渡ヲ了ル迄其代理占有ヲ爲スヘキモノ
ナルモ(明治四十三年四月二十一日當院判決參照)其收穫租賣却ノ受託
カ朝鮮ノ慣習上舍音ノ田番管理事務中ニ包含セララルコトハ當院ノ認
メサル所ナリ (大正九、六、八)

○土地賣却ノ委任ヲ受ケタル者ハ第三者ニ對シ代理人トシテ當ニ賣買契

大	大	大	明	明
九	八	八	四	四
七	六	六	一	一
三九	四九	四九	三	六

大	大	大
三	一五	一五
一〇	一三	一三
六一	四九	四九

約ヲ締結スル權限ヲ有スルニ止マラス特別ノ意思表示ナキ限り其代金ヲ受領スル權限ヲモ併セ有スルモノト認ムルヲ相當トス(大正九、四、二三)

○契約ノ實行ト其解除トハ法律上ノ性質相異ナル事項ナルヲ以テ縱令契約ノ實行ニ付其權限ヲ委任セラレタレハトテ契約ノ解除ノ意思表示ヲ受クルニ付相當ノ權限ヲ有スルモノト云フコトヲ得ス(大正九、一一、三)

第六百四十六條

○受任者ハ委任者ノ爲ニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ヲ委任者ニ移轉シ且受任事務ヲ處理スルニ當リ受取リタルモノヲ委任者ニ引渡スヘキ義務ヲ負フモノトス(大正元、一一、五)

○民法第六百四十六條第二項ニ依レハ受任者カ委任者ノ爲ニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ受任者ニ歸屬スルヲ以テ之ヲ委任者ニ移轉セサルヘカラスト雖モ之ヲ委任者ニ移轉セシムル爲メノ意思表示ハ必スシモ其效果カ受任者ニ歸屬シタル後ニ於テスルコトヲ要セス當事者カ豫メ其意思表示ヲ爲シタルトキハ其效果ノ受任者ニ歸屬スルト同時ニ當然委任者ニ移轉スルモノトス(大正九、三、一一)

○凡ソ委任者ト受任者トノ間ニ於テ豫メ委任者ヲシテ直ニ權利ヲ取得セシムルノ特約アルトキハ受任者カ自己ノ名ヲ以テ權利取得ヲ爲スト同

大	九	元	九	大	九
大	七	二	七	大	七
大	一一	五四	四三	大	二六

時ニ當然委任者ニ對シ權利移轉ノ效果ヲ生スルモノニシテ之カ爲メ敢テ特別ノ意思表示ヲ爲スノ必要ナキモ然ラサル以上ハ受任者ハ唯其取得シタル權利ヲ委任者ニ移轉スル債務ヲ負擔スルニ止マルヲ以テ其債務ノ履行トシテ權利移轉行爲ヲ爲シタル場合ニ始メテ其權利ハ委任者ニ移轉スルモノトス(大正一〇、一一、二)

○委任解除ノ場合ニ於テ受任者ハ委任事務處理ノ爲受領シタル金錢ニシテ其ノ手裡ニ殘存スルモノハ之ヲ委任者ニ返還スルコトヲ要スト雖委任事務ノ處理上既ニ支出シタル金錢ヲ返還スルノ義務ナキモノトス(大正一四、三、一三)

○株式ノ買入ヲ委託セラレタル者カ委託ノ趣旨ニ從ヒ株式ノ賣買ヲ爲シ既ニ代金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ其ノ後ニ至リ委任解除ト爲ルモ代金支拂ノ爲委託者ヨリ受取リタル金額ヲ委託者ニ返還スル義務ヲ生セス(大正一四、三、一三)

○委任契約ハ専ラ委任者ノ利益ヲ圖ル爲ニノミ締結セラレタル場合ニ限り何時ニテモ之ヲ解除シ得可キモ其委任事務ノ處理カ委任者ノ爲ノミナラス受託者ノ利益ヲモ目的トスルトキハ委任者ニ於テ任意ニ其委任ヲ解除スルコトヲ得サルモノトス(昭和三、七、二七)

大	一〇	大	一四	大	一四
大	八	大	二	大	二
大	五四九	大	六	大	六

第十一節 寄託

第六百五十七條

○使用人トシテ穀類ヲ買收シ之ヲ寄託シタル事實及其使用人タリシモノカ該寄託穀類ヲ他ニ貸付ケ居リタル事實アリタレハトテ同人カ該寄託穀類受領ノ權限アリタルモノト認メサルヘカラサルモノニアラサレハ他ノ事實證據ニ依リ其權限ナキコトヲ說示スルハ違法ニアラス (大正六、三、二〇)

○當事者相通シテ虛偽ノ寄託契約ヲ爲スニ當タリ他ノ隱秘セル目的ニテ物ノ授受ヲ爲シタルニ拘ハラズ之ヲ寄託物トシテ授受シタル如ク裝ヒ契約ヲ爲スコトアルヘシト雖モ場合ニ依リテハ當事者間ニ全然物ノ授受ナク而カモ之レアリタル如ク事實ヲ架構シ其旨ノ寄託契約ヲ締結スルコトナキニアラス (大正一一、二、一七)

○此後者ノ場合ニハ寄託契約ノ成立要件タル物ノ授受ヲ伴ハサルモ有效ナル寄託契約ノ成立シタル外觀ヲ有スル點ハ前者ノ場合ト同一ナレハ該契約ノ當事者ト取引シタル善意ノ第三者ハ民法第九十四條第二項ノ保護ヲ受クルヲ當然トス (大正一一、二、一七)

○消費貸借及寄託ハ共ニ要物契約ナリト雖其ノ成立ニ要スル目的物ノ授

大	二	六
二	九	四
九	三	一
三	九	七

受ハ現實ニ行ハルルコトヲ要セス經濟上授受アリタルト同一ノ狀態ニ置クヲ以テ足ル (大正一五、六、二二)

○消費貸借ノ貸主カ同時ニ寄託契約ノ受寄者トナリ相手方カ借主タルト同時ニ寄託者トナリテ同一金額ニ付消費貸借ト寄託トヲ契約スル場合ニハ金錢ノ引渡ヲ省略スルヲ妨ケス (大正一五、六、二二)

第六百六十二條

○結錢換用ハ一ノ寄託契約ニ外ナラス故ニ委託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルヲ得ヘシ (隆熙三「明治四二」四、一六)

○保管ノ目的ニ出テタル信託行爲ニ在リテハ信託者ハ其一方ノ意思表示ニ依リ任意ニ其信託契約ヲ解除スルコトヲ得 (大正八、一〇、一四)

○不動産ニ關スル權利ノ保全ヲ目的トスル信託契約ニ付テハ委任ノ法規ニ準據シ之ヲ解除シタルトキニ始メテ信託者ハ受託者ニ對シ原狀回復トシテ信託物ノ權利返還請求權ヲ行使シ得ヘキカ故ニ此ノ解除ノ時ヨリ之カ消滅時効進行スルモノト解スヘキモノトス (昭和四、四、九)

【反對】

○物ノ保管ヲ目的トスル信託讓渡契約ニ於テ信託者ハ相手方ニ對シ契約ノ主タル效力トシテ物ノ保管ヲ請求シ得ルト共ニ契約ノ從タル效力トシテ何時ニテモ物ノ返還ヲ請求シ得ヘキ

大	一五	一	三	大	一五
一	三	一	一	一	三
三	一	一	一	一	三
一	五	一	一	一	五

カ故ニ信託者ハ何時ニテモ相手方ノ同意ヲ得スシテ契約關係ヲ解消スル目的ヲ以テ物ノ返還ヲ請求シ得ヘシト雖契約關係ノ消滅ハ請求ニ因リテ發生スルモノニ非スシテ返還義務ノ消滅ニ因リテ發生スヘキモノトス (大正一一、一一、一七)

○信託物返還ノ請求權ハ相手方ノ行爲ヲ要求シ得ヘキ權利ニシテ而カモ何時ニテモ之ヲ行使シ得ヘキモノナレハ民法第六十六條第一項及同第六十七條第一項ニヨリ契約成立ノ時ヨリ十年間之ヲ行ハサルニヨリ消滅ニ歸スヘキモノトス (大正一一、一一、一七)

第六百六十六條

○支拂フヘキ材木代金及其他ノ立替金ヲ更ニ預ケ金トスル契約ヲ締結シタルトキハ其寄託契約中ニハ當然寄託者カ受寄者ニ對シ其目的物ノ消費ヲ許容セシ契約ヲモ爲セシモノト認ムヘキモノトス (大正元、一〇、一五)

○消費寄託ニ因ラスシテ金錢其ノ他ノ物ヲ給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其ノ物ヲ以テ消費寄託ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費寄託ハ之ニ因リテ成立ス (大正一一、一〇、三〇)

○金錢ノ消費貸借ノ豫約ニ基ク債權ノ目的ハ金錢ノ支拂其ノモノニ非スシテ金錢ノ支拂ニ因リ消費貸借ヲ成立セシムルコトニ在ルカ故ニ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ト謂フコトヲ得ス然レハ該豫約ニ基キ支拂フヘキ金錢ヲ以テ準消費寄託ノ目的ト爲スコトハ之ヲ許容セサルモノトス (大正一一、一〇、三〇)

大	二	九	四	七
大	二	九	四	七
大	元	二	三	
大	三	一〇	三	六
大	三	一〇	三	六

第十二節 組 合

○頼母子講ニ於ケル講員相互ノ關係竝ニ講元ト各講員トノ關係ハ一ニ講ノ規約ニ依ルヘク若シ講ノ規約ニ於テ講元ハ自己ノ名義ヲ以テ既當籤者ニ對シ掛戻金ノ請求ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ定メタルトキハ講元ハ自己ノ名義ヲ以テ掛戻金ノ請求ヲ爲シ得ヘシト雖其講契約ニシテ解除セラレタルトキハ當然ノ結果トシテ既當籤者ニ對スル掛戻金請求ノ權利ニ關シテハ未當籤者各自ノ部分ニ付各自其請求權ヲ有スヘキモノニシテ別段ノ契約ナキ限りハ未當籤者中ノ一人カ其名義ヲ以テ既當籤者ニ對シテ未當籤者全員ノ權利ニ關シ掛戻金ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス (大正四、五、四)

○朝鮮慣習トシテ一般ニ行ハルル小作制度上地主ト耕作者間ニ於ケル土地ノ使用收益ニ關スル法律關係ハ其ノ所謂賭租ノ契約ナル場合ト竝作ノ契約ナル場合トヲ問ハス地主カ耕作者ニ土地ノ使用及收益ヲ爲サシムルコトヲ約シ耕作者カ之ニ賃料ヲ支拂フコトヲ約スル契約關係ニシテ其條款ノ如何ニ從ヒ或ハ永小作或ハ賃貸借ノ關係成立スルニ止マリ組合關係ヲ形成セサルモノトス (大正一一、六、二二)

○無盡講ニ於ケル講員相互ノ關係竝總代ト各講員トノ關係ハ一ニ講ノ規

大	四	三	一	六
大	二	一	〇	一
大	二	一	〇	一
大	二	一	〇	一

約ニ依ルヘキモノニシテ若シ總代ハ自己ノ債權トシテ自己ノ名義ヲ以テ既當籤者ニ對シ掛戻金ノ請求ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ定メタルトキハ總代ハ自己ノ債權トシテ自己ノ名義ヲ以テ掛戻金ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス (大正一三、三、一八)

○無盡講(賴母子講)ニハ講員相互間ニ資金ノ融通ヲ目的トスル組合類似ノ契約ノ下ニ組織セラルルモノト講主カ自己ノ事業トシテ講員ヲ募集シ一定ノ時期ニ一定ノ金員ヲ拂込マシメ毎回抽籤又ハ落札ノ方法ニ依リ若干ノ金額ヲ講員ニ交付スル組織ノ下ニ經營スルモノトアリ其ノ何レニ在リテモ講員相互ノ關係又ハ講主ト各講員トノ關係ハ一ニ講ノ規約ニ依ルヘキモノトス (昭和三、三、二)

○講會ニ於テ講金ヲ落札シタル講員カ落札金ノ一部ノ交付ヲ受ケサル場合ニ於テ之カ請求權ト爾後掛戻ヲ爲スヘキ債務トヲ相殺スルコトヲ得ヘキヤ否ヤハ講規約ノ趣旨ニ從ヒテ決スヘキモノトス (昭和三、三、二)

○組合類似ノ賴母子講ニ在リテハ一定ノ開會期ニ於ケル落札金ハ其ノ會期ニ拂込マルヘキ未落札者ノ講掛金及己落札者ノ掛戻金ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトシ己落札者ノ掛戻金ハ常ニ後ノ會期ニ於ケル落札金ニ充テラルヘキモノトスルヲ通例トスルカ故ニ落札金ノ不拂カ講金ノ掛金

大	一三
大	一一
大	三

昭	三
昭	一五
昭	六

未納ニ基ク場合ニ於テモ講規約ニ別段ノ定ナク且他ニ特別ノ事情存セサル限り落札金拂渡請求權ト講金掛戻ノ債務トハ互ニ相殺スルニ適セサルモノト觀ルヲ相當トス (昭和三、三、二)

第六百六十七條

○組合ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スル契約ナレハ共同事業ノ成就ニ要スル資本ハ組合員ニ於テ之ヲ供給スルコトヲ要シ組合員カ出資ノ義務ヲ負擔スルコトハ組合契約成立ノ要件ナリ (大正六、一〇、三〇)

○其出資ハ組合員中ノ或者ニ於テ負擔シ他ノ者ニ於テ之ヲ負擔セサル場合ノ如キハ組合契約成立シ得ヘカラサルモノニシテ組合員各自カ一定ノ出資ヲ爲スヲ要件トス (大正六、一〇、三〇)

○同一ノ契約ニ關シ當事者ノ一方ハ之ヲ組合契約ナリト主張シ他ノ一方ハ組合契約ニアラスト抗爭スルモ其雙方カ該契約ノ内容トシテ現ニ主張スル事實關係ニシテ法律上組合契約ニ該當スルトキハ裁判所ハ組合契約ノ存在ヲ否定スルヲ得サルモノトス (大正八、五、六)

○國有未墾地利用法第六條第二項ノ規定ハ國有未墾地利用權カ相續ノ目的タルヲ得ル趣旨ヲ明ニシ同法施行規則第二十條第二項ノ規定ハ相續

昭	三
昭	一五
昭	六
大	六
大	四
大	九〇二
大	六
大	四
大	九〇二
大	八
大	六
大	三三〇

ニ因リ同利用權ヲ取得シタルモノハ所定ノ届出ヲ爲スヘキコトヲ命シタルニ過キスシテ之ヲ以テ民法組合ニ關スル規定ノ適用ヲ排除スルノ律意ニアラス (大正八、五、六)

○組合契約ニ於テ出資ノ受領者又ハ業務執行者ヲ定メタルニアラサル限リ組合員ノ各自ハ他ノ組合員ニ對シテ其ノ者ノ出資ノ全部タルト一部タルトヲ問ハス之ヲ請求スルコトヲ得 (大正一五、一一、三〇)

第六百六十八條

○組合財産ニ屬スル權利カ第三者ニヨリテ侵害セラレタル場合ニ於テ不法行為ヲ理由トシ之カ賠償ヲ請求スル權利ハ組合財産ヲ組成スルモノトス (大正七、一〇、二九)

第六百七十條

○組合ノ債權ハ組合員ノ一人又ハ數人カ自己ノ名ヲ以テ請求シ得ヘキ特別ノ權限ナキ以上ハ組合員全員ヨリ請求セサルヘカラス (大正六、四、一七)

○組合ノ第三者ニ對スル債權ハ組合員ノ總員又ハ其履行請求ノ權限ヲ有スル者ニ於テ之カ履行ヲ第三者ニ對シ請求スルコトヲ要シ組合員ノ一人ヨリ其履行ノ請求ヲ爲スヲ得サルモノトス (大正七、一〇、二九)

八	六	三〇
一五	一三	四四
七	五	八〇
六	四	二七五
七	五	八〇七

○組合契約ニ於テ業務執行者ヲ定メタルニ過キスシテ對外關係ノ規約ナキトキハ反對ノ意思表示アラサル限り其ノ業務執行者ハ第三者ニ對シ組合ヲ代表シテ裁判上ノ行為ヲ爲スノ權限ヲ授與セラレタリト解スヘキモノナルヲ以テ其ノ業務執行者ハ組合員ヲ代表シ自ラ訴訟ノ當事者ト爲リテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘシ (大正一四、三、三一)

第六百七十二條

○組合員ノ代理人ハ必スシモ組合員以外ノ第三者タルコトヲ要スルモノニ非スシテ組合員中ノ一人ト雖他ノ組合員ヲ代理スルコトヲ得ルモノトス (大正一一、三、一七)

○組合契約ヲ以テ業務執行者ヲ定メ而シテ其業務執行者カ組合員中ノ一人ナルトキハ組合員タル資格ト他ノ組合員ヲ代表スル資格トヲ併有スルモノニシテ其權限ニ付テハ一組合契約ニ於テ業務執行者カ第三者ニ對シ組合員ヲ代表シテ裁判上及(裁判外ノ行為ヲ爲スノ權限ヲ授與シタル場合ハ勿論單ニ業務執行者ヲ定メタルニ過キスシテ對外關係ノ規約ナキトキト雖反對ノ意思表示アラサル限り其業務執行者ハ第三者ニ對シ組合員ヲ代表シテ裁判上及裁判外ノ行為ヲ爲スノ權限ヲ授與セラレタルモノト解スヘキモノナルヲ以テ其業務執行者ハ組合員ヲ代表シ自

二	九	八九
一四	二	一〇一

ラ訴訟ノ當事者ト爲リテ訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘシ(二)組合契約ニ於テ業務執行者ニシテ組合員ヲ代表セシムルコトナク單ニ業務執行者タル箇人ノ資格ヲ以テ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲スコトヲ委任スルコトモ亦固ヨリ自由ニシテ法律上有效ナルニ依リ此場合ニ於テハ對外關係ニ於テ權利ヲ取得シ又ハ義務ヲ負擔スルハ業務執行者タル箇人ニシテ直接他ノ組合員ニ其效力ヲ及ホスモノニ非ス他ノ組合員ハ唯委任ノ趣旨ニ從ヒ業務執行者ニ對シテ權利義務ノ關係ヲ生スルニ過キサルモノニシテ業務執行者ノ爲シタル訴訟ノ結果ニ付テモ亦然リトス (大正一一、三、一七)

第六百七十四條

○目的物ノ滅失ニ因リ共同營業カ損失ニ歸シタル爲共同營業契約ニ依リ各共同者ノ負擔スヘキ損失ノ計算ヲ爲スニ當リ目的物滅失ニ因リ不當利得ヲ爲シタル者アルトキハ其滅失ニ因リ生シタル損失ヲ以テ直ニ共同者ノ負擔スヘキ損失ト爲スヲ得ス不當利得ヲ爲シタル者ニ對シ其返還ノ請求ヲ爲シタル上其結果ニ依リ計算ヲ爲シ共同者ノ負擔スヘキ損失ヲ定メサルヘカラスト雖若シ其不當利得ヲ爲シタル者カ無資力ナルコト明ナルトキハ之ニ對シ其返還ヲ求メスシテ計算ヲ結了シ目的物ノ

大
二
九
八九

○滅失ニ因リテ生シタル損失ヲ以テ直ニ共同者ノ負擔スヘキ損失ト爲スモ違法ニアラス (大正七、一一、二九)

○組合員ノ一人カ出資義務ヲ履行セサルモ其ノ者ノ爲ニ利益配當請求權ノ發生ヲ妨クルコト無シ (大正一五、九、二八)

○組合ノ事業完成シタル場合ニ於テハ清算ノ手續ヲ爲スヘキヲ通例トスレトモ既ニ事業ハ完成シテ遂行スヘキ現務ナク又事業經營ノ爲要シタル物ノ處分其ノ他組合ノ債權ノ取立債務ノ辨濟等組合ノ殘務トシテ處理ヲ要スルモノナク單ニ殘餘財産ノ分配ヲ剩スニ過キサル場合ニ於テ其ノ分配額ニ付爭アルトキハ直ニ訴ニ依リ利益配當額算定ノ基礎トナルヘキ殘餘財産ノ状態ヲ明カニシテ分配スヘキ利益金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス (大正一五、九、二八)

第六百七十八條

○民法第六百七十八條第一項本文ニハ組合契約ヲ以テ存續期間ヲ定メサリシトキハ各組合員ハ何時ニテモ脱退ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定スルトモ右ニ規定スル一方的告知ノミニ依ル脱退ノ自由ハ必シモ絶對的ノモノニアラス各組合員ニ於テ組合ノ永久存續ノ期待ヲ空シカラシメス

大	七
大	五
大	三
大	二七六

又他ノ組合員ノ利益ヲ著シク毀損スルコト無カラシメムカ爲ニ脱退ニ
相當ノ條件ヲ附シ以テ脱退ノ自由ヲ制限スルコトヲ約スルハ法ノ禁ス
ル所ニアラス (大正一五、一一、三〇)

第六百七十九條

○死亡組合員ノ相續人ハ殘留組合員ニ對シ單ニ死亡者カ組合財産ニツキ
有シタル持分ノ割合ニ應シ其拂戻ヲ受クル請求權ヲ有スルニ止マリ自
ラ組合員タルコトヲ主張シ且ツ死亡者カ組合財産ニ對シ有セシ持分ヲ
自己ノ權利トシテ主張シ行使スルヲ得サルモノトス (大正八、五、六)

第六百八十三條

○解散請求ノ意思表示カ組合員全員ヲ代表スル資格アル者ニ對シテ爲サ
レタルトキハ組合員各自ニ對シテ爲サレタルモノト同一ノ效力ヲ生ス
ヘシト雖業務執行者ニ對スル解散請求ノ意思表示ハ當然ニ組合員各自
ニ對シテ爲サレタルモノト同一ノ效力ヲ生スルモノニ非ス (大正四、四、
三〇)

○解散請求ノ意思表示ハ特約ナキ限りハ組合員各自ニ對シテ之ヲ爲スニ
非サレハ其效ナキモノトス (大正四、四、三〇)

○組合員間ニ或組合員ヲ除名スヘキヤ否ヤニ付紛議ヲ生シ其餘名ノ問題

大 一五
一三
四三

大 八
六
三〇

大 四
三
一六

大 四
三
一六

トナレル組合員ニ於テ依然組合員タルコトヲ持續シ其紛議底止スル所
ナキカ如キ場合ニ在リテハ民法第六百八十三條ニ所謂己ムコトヲ得サ
ル事由アルモノト謂ヒ得ヘキモ其餘名ノ問題トナレル組合員カ他ノ組
合員全員ノ同意ヲ得自ラ組合ヨリ脱退シタル如キ場合ニ在リテハ他ニ
特別ノ事情ナキ限り單ニ其餘名問題ニ付組合員間ニ紛議ヲ生シ協議纏
ラサリシ事實アルモ之ヲ以テ直ニ前記己ムコトヲ得サル事由アルモノ
ト謂フヲ得ス (大正八、六、二七)

第十四節 和解

○和解契約ニシテ解除セラレタルトキハ解除ノ效果トシテ當然該契約締
結前ノ状態ニ復スヘキモノナレハ和解契約前ノ原債權ハ何等ノ手續ヲ
要セスシテ復活スヘキ筋合ナリ從テ右復活ヲ以テ契約解除ニ因ル當事
者ノ原狀回復ノ義務ナリト謂フヲ得ス (大正二、六、二七)

○一個ノ和解契約ニ依リ數口ノ請求金額全部ノ紛争ヲ終局セシメタル場
合ニハ其和解契約ニ協定セラレタル數個ノ請求額ノ合算額ヲ主要ノ眼
目ト看做スヘキヤ將タ各個ノ請求金額ヲ主要ノ眼目ト看做スヘキヤハ
專ラ當事者ノ意思ニヨリ決定セラルヘキモノニシテ必スシモ其總金額
ヲ主要ノ眼目ト爲スヲ以テ普通ノ常態ナリト云フヲ得サルモノトス

大 八
六
四〇

大 二
二
三六

○訴訟上ノ和解ニ於テハ當事者相互間ノ關係ニ於テハ私法上ノ和解契約成立スルモノト解スヘキモノナルヲ以テ其ノ和解契約ニ付テハ總テ民法ノ規定ノ適用アルモノトス (昭和二、一二、一三)

第六百九十五條

○和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シ其間ニ存スル争ヲ止ムル契約ナルヲ以テ和解契約ノ成立ニハ當事者間ニ於テ權利義務ノ存否若ハ其範圍態樣ニ關シ當事者互ニ其主張ヲ異ニシ争ノ存シタルヲ要ス故ニ當事者間法律關係ニ付争ノ存スルナクハ假令當事者ノ法律關係ヲ確定スル爲メ契約ヲ爲シ之ニ和解ナル名稱ヲ附スルモ性質上和解契約成立ノ要件ヲ缺クモノナルカ故ニ法律上絕對ニ和解ノ效力ヲ生スヘキモノニアラス (大正九、五、一一)

○然レトモ當事者間ニ於テ何等法律關係ニ付争ノ存在セサルニ拘ラス當事者相通シテ互ニ讓歩ヲ爲シ其間ニ存スル争ヲ止ムル目的ノ爲メ和解ヲ爲スモノノ如ク假裝シタル契約ニアリテハ該契約ハ形式上和解ノ要件ヲ具備スルモノニシテ唯其要件ノ存在カ當事者ノ相通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示タル點ニ於テ當事者間無効ナルニ止マリ善意ノ第三者

大 七 五 五 一九

昭 二 四 三 六 九

大 九 七 一 四 七

ニ對シテハ其無効ヲ對抗スルヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス (大正九、五、一一)

聯 ○訴訟ノ當事者カ代理人ニ訴訟委任ヲ爲スニ當リ裁判上ノ和解ヲ爲スコトノ特別委任ヲ爲シタルトキハ特ニ同代理人ニ裁判外ノ和解ヲ爲ス權限ヲ付與セサル意思ヲ明ニセサル限り一應裁判上ノ和解ヲ爲ス權限ト共ニ裁判外ノ和解ヲ爲シ其ノ和解ニ基ク履行ヲ受領スル權限ヲモ付與セルモノト認ムルヲ相當トス (大正一二、六、一九)

【反對】

○訴訟行爲ニ付和解ヲ爲スノ特別委任ハ裁判上ノ委任ヲ爲シ得ヘク裁判外ニ於テ和解ヲ爲スノ權ヲ包含セサルモノトス (明治四五、三、三〇)

○訴訟委任ヲ爲スニ當リ外部關係ニ於テ何等制限スル所ナク完全ニ法廷和解ヲモ爲シ得ヘキ權限ヲ附與シタルトキハ假令其委任者ト受任者間ニ受任者ハ委任者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ法廷和解ヲ爲スコトヲ得サル旨約定スルモ开ハ委任者ト受任者間ノ内部關係ニ止マルヲ以テ受任者ニ於テ其約定ニ背反シテ和解ヲ爲スモ同人カ外部關係ニ於テ完全ニ和解ヲ爲シ得ヘキ權限ヲ有シテ爲シタル法廷和解ノ效力ニ消長ヲ來タスコトナキモノトス (大正一一、一二、二六)

大 九 七 一 四 七

大 三 一 〇 一 八 一

明 四 五 一 四 六 〇

大 二 九 五 三 七

○民事訴訟法第三百八十一條ニ依レル和解ハ私法上不成立又ハ無効若ハ取消又ハ解除ノ原因アルトキハ特ニ和解無効又ハ取消等ノ形成判決ヲ受クル迄モナク此等ノ效果ヲ生スルモノトス (大正一三、五、二二)

第三章 事務管理

第七百一條

○民法第七百一條第六百四十六條ニ依レハ事務管理ニ於ケル管理者ハ本人ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルヲ以テ他人ノ土地ニ付事務管理トシテ管理人カ自己ノ名義ヲ以テ所有申告ヲ爲シ自己名義ニ査定確定シタルトキハ其所有權ハ本人ノ爲メニ自己名義ヲ以テ取得シタルモノニ外ナラサレハ之ヲ本人ニ移轉スル義務アルハ勿論ニシテ其申告ヲ爲シタル後右管理者及本人間ニ於テ何時ニテモ本人ニ所有名義移轉登記手續ヲ爲スヘク約シタルトキハ管理者カ事務管理上ノ權利移轉義務ヲ認メテ所有權移轉登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタルモノニシテ本人ノ請求次第當然所有權ハ本人ニ移轉シ直ニ登記手續ヲ爲スヘキコトヲ約シタル趣旨ト解スルヲ妥當トスルカ故ニ斯ル契約ニハ債權契約ト物權契約ト併存スルモノト解スルハ

大
三
二
三〇

當然ナリ (大正九、六、四)

第四章 不當利得

第七百三條

○賭技輸贏ニ於ケル金錢授受ニ基因シテ取得シタル債權ハ條理上無効トス (隆熙三、明治四二、六、八)

○地所賣買ノ無効トナリタル場合ニ於テ交付シタル金員ノ返還請求ハ不當利得金返還請求ニ外ナラス (明治四四、一〇、一三)

○賭博ニ基ク債權ハ無効ナリトス (大正三、八、一三)

○確定判決ノ效力トシテ利益ヲ受クルコトアルモ法律上ノ原因ナクシテ利得シタルモノニ該當セス (大正五、四、一一)

○不當利得ノ成立ニハ利得者カ利得ヲ受ケタル爲メ之ニ因リテ他人カ損失ヲ蒙リタルコトヲ一ノ要件トス (大正七、九、二〇)

○他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メ他人ニ損失ヲ及ホシタルトキト雖モ利得者ニ於テ之ヲ利得スルニ付法律上ノ原因ヲ有スルトキハ不當利得返還ノ義務ヲ負フモノニ非ス (大正七、一〇、三〇)

○善意ノ占有者ハ占有物ヨリ生スル果實ヲ取得スルニツキ法律上ノ原因

大	大	大	大	大	大
七	七	五	三	三	九
五	五	三	二	一	七
八一九	七三七	四八八	二四八	一三六	二〇六

ヲ有スルモノトス (大正七、一〇、三〇)

○民法第五百四十五條ノ規定ニ依ル原狀回復義務者ハ相手方ヲシテ若其契約ナカリセハ享有シ得ヘカリシ地位ニ復セシムル義務ヲ有スルモノニシテ自己カ相手方ノ出捐又ハ給付ニ因リ果シテ利益ヲ受ケタルヤ否ヤ又其利益カ現存スルヤ否ヤニ拘ラサルモノトス反之民法第七百三條ノ規定ニ依ル不當利得返還義務者ハ其受ケタル利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スルノミヲ以テ足り相手方ノ地位カ原狀ニ復スルヤ否ヤニ拘ラサルモノトス (大正八、四、一五)

○民法第五百四十五條ハ解除權ヲ行使シタル場合ノ規定ナレハ當事者ノ合意ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニハ之ヲ適用スルヲ得ス當事者ノ合意ニ因リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テ若シ同條ト同一ノ效果ヲ生セシムル趣旨ノ特約ヲ成シタルトキハ固ヨリ其特約ニ從フヘキモ然ラサレハ民法第七百三條以下不當利得ノ規定ニ依リ返還義務ヲ生スルニ過キスシテ同時履行ノ抗辯權ヲ生スルコトナキモノトス (大正一〇、三、八)

○不當利得ハ第三者ノ行爲ニ因リ生シ受益者カ不當ニ利得スヘキ事實ヲ知ラサル場合ト雖苟モ受益者ニ於テ利得ヲ受クヘキ權利ヲ有セサル以上ハ不當利得ノ成立スルコトヲ妨ケス (大正一〇、五、二〇)

大 七
五
八
九

大 八
六
三
〇

大 一〇
八
六
三

大 一〇
八
一
五
八

○不法占有者カ土地ヲ賃貸シタルニ因リ取立テタル小作租ハ其ノ所有ニ歸スヘシト雖土地所有者ニ對スル關係ニ於テハ正當ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケタルモノニ外ナラサルモノトス (大正一五、一一、二)

○他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受クルモ之カ爲ニ他人ニ損失ヲ及ホスコトナキトキハ所謂不當利得返還義務ヲ生セサルモノトス (昭和二、一一、一)

第七百七條

○貸金ノ辨濟證書ハ貸金ノ權利證書ト云フヲ得サルニ依リ債權者カ貸金ノ辨濟證書ニ調印シタルコトヲ以テ民法第七百七條ニ所謂證書ヲ毀滅シタルモノト爲スヲ得ス又本來無効ナル抵當權ノ登記抹消ニ關スル委任狀ニ債權者カ調印スルモ是亦同條ニ所謂擔保ヲ拋棄シタルモノト爲スヲ得ス (大正七、一一、一九)

第七百八條

○郡守トナルノ目的ヲ以テ官吏ニ贈賄スルハ不正ノ行爲ナルヲ以テ其給付シタル金錢ノ取戻請求ハ法律上保護スヘキモノニアラス (明治四三、一一、一五)

○民法第七百八條ノ規定ハ給付行爲自體カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反

大 一五
一三
三
九
四

昭 二
一
四
三
六
一

大 七
刑 五
三
三
四

明 四
三 一
一
五
九

スル場合ノミナラス給付ノ目的若ハ縁由タル事項カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル場合ニ於テモ其給付シタルモノノ返還ヲ請求シ得サルコトヲ定メタルモノニシテ又同規定ハ不法原因カ當事者雙方ニ存スル場合ノミナラス給付者ニ付テノミ存シタル場合ニ於テモ亦其給付シタルモノノ返還ヲ請求シ得サルコトヲ定メタルモノトス (大正七、五、一四)

○代金ノ内拂ヒトシテ買主ヨリ賣主ニ交付シタル金錢ノ所有權ハ交付ト同時ニ賣主ニ移轉スルヲ通例トスルカ故ニ縱令詐欺ノ手段トシテ不法原因ニ基キ交付シタルトキト雖モ其所有權ハ交付ト同時ニ相手方ニ移轉スヘキモノトス (大正七、五、一四)

○民法第七百八條ノ規定ニ違反シ不法原因ノ爲ニ給付シタルモノノ返還ヲ約スルカ如キハ公益規定ニ違反スル法律行爲ナルヲ以テ無効ナリト雖モ賣買贈與其他新タナル法律行爲ニ基キ更ニ之ヲ前主ニ交付スルカ如キハ不法ニアラス (大正七、五、一四)

○賭博罪ニ依リ敗者カ勝者ニ給付シタル金錢ハ民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ノ爲ニ給付シタルモノニ該當シ敗者ハ勝者ニ對シ不當利得トシテ之カ返還ヲ請求シ得ヘキ權利ナキハ勿論賭博ニ依リ金錢ノ授受ヲ爲シタルトキハ當事者ハ其金錢ニ對スル權利移轉ノ意思アルモノナル

ヲ以テ之ヲ受領セル勝者ハ直ニ其金錢ノ上ニ所有權ヲ取得スヘキモノナルニ依リ敗者ハ固ヨリ所有權ニ基キ之カ返還ヲ求ムル權利ナキモノニシテ此法理ハ詐欺賭博ニ於ケル場合モ毫モ異ナルコトナシ (大正七、一一、一四)

○朝鮮鑛業令ハ鑛業權ノ讓渡ハ鑛業原簿ニ登録ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セサルコトヲ規定スルヲ以テ登録前讓受人ニ於テ鑛物ヲ採掘シタルトキハ鑛業權ヲ有セスシテ採掘シタルモノトナリ刑罰ニ處セララルヲ免レス從テ登録前ニ讓渡ノ效力ヲ生セシメ讓受人ニ鑛物ヲ採掘スルノ權ヲ許與シ其代償金ヲ定ムルモ其契約ハ公益規定ニ反シ不法ノ原因ヲ帶有スルニ依リ無効ニ歸スルト共ニ授受シタル代償金ハ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノニシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス (大正一一、六、三〇)

○民法第七百八條ハ公ノ秩序ニ關スル規定ナルヲ以テ之ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無効タルヘキモノトス (昭和三、一一、二二)

第五章 不法行爲

第七百九條

民法 債權 不法行爲

七〇九條

三二七

大	七	七	七
刑	五	五	五
二	四〇一	四〇一	四〇一
九			
三			
一五			
三五九			

○不法行爲ノ原因タル過失ハ普通人ノ注意ノ及フ範圍ニ限定セララルモ重大ノ事項ニ關シテハ周密ナル注意ヲ要シ些細ナル事項ニ關シテハ輕微ナル注意ニ止マル等各場合ノ事情ニ應シテ注意ノ程度ヲ異ニス
(明治四四、二、一〇)

○普通人ノ注意ヲ缺キテ判決理由中主文ニ包含セラレスシテ確定力ヲ有セサル抵當權ニ付既判力アルモノノ如ク解釋シ自己ニ抵當權アリトシテ松林ヲ伐採シタルハ過失ノ責ヲ免レス
(明治四四、二、一〇)

○被害者カ金錢ヲ以テスル損害賠償ト併セテ名譽回復ニ適スル方法トノ請求ヲ爲スモ結局一個ノ損害賠償ノ請求タルニ過キササルモノトス
(大正三、九、一四)

○前項ノ場合ニ於テ金錢ヲ以テスル損害賠償ノ請求ヲ排斥スルハ一個ノ請求ニ對シ幾部ノ制限ヲ加ヘタルモノニ過キスシテ不當ニアラス
(大正三、九、一四)

○債權ハ債權者對債務者間ノ相對的關係ニシテ第三者ハ之ニ關シテ何等ノ義務ヲ負擔スルモノニ非スト雖其債權者ノ利益ノ享受ヲ侵害シタルトキハ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任アリ
(大正四、四、一三)

○債權者カ債務者所有ノ不動産ニ對シテ強制執行ヲ開始シタルニ當リ第

明	四	一	一九九
明	四	一	一九九
大	三	二	三六六
大	三	二	三六六
大	四	三	二二五

三者カ該不動産ニ付所有權ヲ有スト詐稱シテ異議ノ訴ヲ提起シ其執行ヲ遅延セシメ因リテ債權者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ不法行爲ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノナレハ其損害ヲ賠償スル責ニ任スヘキモノトス
(大正四、四、一三)

○所有權アリト信シテ他人ノ強制執行ニ對シテ異議ノ訴ヲ提信シ執行ヲ遅延セシメタル場合ニ於テ其起訴者カ所有權ヲ有セサルノ故ヲ以テ敗訴シタルトキハ所有權アリト信スルニ付相當ノ理由アルコトヲ證明セサル限リハ過失アリト認ムルヲ相當トス
(大正五、五、二六)

○不法行爲ニ基ク損害カ通常ノ經過ニ於テ不法行爲ヨリ當然生スヘキモノナルトキハ其不法行爲ト損害トノ間ニ因果關係アリト謂ヒ得ヘキモ通常ノ經過ニ於テハ不法行爲ヨリ當然生スヘキモノニ非スシテ不法行爲ノ行ハレタル後ニ至リ獨立シタル他ノ特別事由ノ介在ニ因リ損害ノ生シタルモノナルトキハ其不法行爲ト損害トノ間ニ因果ノ連絡ヲ缺クヲ以テ其不法行爲者ハ其損害ヲ賠償スル責ニ任セサルモノトス
(大正五、六、三〇)

○不法行爲ヲ原因トシテ損害賠償ヲ請求シタル場合ニ於テ故意ニ出テタリトノ原告ノ主張ヲ認ムルヲ得サルモ過失ニ出テタルコトヲ認メ得ヘ

大	四	三	二二五
大	五	三	六〇四
大	五	三	六二二

キトキハ之ニ因リテ損害賠償ノ請求ヲ是認スルヲ得 (大正五、七、四)
 ○不法行爲ニ因ル損害カ行爲ノ當時豫見セラレ且通常ノ經過ニ於テ其不法行爲ヨリ當然生スヘキモノナルトキハ其不法行爲ト損害トノ間ニハ因果ノ關係アリ其損害カ不法行爲ヨリ直接ニ生シタルト間接ニ生シタルトヲ問ハス不法行爲者ハ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス (大正五、一〇、六)

○甲カ稅關貨物取扱人タル乙ノ名義ヲ用キ其業務ニ從事中關稅逋脫ヲ圖リタルトキハ乙ハ朝鮮關稅令並關稅法第八十二條ノ規定ニ從ヒ其責ニ任セサルヘカラス從テ甲カ關稅逋脫ヲ圖ル際若シ官ニ發覺スル場合ニハ貨物取扱名義人タル乙カ其責ニ任スヘキモノナリトノ事ハ當初ヨリ豫見セラレ且當然生スヘキ結果ナルヲ以テ甲ノ關稅逋脫ノ不法行爲ハ直接ニ關稅徵收權ヲ侵害スルト同時ニ間接ニ貨物取扱名義人タル乙ノ財產權ヲ侵害スルモノニシテ其不法行爲ト財產權ニ因ル損害トノ間ニハ因果ノ關係アリ其不法行爲者ハ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス (大正五、一〇、六)

○丙ト甲トノ間ニ甲カ乙ヨリ債權ノ擔保ニ徵シタル漁船漁具ニ付甲カ債權ノ完済ヲ受クル迄ハ丙ニ於テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル爲メ右漁船

大 五 三 六三九

大 五 三 七四九

大 五 三 七四九

漁具(乙ノ占有中ニ在リ)ニ對シテ權利ヲ行使セサルコトヲ契約シタルニ拘ラス丙之ニ違反シテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル爲メ右物件ニ對シ競賣手續ヲ申請シ因テ其競落金ヲ受領シ辨濟ヲ受ケタルトキハ丙ハ甲ニ對シテ違約ノ責ニ任シ甲ノ受ケタル損害ヲ賠償スヘキモノトス (大正五、一〇、三〇)

○天候ハ絶對ニ之ヲ豫測スルコト能ハサルモノニアラス故ニ之ヲ豫測シ得ル場合ナルニ拘ハラズ不注意ニ因リ之ニ氣付カス爲メ損害ヲ生セシメタリトセハ過失ノ責ニ任セサルヲ得サルモノトス (大正六、四、二〇)
 ○不法行爲ノ規定ニ於テ過失ノ有無ヲ定ムヘキ注意ノ程度ハ普通注意ヲ用フル人カ事物ノ狀況ニ應シテ通常爲スヘキ注意ヲ以テ其標準ト爲スヘキモノトス (大正六、五、一八)

○婦人科専門ノ醫師カ子宮癌腫ノ患者ニ對シ子宮摘出ノ手術ヲ施スニ當リ患者ノ腹腔内ニ「ガーゼ」ヲ残留シタル爲メ腸管腹壁癌孔ヲ生スルニ至リタルトキハ「ガーゼ」ヲ残留ノ事實ハ一應該醫師ノ過失ニ基因スルモノト認ムヘク醫師ニシテ過失ノ責任ヲ免レントスルニハ該手術ヲ施スニ當リ現今醫術ノ程度ニ於テ執ルヘキ相當ノ手段方法ニ從ヒテ之ヲ行ヒタルコトヲ立證セサルヘカラス (大正六、七、三一)

大 五 三 八〇〇

大 六 四 三〇〇

大 六 四 四〇〇

大 六 四 七三一

○不法行爲ニ基ク損害賠償請求權ノ發生スル爲ニハ不法行爲ト損害トノ間ニ法律上因果ノ連絡ノ存スルヲ要スルコト勿論ナリ而シテ法律上因果ノ連絡ハ單純ナル條件ノ關係ニアラスシテ當該不法行爲ハ當該損害ニ對シ現實ニ條件ノ關係アリ且該條件ハ其特定ノ場合ノミナラス一般的ニモ亦同種ノ損害ヲ生スヘキ可能性ヲ有スル場合ニ限り之ヲ認ムヘキモノトス故ニ假令當該損害カ當該不法行爲ノ存在ヲ條件トシテ發生シタルトキト雖モ若シ其不法行爲カ一般的ニ觀察シ同一條件ノ下ニ同種ノ結果ヲ發生スヘキ可能性ヲ有セス却テ偶然ノ結果ニ過キサルトキハ當該不法行爲ト結果トノ間ニ法律上因果ノ連絡ノ存スルモノト謂フ能ハサルヲ以テ其不法行爲者ハ其損害ニ付賠償ノ責ニ任セサルモノトス (大正七、一一、一九)

○土地ニ關スル立旨完文賣買文記ノ如キハ何レモ當事者ノ土地ニ關スル權利關係ヲ證明スル目的ヲ以テ作成セラレ其性質流通ヲ目的トスルモノニ非サルカ故ニス如キ文書ヲ偽造シテ他人ニ行使シタル場合ニ其行使ヲ受ケタルモノカ該文書ノ偽造ナルコトヲ覺知シタル場合ニ其行使ヲ以テ之ヲ第三者ニ交付シ依テ之ニ損害ヲ被ラシムルカ如キハ偽造者ヨリ其行使ヲ受ケタルモノノ甲ナルト乙ナルトヲ問ハス曩ノ偽造行使

大
七
五
八
八
六

ノ行爲ヨリ一般的ニ發生シ得ヘキ結果ト認ムルヲ得ス別言スレハ右偽造行使ノ行爲ハ一般的ニ觀察シテ斯ノ如キ結果ヲ發生スヘキ可能性ヲ有スルモノニ非ス故ニ若シ右偽造行使ノ行爲ヲ條件トシテ現實斯ノ如キ結果ヲ發生シタルトスルモ之レ寧ロ他人ノ故意行爲ノ介入ニ因リ其特殊ノ場合ニ限り發生シタル偶然ノ結果ナリト認ムルヲ妥當トス (大正七、一一、一九)

○民法第九十條及第九十一條ハ同法第七百九條ニ對シテハ一ノ特別規定タルヘキモノナレハ占有者ノ取得セル果實若クハ占有物ノ滅失毀損ニ關スル限りハ常ニ前記第九十條第九十一條ニ依リ其賠償責任ノ有無ヲ定メ民法第七百九條ノ規定ヲ適用スヘキ限リニアラサルヲ以テ此二個ノ請求權ハ競合スヘキモノニアラス (大正八、六、一三)

○官吏カ滯納税金徵收ノ爲ニスル公賣處分ヲ遂行スルニ當リ其行爲カ手續法規ニ違反シ甚失當タルヲ免レサルトキト雖此一事ニ因リ直ニ官吏カ名ヲ職務執行ニ藉リテ爲シタル不法行爲ナリト論結セサルヘカラサルモノニ非スシテ依然職務執行ニ屬スルモノト認ムルハ事實裁判所ノ職權當行ニ外ナラサルモノトス (大正一〇、八、二六)

○官吏ハ國家ニ對シ服從的關係ヲ有シ其機械トナリテ職務ヲ執行スルモ

大
七
五
八
八
六

大
八
六
四
二
九

大
一〇
八
二
六

ノニシテ直接外部ニ對シ法律關係ニ立ツモノニ非サルヲ以テ職務執行ノ結果第三者ニ損害ヲ加フルコトアルモ直接自己ニ於テ責任ヲ負フヘキモノニ非ス (大正一〇、八、二六)

○面吏員カ其ノ職務ヲ執行スルニ當リ爲スヘキ相當ノ注意ヲ怠リタル結果面ニ對シテ損害ヲ加ヘタルトキト雖事公法關係ニ屬シ現行法上面吏員ニ損害賠償ノ責任ヲ負ハシムヘキ規定存セサルヲ以テ面ノ右吏員ニ對スル損害賠償ノ請求ハ之ヲ認容スルニ由ナキモノトス (大正一二、八、二八)

○信託契約ニ因リ物ヲ保管セル債務者カ不法ニ之ヲ處分シタル場合ニ債權者カ債務者ニ對スル不法行爲ヲ原因トシテ損害賠償ヲ求ムルト將タ民法第五百四十五條第三項ニ依リ不履行ニ因ル損害賠償ヲ求ムルトハ其自由ナリ (大正一〇、一一、二三)

○執達吏カ債權者ノ委任ニ基キ債務者ノ有體動産ニ對シ差押ヲ實行スルニ當リテハ其職權ヲ以テ爲スヘク敢テ債權者ノ指示ヲ受クヘキモノニ非サルヲ以テ執達吏カ誤テ第三者所有ノ有體動産ヲ差押ヘタル場合ニ債權者ニ不法行爲ノ責任アリト爲スニハ債權者ノ故意又ハ過失ニ因リ執達吏ヲシテ斯ル差押ヲ實行セシメタル事實存在セサルヘカラス

大 一〇 八 二六八

大 三 一〇 二五四

大 一〇 八 四五五

(大正一一、一、二七)

○不法行爲ニ因ル損害額ヲ算定スル場合ニ於テハ必スシモ不法行爲當時ヲ標準ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス取引ノ通念上不法行爲ニ基因スル損害ト認ムルコトヲ得ル以上ハ不法行爲以後ノ時期ヲ標準トシテ損害額ヲ算定シ其賠償ヲ求ムルコトヲ得即不法行爲ニ因リテ侵害セラレタル財産權ノ價格カ該行爲以後ニ至リ昂騰シタル場合ニ於テモ取引ノ通念上賠償權利者ハ其機會ヲ利用シテ利益ヲ得ヘカリシモノト認ムルヲ相當トスルカ故ニ昂騰シタル時ノ價格ヲ標準トシテ算定シタル損害ハ取引ノ通念上不法行爲ニ基因スル損害ト認ムルコトヲ得ヘシ (大正一一、三、一〇)

○自己ノ不動産ヲ賣却シタル賣主カ擅ニ之ヲ他人ニ賣却シ其者ノ爲ニ所有權移轉登記ヲ了シタルトキハ後ノ買主ハ完全ナル所有權ヲ取得スヘク之ト同時ニ前買主ニ對スル所有權移轉ノ效果ヲ滅却セシムルニ至ルヘシ如上賣主ノ第二次ノ賣却行爲ハ前買主ノ所有權ヲ侵害スル不法行爲ニシテ賣主ハ之カ爲前買主ニ生シタル損害ヲ賠償スル責務アリ從テ前買主ハ之ヲ賠償セシムル物權ノ請求權ヲ取得スヘシ如上第二次ノ賣買ニ因ル所有權移轉登記ノ行ハレタル場合ニ於テ賣主カ所有權ヲ回復

大 二 九 九

大 二 九 七三

シテ前買主ニ完全ナル給付ヲ爲シ得サル場合ニ在テハ前買主ハ契約上ノ債務不履行若クハ履行不能ヲ原因トシテ損害賠償ヲ請求シ得ヘク又賣主カ所有權ヲ回復シテ前買主ニ完全ナル給付ヲ爲シ得ル場合ニハ契約上ノ債務履行ヲ請求シ得ヘシ此等債權的請求權ハ前示不法行爲ニ因ル物權的請求權ト競合スルモノニシテ其中一個ノ請求權ノ辨濟ニ因リ他ノ請求權ハ消滅スルモノトス (大正一一、五、二)

○賣主カ買主ニ對シ賣買ノ目的物タル動産ノ引取方ヲ通知セシヨリ買主カ賣主ト豫メ期日ヲ打合せ之カ引渡ヲ受クル爲代理人ヲ派遣シタルニ同代理人カ買主ニ對シ無事引渡ヲ受ケタル旨報告ヲ爲シタルカ如キ場合ニ在テリハ買主ハ一應其言ヲ信シ右賣買ノ目的物ニ付完全ニ權利ヲ取得シタルモノト確信スルニ於テ間然スル所ナシトスルモ他ニ同一賣主ヨリ同一目的物ヲ買受ケ其引渡ヲ受ケタリトシ自己ノ權利ト相容レサル權利ヲ主張スル者顯ハレタルトキハ斯ル場合ニハ更ニ相當ノ手段方法ニ依リ其代理人ノ引渡ヲ受ケタリトノ報告カ眞實ナリヤ否ヤニ付相當ノ調査ヲ爲シタル後訴ヲ提起シ假處分命令ノ申請ヲ爲スヲ以テ通常人ノ用フル注意ヲ施シタルモノト爲スヘク代理人ノ當初ノ報告ノミニ信賴シ直ニ訴ヲ提起シ假處分ノ申請ヲ爲スカ如キハ其注意ニ缺クル

大
二
九
一
五
七

所アルモノト謂ハサルヘカラス (大正一一、六、五)

○土地調査令ニ依リ所有申告ヲ爲スニ當リ申告者カ從來所有權ヲ有セサルニ拘ラス自己名義ノ査定ヲ得ンコトヲ企圖シテ虛偽ノ申告ヲ爲シ偶々申告者ノ所有ト査定セララルコトアルモ之ヲ以テ直ニ不法行爲ニ因リ眞實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタルモノト爲スヘキニ非ス只査定カ申告者ノ不法行爲ニ原因スルコト判然タル場合ニ於テノミ査定ト不法行爲トノ間ニ因果關係ヲ惹起シ眞實ノ所有者ノ權利ヲ侵害シタリトシ其ノ不法行爲ニ因ル損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノト爲スヲ妥當トス (大正一一、八、二八)

○他人ノ欺罔行爲ニ因リテ錯誤ニ陥リ或一定ノ物件ヲ交付スヘク決意シテ之ヲ給付シタル時ハ之ニ依リテ生シタル損害ハ其ノ欺罔行爲ニ基クモノニシテ其ノ決意後給付ヲ爲スヘカリシ間ニ於テ介入シタル他人ノ過失行爲ノ如キハ假令該行爲無カリセハ右給付行爲ヲ爲スニ至ラスシテ損害ヲ未然ニ防止シ得ヘカリシ關係ニ在リシトスルモ特ニ之カ爲其ノ損害ノ發生ヲ容易ナラシメ又ハ其ノ損害ヲ増大ナラシメタル等ノ事情ナキ限右損害ノ原因トナルモノニアラス (大正一三、四、四)

○質權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ質物ヲ占有スルコトヲ要スルモ

大
三
一
〇
一
五
二

大
三
一
〇
二
四
九

大
三
一
二
三
六

ノナルカ故ニ故意又ハ過失ニ因リ其ノ物ヲ第三者ニ引渡シ以テ質權設定者ニ之ヲ返還スルコト能ハサルヘキ状態ニ至ラシメ其ノ物ニ付質權設定者ノ有スル法律上ノ利益ヲ喪失セシメタルトキハ質權設定者ハ質權ノ消滅ヲ請求シ得ヘキハ勿論之ニ因リテ被リタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス (大正一四、三、三)

○共有物ニ付加ヘラレタル不法行爲ニ因ル損害賠償請求權ト雖別段ノ意思表示ナキトキハ各共有者ハ其ノ持分ニ應スル割合ヲ以テ其ノ權利ヲ有シ且之ヲ行使シ得ルニ過キサレモノトス (大正一四、七、二四)

○夫カ妻ニ對シ暴行ヲ爲シテ傷害シ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ加ヘタル場合ニ於テハ妻ハ之ヲ事由トシテ夫ニ對シ離婚ノ請求ヲ爲スト同時ニ其ノ傷害ニ因ル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論其ノ結果裁判上離婚ト爲リタルトキハ仍妻タル地位ノ喪失ニ因ル損害ノ賠償ヲモ請求スルコトヲ得ルモノトス (大正一五、八、二七)

○正當ノ權原ナク他人所有ノ建造物ヲ使用スルハ所有者ノ權利行使ヲ妨クルニ至ルヲ通例トスルカ故ニ特別ノ事情存セサル限り所有者ハ之ニ因リテ損害ヲ被リタルモノト認メサルヘカラス (昭和三、五、一五)

○故意過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シ之ニ因リテ損害ヲ生シタル事實ア

昭	大	大	大
三	一五	一四	一四
一五	一三	三	三
一四一	二二三	二六九	三九

ル以上ハ爾後其ノ侵害行爲ノ性質上之ヲ廢止セサル限り自然ノ趨勢ニ於テ損害カ繼續シテ發生シ漸次推積追加スル場合ト雖其ノ損害賠償請求權ノ消滅時効ハ民法第七百二十四條ニ依リ被害者カ最初ニ損害及加害者ヲ知リタル時ヨリ其ノ損害ノ全部ノ賠償請求權ニ付進行スルモノト解スルヲ相當トシ加害者カ加害行爲ヲ廢止セサルカ爲ニ損害ノ繼續シテ發生スル間時々各別ニ進行スルモノト解スヘキニ非ス (昭和三、二、一七)

○不動産登記令ニ登記ノ定アル不動産上ノ權利ノ取得ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノニシテ第三者ノ意思ノ善惡ハ之ヲ問ハサルモノナルカ故ニ或不動産上ノ權利カ甲ヨリ乙ニ移轉シタルモ其ノ登記ナキ間ニ再ヒ甲ヨリ丙ニ對シ同一ノ權利ヲ讓渡スル合意ヲ爲シ先ツ之カ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ乙ハ丙ニ對シ自己ノ權利取得ヲ對抗スルコトヲ得サルハ勿論丙ノ右行爲ヲ以テ乙ノ權利ヲ侵害スルモノトシテ不法行爲ノ責ヲ負ハシムルコトヲ得サルモノトス (昭和三、五、二二)

○身元保證契約ニ於テ賠償額ヲ明示セサル場合例ヘハ被用者カ使用者ニ損害ヲ被ムラシメタル場合ニ身元保證人ニ於テ賠償ヲ爲ス旨單純ナル

昭	昭
三	三
一五	一五
一五	二三

契約ヲ締結シタル場合ニハ特別ノ事情ナキ限り身元保證人ハ相當ノ範圍内ニ於テ賠償ヲ爲ス約旨ナリト解スルヲ相當トス又一切ノ責任ヲ負擔スト契約シタル場合ニ於テモ一切ノ文字ハ必スシモ無限ヲ意味スルモノニ非ス或ハ損害ノ種類ヲ問ハス責任ヲ負フ趣旨ニ用キラルコトアリ或ハ常套語トシテ不用意ニ使用セラルル場合アルカ故ニ特殊ノ事情ナキトキハ前者ト同シク相當ノ範圍内ニ於ケル賠償ヲ約シタル趣旨ト解スヘキモノトス (昭和四、六、四)

○相當ナル賠償範圍ハ使用者ノ職業被用者ノ執ルヘキ業務身元保證人ト被用者トノ關係及被用者ノ契約當時ニ於ケル資産狀態等ヲ斟酌シ箇々ノ具體的事件ニ付合理的價值判斷ノ下ニ決スヘキモノトス (昭和四、六、四)

第七百十一條

○民法第七百十一條ノ規定ハ他人ノ故意若クハ過失ニ因リ人ノ生命カ殞セラレタル場合ニ於テ被害者ノ死亡ハ往々其父母配偶者子等ニ對シ財産上若クハ財産外ノ損害ヲ加フルコトアルカ故ニ加害者ハ是等ノ者ノ各自ニ對シ加ヘタル損害ヲ賠償スヘキ旨ヲ定メタル法意ト解スルヲ相當トス故ニ是等ノ者ハ加害者ニ對シ各自獨立シテ被害者ノ死亡ニ因リ

昭	四	一六	二二
昭	四	一六	二二

生シタル財産上ノ損害ノ賠償ハ勿論其死亡ニ因リ悲哀ノ爲メ生スル損害ノ賠償所謂慰藉料ノ請求ヲ爲シ得ヘキハ當然ナリ (大正一〇、七、五)

第七百十五條

○民法第七百十五條ハ同第七百九條ニ牽聯シ被用者ニ責任アル場合ハ使用者モ亦自己ノ不注意即チ被用者選任及其事業ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲ササルコトニ因リ其責任ヲ負フヘキコトヲ規定シタルモノニシテ被用者ノ不法行爲ニ對シ代テ其責任ニ任スヘキコトヲ規定シタル法意ニアラス (大正六、四、二〇)

○民法第七百十五條ハ被用者カ使用者ノ命令又ハ委任シタル事業ノ執行行爲自體若クハ其執行ニ必要ナル行爲ニ因リ第三者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ同條但書ノ場合ヲ除ク外一般ニ使用者ニ於テ被用者ノ選任及其事業ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲ササリシモノト看做シ之カ損害賠償ノ責任ニ任スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ使用者カ被用者ノ選任ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ立證シ得タリトスルモ其事業ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ立證シ能ハサルトキハ同條本文ノ規定ニ依リ當然其責任ニ任セサルヲ得サルモノトス (大正六、四、二〇)

○如上ノ場合ニ於テ被用者ノ過失行爲カ被害者ノ代理人ノ行爲ニ因リ誘

大	一〇	八	二三七
大	六	四	二九六
大	六	四	二九六
大	六	四	二九六

發セラレ又ハ使用者カ被用者ノ事業執行ニ對スル直接監督ノ不能ナルコトヲ熟知シ居タリトスルモ此等ハ使用者カ自己ノ責任ヲ免ルル辭柄ト爲スヲ得サルモノトス (大正六、四、二〇)

○自動自轉車ノ修理ヲ業トスルモノカ修理ノ爲他人ヨリ自動自轉車ノ寄託ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ使用人ノ過失ニ因リ該物件ヲ燒失セシメ返還不能ト爲リタルトキハ斯カル使用人ヲ使役スルコトカ受託者ノ過失ニ歸スルヲ以テ返還不能ハ結局受託者ノ過失ニ因リ生シタルモノトス (大正一四、八、二二)

○民法第七百十五條ノ法意ハ苟モ被用者カ第三者ニ加ヘタル損害ニシテ使用者ノ事業執行ニ付生セシメタルモノナル以上ハ使用者ハ其ノ賠償ノ責ニ任スヘク其ノ事業ノ適法ノモノナルト否ト又使用者被用者間ノ使用原因タル雇傭關係ノ法律上有效ノモノナルト否トヲ問ハサルモトス (大正一四、二二、一一)

○金融組合理事ノ使用人ニ對スル監督ノ怠慢カ使用人ノ犯行ニ機會ヲ與ヘタリトスルモ之ヲ以テ直ニ使用人ノ犯行ト共同不法行爲ノ關係ニ立ツモノト謂フヲ得ス (大正一五、四、一六)

○監督義務ヲ怠リタル爲ニ使用人ノ不法行爲ニ因ル損害ヲ賠償シタル者

大 六
四 二九九

大 一四
二 二八九

大 一四
二 四七三

大 一五
一 三 五八

ハ賠償後ノ法定利息ニ付テ亦使用人及其ノ身元保證人ニ對シ償還ヲ請求スルコトヲ得 (大正一五、四、一六)

第七百十七條

○民法第七百十七條ニ規定セル損害賠償ハ單ニ損害ヲ生セシメタル原因カ工作物ノ設置若クハ保存ニ關シ瑕疵アリシカ爲メナルトキハ其責任ヲ生スルモノニシテ其損害ノ原因タル事實ノ發生シタル時機カ平時ナルト事變ニ際シタルトヲ問ハサルモノトス (大正五、七、二八)

第七百十九條

○民法第七百十九條第一項後段ニ所謂共同行爲者トハ權利侵害ヲ爲スノ危険アル行爲ヲ爲シタル二人以上ノ者ノ義ナリトス (昭和二、二、一九)

○身元保證契約ハ使用者ニ監督義務ヲ免脱スル趣旨ニ於テ締結セラルルモノニ非ス使用者ニ於テモ相當ノ監督ヲナスヘキコトヲ條件ト爲シタルモノト推認スヘキモノナルニ依リ使用者ニ監督上ノ過失アリタルトキハ賠償額ヲ算定スルニ當リ之ヲ斟酌スルコトヲ得 (昭和四、六、四)

第七百二十二條

○民法第七百二十二條第二項ノ規定ハ加害者ノ不法行爲ニ因リテ損害ノ發生シタルトキ被害者ニモ過失アリ之ニ因リ加害者ヲシテ不法行爲ヲ

大 一五
一 三 五九

大 五
三 六六四

昭 二
二 四 四

昭 四
一 六 二三

爲スニ至ラシメ若クハ加害者ノ不法行為ヲ助成シ又ハ加害者ノ不法行為ト相俟テ損害ヲ發生セシメ若クハ損害ヲ増大ナラシメタルカ如キ加害者ノ賠償責任ヲ宥恕スヘキ事情ノ存スル場合ニ於テ裁判所ヲシテ損害賠償ノ額ヲ減殺スルコトヲ得セシムル旨趣ニ外ナラスト解スヘキモノトス從テ被害者ノ過失ト加害者ノ不法行為若クハ其不法行為ニ因リテ生シタル損害トノ間ニ密接ナル因果關係ノ存スルコトヲ要ス (大正六、一二、七)

○或事業ノ爲ニ他人ヲ使用スル者カ被用者ノ監督ニ付特ニ第三者ヲ雇使スルトキハ其ノ者ノ監督ノ過失懈怠ハ使用者ノ過失懈怠トシテ法律上其ノ效ヲ生スヘキモノトス (大正一五、五、二五)

○民法第七百二十二條第二項ノ規定ハ被害者ニ過失アリテ加害者ノ不法行為ヲ助成シ又ハ加害者ノ不法行為ト相俟テ損害ヲ發生セシメタルカ如キ場合ニ於テ加害者ノ責任ヲ宥恕スヘキ事情ノ存スルトキ之ヲ適用スヘキ趣旨ノモノトス (昭和四、七、二)

第七百二十三條

○民法第七百二十三條ハ名譽毀損ニ對スル一ノ損害賠償タルニ外ナラサルモノトス (大正三、九、一四)

大	昭	大	大
三	四	一五	六
刑	一六	一三	四
二	一七〇	一一三	一〇三
三六			

第七百二十四條

○株式會社ノ取締役カ不法行為ニ因リ會社ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其損害賠償ノ請求權カ民法第七百二十四條ニ規定スル三年ノ時効ニ依リテ消滅セリトスルニハ會社ノ法定代理人カ其損害及加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサリシ事實ノ存スルコトヲ要スルハ勿論其法定代理人ハ損害賠償ノ請求權ヲ行使スル權限ヲ有スル者ナルコトヲ要ス (大正八、五、二)

○株式會社ノ監査役ハ特別ノ規定アル場合ノ外常ニ取締役ト會社トノ利益相反スル行為ニ付當然會社ノ法定代理人タルノ權限ヲ有スルモノニ非ス其會社ヲ代表シ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スル場合ト雖商法第七百七十八條第百八十五條ニ規定スルカ如ク株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シ而カモ他ニ代表者ヲ決議セサル場合又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ監査役ニ請求シ而カモ他ニ代表者ヲ指定セサル場合ニ於テ始メテ法定代理人トシテ會社ヲ代表スルノ權限ヲ有スルニ至ルモノニシテ其決議又ハ請求ナキ以上ハ會社ヲ代表スル權限ナク從テ取締役ノ會社ニ對スル不法行為ニ因ル損害事實ヲ知リタリトスルモ會社ノ法定代理人カ之

大
八
六
二九九

ヲ知リタル場合ニ該當セサルヲ以テ其監査役ノ知リタル時ヲ以テ會社ニ對スル時効期間ノ進行ヲ始ムルモノト爲スヘキニ非ス (大正八、五、二)

○不法行爲ニ因ル損害賠償請求權者カ不法行爲及其ノ加害者ヲ知リタル時期ハ時効ヲ援用スル者ニ於テ立證スルコトヲ要ス (大正一五、四、二七)

○偽造手形ニ因ル詐欺ノ被害者カ手形金請求ノ訴訟ニ於テ偽造ノ抗辯ヲ爭ヒタルトキハ他ノ事情ノ立證ナキ限り偽造ヲ認メタル判決ノ確定前ニ於テハ未タ偽造ノ事實ヲ知リタルモノト謂フヲ得ス (大正一五、四、二七)

第四編 親族

第一章 總則

○系譜ハ其一族ノ系統ヲ明ニスルモノナレハ漫ニ改變スヘキモノニアラサルモ所持者カ擅ニ改變シタル場合ニ於テ一般族人ハ勿論宗孫ト雖之カ復舊ヲ請求スルノ權利ナシ (明治四五、七、三〇)

第七百二十五條

○刑法ノ適用上朝鮮人間ニ於ケル親族ノ範圍ハ朝鮮ニ於ケル一般慣習ニ依ルヘキモノニシテ民法第七百二十五條以下ノ規定ニ依リテ定ムヘキ

大 八 六 三〇〇

大 一五 一三 八八

大 一五 一三 八八

明 四五 一 四九九

モノニ非ス (大正一三、一二、四)

○朝鮮ノ一般慣習ニ依レハ其ノ相互間ノ誼禮ヲ本トシ親族ト汎稱スル本宗及異姓ノ有服親、祖免親及無服親ノ中特ニ血族ニ於テハ有服ノ近親ノミヲ以テ法令上親族ノ範圍トナシタルモノトス (大正一三、一二、四)

○朝鮮ニ於テ庶子ト其ノ生母ノ實父トハ相互ニ血族ニシテ其ノ生母ノ實父ハ庶子ノ外祖父ニ該リ兩者間親族關係ノ存スルコトハ顯著ナル慣習ナリトス (昭和二、一〇、二五)

○庶子カ一旦相續ニ因リ戸主ト爲リタルトキハ其ノ生母ノ實父トノ間ニ存セシ親族關係消滅ストノ慣習ハ存在セス (昭和二、一〇、二五)

第七百三十條

○養母カ其家ヲ去リタルトキハ養母ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ムハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ (大正六、六、一五)

第二章 戸主及ヒ家族

第一節 總則

第七百三十二條

○朝鮮ニ於テ次男以下ノ男子カ分家ヲ爲シ一家ヲ創立スルコトアルハ慣

大 一三 二 四三

大 一三 二 四三

昭 二 二四 三五

昭 二 二四 三五

大 六 四 五三

習上認ムル所ナリ而シテ一旦分家ヲ爲シタル以上ハ分家ノ戸主及其ノ家族ハ本家ノ家族ト謂フヲ得サルモノトス (大正六、一、一六)

○從來家族トシテ戸籍ニ登載セラレタル舊戸主ノ妻ハ舊戸主ノ死亡ニ因リ當然新戸主ノ家族トナル (大正一五、一〇、五)

○妾ハ現時ニ於テ之ヲ家族トシテ認メサルハ慣習上顯著ナルモ從前ニ於テハ之ヲ妻ニ準シテ夫ノ家族トシ民籍法上亦其ノ入籍ヲ認メタリ而シテ慣習上妾カ家族トシテノ地位ヲ認メラレサルニ及ヒ大正四年八月七日官通牒第二四〇號ヲ以テ民籍上爾後妾ノ入籍申告ヲ受理セサルニ至リタルモ從來既ニ家族トシテ入籍シアリタル者ハ其ノ儘家族トシテ其ノ家籍ニ留マラシメタルヲ以テ叙上ノ關係ニ於テ妾タリシモノニシテ現時尙夫家ノ家族トシテ家籍ヲ有スル者アルハ裁判所ニ顯著ナル事實ニ屬ス (大正一四、六、一六)

第七百三十八條

○朝鮮人間ニ於テ戸主又ハ家族タル男カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ其ノ妻又ハ家ヲ同ウスル子女ハ當然之ニ隨ヒテ其ノ養家ニ入ルハ朝鮮古來ノ慣習ナリトス (大正二、九、二一)

○朝鮮ニ於テ宗家戸主タル者ニ相續人タルヘキ男子ナキ場合其ノ弟又ハ

姪ハ當然宗家ノ相續人ト爲ル慣習ナシ從テ宗家戸主ノ弟カ養子ト爲リテ他家ニ入ル場合ニ於テ其ノ男ハ縱令宗家ニ嗣子ナキト雖已ニ宗家ノ養子ト爲リタルモノニ非サル限リハ父ニ隨ヒテ父ノ養家ニ入ルニ何等ノ支障ナキモノトス (大正二、九、二一)

第七百四十四條

○朝鮮ニ於テ胎兒ト雖出生シ且男子ナルトキハ胎兒タリシ時ニ遡リテ既ニ生レタルモノト看做シ相續權ヲ有スル慣習アリ (大正五、四、一四)

○長男ハ收養サレタル者ト否トニ論ナク同本者間ニ於テ支家ヨリ本家ノ立後(相續)ヲ爲ス場合以外ニ他家ノ養子タルコトヲ得サルハ朝鮮ノ慣習ナリ (大正五、一〇、六)

○分家ノ長子ハ宗家相續ノ場合ニ宗家ノ養子トナリ其家ニ入ルコトヲ得ル慣習アルモ長子カ分家タル自己ノ父ノ兄ノ養子トナリ其家ニ入ルコトヲ得ル慣習ナシ (大正六、三、三〇)

○長男ハ宗家又ハ本家ノ相續ヲ爲ス場合ノ外他家ノ養子トナルヲ許ササルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス (大正一一、一二、一五)

○朝鮮ニ於テハ長男ハ奉祀者ト稱シ本家相續ノ爲本家ノ養子ト爲ル場合ノ外如何ナル理由ノ存スルモ養子縁組其ノ他ノ事由ニ因リ他家ニ入ル

大	大	大	大	大	大	大	大
二	六	五	五	三	二	一	六
九	四	三	三	〇	〇	三	四
五	二	七	五	七	七	七	五
三	四	五	七	七	七	七	五

族ハ本家ノ家族ト謂フヲ得サルモノトス (大正六、一、一六)

第七百四十八條

○一戸内ニ家族同居スル場合ニ於テ戸主ト其他ノ者トノ間孰レニ屬スルカ分明ナラサル物件ハ戸主ノ所有ト推定スヘキコトハ朝鮮ニ於テモ然リトス (明治四三、一一、二八)

○父子住所ヲ同クスル場合ニ於テ其住所ニ在ル動産ノ所有權カ父子何レニ屬スルヤ分明ナラサルトキ單ニ父子タル關係上父ノ財産ナリト推定スルヲ得ス (大正二、六、二七)

○朝鮮人間ニ於テモ戸主及家族カ住所ヲ同フスル場合ニ於テ其住所ニ在ル動産ノ所有權カ何レニ屬スルヤ分明ナラサルトキハ一應戸主ノ財産ナリト推定スルヲ相當トス (大正六、七、三一)

○朝鮮ニ於テ戸主タル父ト同居スル子カ未タ獨立ノ生計ヲ立テサルモ相當ノ年齢ニ達シタル場合ニ其所有財産ニ對シ父ニ於テ管理收益ヲ爲ス權利ヲ有ストノ慣習ハ存セス從テ如上ノ場合ニ子ノ債務者カ父ニ對シテ爲シタル辨濟ハ子ニ對シテ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有セサルモノトス (大正七、六、二八)

第七百四十九條

○朝鮮ニ於テハ戸主カ家族ヲ離籍スルコトハ慣習法ノ認メサル處ナリ (大正一五、一〇、五)

第三節 戸主權ノ喪失

第七百五十二條

○幼學ナルモノハ隱居ノ意義ヲ有スルモノニアラス (大正二、九、二三)

○朝鮮ニ於テ戸主カ本家ヲ去リテ分家ノ戸主トナル慣習ナシ (大正五、八、一八)

○朝鮮ニ於テハ戸主カ隱居ヲ爲シテ其家ヲ去リ一家ヲ創立シ若クハ分家ヲ爲シテ其戸主ト爲ル慣習ノ存スルコトナシ (大正九、六、二五)

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

○舊韓國開國五百三年六月議案ハ寡婦再嫁ノ禁ヲ解キタルニ過キスシテ從來寡婦ニシテ他人ノ妾トナリ同棲シタルニ過キサル者カ同議案ノ發布ニ依リ當然妻ノ身分ヲ取得スヘキコトヲ規定シタル趣旨ニアラス (大正六、五、三一)

大	一五
大	二
大	三
大	四
大	五
大	六
大	七
大	八
大	九
大	一〇
大	一一
大	一二
大	一三
大	一四
大	一五
大	一六
大	一七
大	一八
大	一九
大	二〇
大	二一
大	二二
大	二三
大	二四
大	二五
大	二六
大	二七
大	二八
大	二九
大	三〇
大	三一
大	三二
大	三三
大	三四
大	三五
大	三六
大	三七
大	三八
大	三九
大	四〇
大	四一
大	四二
大	四三
大	四四
大	四五
大	四六
大	四七
大	四八
大	四九
大	五〇
大	五一
大	五二
大	五三
大	五四
大	五五
大	五六
大	五七
大	五八
大	五九
大	六〇
大	六一
大	六二
大	六三
大	六四
大	六五
大	六六
大	六七
大	六八
大	六九
大	七〇
大	七一
大	七二
大	七三
大	七四
大	七五
大	七六
大	七七
大	七八
大	七九
大	八〇
大	八一
大	八二
大	八三
大	八四
大	八五
大	八六
大	八七
大	八八
大	八九
大	九〇
大	九一
大	九二
大	九三
大	九四
大	九五
大	九六
大	九七
大	九八
大	九九
大	一〇〇

大	一〇一
大	一〇二
大	一〇三
大	一〇四
大	一〇五
大	一〇六
大	一〇七
大	一〇八
大	一〇九
大	一一〇
大	一一一
大	一一二
大	一一三
大	一一四
大	一一五
大	一一六
大	一一七
大	一一八
大	一一九
大	一二〇
大	一二一
大	一二二
大	一二三
大	一二四
大	一二五
大	一二六
大	一二七
大	一二八
大	一二九
大	一三〇
大	一三一
大	一三二
大	一三三
大	一三四
大	一三五
大	一三六
大	一三七
大	一三八
大	一三九
大	一四〇
大	一四一
大	一四二
大	一四三
大	一四四
大	一四五
大	一四六
大	一四七
大	一四八
大	一四九
大	一五〇
大	一五一
大	一五二
大	一五三
大	一五四
大	一五五
大	一五六
大	一五七
大	一五八
大	一五九
大	一六〇
大	一六一
大	一六二
大	一六三
大	一六四
大	一六五
大	一六六
大	一六七
大	一六八
大	一六九
大	一七〇
大	一七一
大	一七二
大	一七三
大	一七四
大	一七五
大	一七六
大	一七七
大	一七八
大	一七九
大	一八〇
大	一八一
大	一八二
大	一八三
大	一八四
大	一八五
大	一八六
大	一八七
大	一八八
大	一八九
大	一九〇
大	一九一
大	一九二
大	一九三
大	一九四
大	一九五
大	一九六
大	一九七
大	一九八
大	一九九
大	二〇〇

○妾ハ現時ニ於テ之ヲ家族トシテ認メサルハ慣習上顯著ナルモ從前ニ於テハ之ヲ妻ニ準シテ夫ノ家族トシ民籍法上亦其ノ入籍ヲ認メタリ而シテ慣習上妾カ家族トシテノ地位ヲ認メラレサルニ及ヒ大正四年八月七日官通牒第二四〇號ヲ以テ民籍上爾後妾ノ入籍申告ヲ受理セサルニ至リタルモ從來既ニ家族トシテ入籍シアリタル者ハ其ノ儘家族トシテ其ノ家籍ニ留マラシメタルヲ以テ敍上ノ關係ニ於テ妾タリシモノニシテ現時尙夫家ノ家族トシテ家籍ヲ有スル者アルハ裁判所ニ顯著ナル事實ニ屬ス (大正一四、六、一六)

第七百六十五條

○朝鮮人間ニ在リテハ當事者ノ年齢ノ如何ニ拘ハラズ其婚姻ハ有效ナリトス (明治四四、八、二二)

○大正十二年七月一日施行ノ朝鮮民事令第十一條ノ改正以前ニ在リテハ婚姻ハ年齢ニ拘ラス完全ニ成立シタルモノトス (昭和三、一〇、二六)

第七百六十六條

○朝鮮ニ於テハ從來正式ノ婚姻ヲ爲シタル配偶者ノ一人カ其婚姻ノ繼續セル中重テ他ノ男子若クハ女子ト婚姻ヲ爲シタルトキハ犯罪トシテ處罰セラレ其婚姻ハ當然之ヲ無効トセルコト一般ノ慣習ニシテ其離異セ

大	四	二	三五
明	四	刑	一六二
昭	三	一五	三〇九

ラレサル間ハ正當ニ婚姻成立セルモノト爲スヲ得ス (大正一〇、一二、六)

第七百七十二條

○從前朝鮮ニ於テ婚姻ノ成立ニハ當事者ノ意思若クハ之ニ代ルヘキ主婚者タル父又ハ祖父等ノ意思ヲ要件トスルヲ以テ此等ノ意思ナキトキハ縱令公然同棲シタル事實アリトスルモ之ヲ以テ婚姻成立シタルモノト謂フヲ得ス (大正六、四、二七)

第七百七十五條

○從前朝鮮ニ於テ婚姻ノ成立ニハ當事者ノ意思若クハ之ニ代ルヘキ主婚者タル父又ハ祖父等ノ意思ヲ要件トスルヲ以テ此等ノ意思ナキトキハ縱令公然同棲シタル事實アリトスルモ之ヲ以テ婚姻成立シタルモノト謂フヲ得ス (大正六、四、二七)

○婚姻ハ儀式ヲ舉行スルヲ通例トスレトモ其成立要件ニ非ス (大正六、四、二七)

○大典會通吏典外命婦條「封爵從夫職庶孽及再嫁者勿論云々」ノ規定ハ舊韓國時代ニ正當ニ適用セラレタルモノニ非ス (大正六、四、二七)

第二節 婚姻ノ效力

第七百八十九條

大	一〇	八	五〇
大	六	四	三四八
大	六	四	三四八
大	六	四	三四八
大	六	四	三四八

○夫婦カ營業又ハ病氣等ノ如キ正當ノ事由ニ基キ一時別居スルコトヲ約スルハ必スシモ公ノ秩序ニ反スルモノニアラスシテ有效ナリト雖トモ其別居ニ同意シタルモノハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ルハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス (大正七、七、五)

○妻ハ夫ト同居スル義務アリト雖モ是アルカ爲ニ不法ナル夫ノ命令ニ服從セサルヘカラサルモノニ非ス本件ハ被告カ其妻ヲ支那地ニ移送シ同人ヲシテ被告ト離婚スルノ餘儀ナキニ至ラシメシコトヲ決意シ附近ノ村落ニ於テ一家ヲ構ヘ同居スヘキ旨申欺キテ同人ヲ其實家ヨリ誘出シ支那營口ニ移送シタリト謂フニ在ルカ故ニ誘拐罪ヲ構成スルヤ論ナシ (大正一〇、三、二四)

第七百九十二條

○夫婦間ノ契約ハ愛情ニ惑溺シ又權威ニ屈服シテ之ヲ爲シ自由ナル意思ヲ以テ締結スルコト尠キカ故ニ夫婦關係存續中ハ夫婦ノ一方ヨリ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲スヲ獨リ條理ニ適スト爲スノミナラス朝鮮ノ慣習ニ於テモ是認スル所トス (大正一〇、三、一八)

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

○朝鮮ニ於テ夫ノ財産ハ毎ニ其妻トノ間ニ共有ナリトノ慣習ナシ (大正二、五、二三)

第二款 法定財産制

第八百七條

○朝鮮ニ於テ妻カ夫ノ生存中自己ノ所持金ヲ以テ土地ヲ買得シ之ヲ其子ニ贈與スルヲ禁シタルモノナシ (明治四五、二、二八)

○朝鮮ニ於テ明治三十一年乃至三十五年頃女子カ妻又ハ妾トシテ夫ト同居スル場合ニ特有財産トシテ不動産ヲ所有スルコトハ異例ノ事實ナリトス (大正五、一〇、三)

○朝鮮ニ於テ妻又ハ妾カ夫ト同居スル場合ニ其何レニ屬スルカ不明ナル財産ハ一應夫ノ所有ニ屬スルモノト推定スヘキモノナルモ之カ爲メニ妻又ハ妾カ夫ト同居中特有財産ヲ有スルコトヲ妨クルモノニ非ス故ニ妻又ハ妾カ夫ト同居中自ラ商業ヲ營ミ依テ得タル利益ヲ以テ不動産ヲ買入レタル事實アリトスレハ該不動産ハ妻又ハ妾ノ所有ニ歸スルモノトス (大正六、二、一六)

第四節 離婚

○朝鮮人間ニ於ケル夫妻ノ關係ハ當事者一方ノ意思ヲ以テ何時タリトモ

大	七	大	二	大	六
刑	五	刑	二	刑	四
八	五	八	二	八	四
九	五	九	二	八	四
四	八	四	〇	〇	〇

自由ニ之ヲ解消シ得ヘク敢テ裁判上離婚ノ請求ヲ必要ト爲ササル慣習存ス (大正元、一二、一三)

○夫妻關係ノ解消ヲ申告スルニ當リテハ夫ノ家ノ戸主ヨリ其申告ヲ爲スヲ以テ足り妾ノ實家ノ戸主又ハ妾ノ連署ヲ必要トスルモノニ非ス (大正一〇、九、二〇)

○朝鮮人間ニ於ケル夫妻ノ關係ハ當事者一方ノ意思表示ニ因リ何時ニテモ自由ニ解消シ得ルモノトス (大正一〇、九、二〇)

○夫妻關係解消ノ意思表示ニ因リ妾ハ妾タル身分ヲ喪失シ當然實家ニ復歸スヘキモノトス (大正一〇、九、二〇)

○朝鮮民事令第十一條第二項協議上ノ離婚ハ之ヲ府尹又ハ面長ニ届出ツルニ因リテ其ノ效力ヲ生ストノ規定ハ當該婚姻ノ成立カ同法施行ノ前ナルト後ナルト將又其ノ婚姻カ戸籍簿ニ記載セラレアルト否トヲ問ハス同法施行後ニ爲ス協議上ノ離婚ニ適用アルモノト解スヘキモノトス (昭和四、五、三)

第二款 裁判上ノ離婚

第八百十三條

○朝鮮人間ニ在テモ夫カ妻ノ實母ヲ毆打シテ負傷セシメタル等ノ行爲ア

リ虐待ヲ加ヘタルトキハ妻ハ之ヲ理由トシテ夫ニ對シテ離婚ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス (大正四、七、六)

○妻カ其夫ノ家ヲ出テタリトノ事實カ爾後夫ト同棲ヲ爲サス再ヒ歸家セサル決意ニ基キタルトキハ惡意ノ遺棄タルヘシト雖其決意ノ認メ得ラレサル場合ニ於テ單ニ出家ノ事實ヲ以テ惡意ノ遺棄ト爲スヘキモノニ非ス (大正六、一〇、二三)

○妻トシテ夫ニ對シ不謹慎ノ行爲アルトキハ其行爲ノ内容如何ニ因リ或ハ離婚ノ原因トナルヘキ場合アルモノトス (大正六、一〇、二三)

○朝鮮人間ニ於テ夫妻ノ一方カ配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待ヲ受ケ又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキハ之ヲ理由トシテ他ノ一方ニ對シ離婚ヲ請求シ得ル慣習ニシテ縱令妻カ姦通ヲ爲シタルトキト雖之ヲ糾スカ爲メニ數時間制縛シテ極度ニ自由ヲ拘束シ且身體ニ傷害ヲ加フル如キハ許スヘカラサル所ナルヲ以テ苟モ斯カル行爲アリタル以上ハ妻ハ之ヲ理由トシテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク斯ノ如キ場合ニ於テ姦通ノ事實有無ノ如キハ之ヲ審査確定スルノ要ナシ (大正一〇、一二、二三)

○朝鮮ニ於テ夫ノ親ノ喪中離婚ヲ許ササル慣習アルコトハ當院之ヲ認メス (大正一〇、一二、二三)

大元	大元	大元	大元
二	八	八	八
八四	二〇	二〇	二〇
	八	八	八
	二〇	二〇	二〇
	二六	二六	二六
	一〇七	一〇七	一〇七

大元	大元	大元	大元
三	四	六	六
二五	四	六	六
	四	六	六
	八七三	八七三	八七三
	八	八	八
	五九七	五九七	五九七

○夫カ妻ニ對シ暴行ヲ爲シテ傷害シ同居ニ堪ヘサル虐待ヲ加ヘタル場合ニ於テハ妻ハ之ヲ事由トシテ夫ニ對シ離婚ノ請求ヲ爲スト同時ニ其ノ傷害ニ因ル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ勿論其ノ結果裁判上離婚ト爲リタルトキハ仍妻タル地位ノ喪失ニ因ル損害ノ賠償ヲモ請求スルコトヲ得ルモノトス (大正一五、八、二七)

○朝鮮人間ニ於ケル現今ノ社會狀態ニ在リテハ蓄妾ノ一事ヲ以テ離婚ヲ求ムル事由ト爲スニ足ラサルモノトス (昭和三、一〇、二六)

第八百十六條

○朝鮮人間ノ離婚ノ訴ハ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得スト爲シタル成文法又ハ慣習法アルコトナシ (大正一〇、二、一五)

第四章 親子

第一節 實子

第一款 嫡出子

○家長タル一人カ多年所在不明ナルトキハ其長子ハ父ノ財産管理者タル資格ニ於テ自己ノ名ヲ以テ侵奪者ニ對シ財産權ノ回復ヲ請求シ得ヘキ

大	昭	大
一〇	三	一五
八	一五	一三
三〇	三二	二三

ハ朝鮮ニ於ケル一般ノ慣習ナリ (明治四四、五、一八)

○親子關係ハ事實關係ナルト同時ニ身分ナル法律關係ナルヲ以テ之カ確認請求ハ無益ノ訴訟ニアラス (明治四四、五、一八)

○父子住所同フスル場合ニ於テ其住所ニ在ル動産ノ所有權カ父子何レニ屬スルヤ分明ナラサルトキ單ニ父子タル關係上父ノ財産ナリト推定スルヲ得ス (大正二、六、二七)

○朝鮮ニ於テ重婚ニ因リ出生シタル男子カ出生後直ニ嫡子ノ待遇ヲ受ケ門中ヲ集メテ之ヲ嫡子トスルコトヲ發表シタリトスルモ之ニ依リ其男子カ嫡子タル身分ヲ取得スル慣習ナク又ハ其重婚ヲ爲シタル其生母カ當然正妻トナル慣習ナシ (大正一〇、二、六)

○親子ノ關係ハ事實關係ナルト同時ニ身分ナル法律關係ニシテ斯カル法律關係ノ確認ヲ求ムル訴即親子關係存在確認ノ訴ハ身分關係ノ民事訴訟ニ屬スルコト明白ナルカ故ニ聽訟期限ノ適用ヲ受クヘキモノトス (大正一一、九、一)

○親子關係存在ノ確認訴訟ニ於ケル權利保護ノ請求權ハ法律關係ノ不確實ナル狀態ノ表現ニ因リ發生スルモノニシテ必スシモ相手方カ親子關係ノ存在ヲ否定スルニ依リ始メテ發生スルモノニ非ス何トナレハ親子

大	大	大	明	明
二	一〇	二	四	四
九	八	二	一	一
三三	五〇	二四	七六	七〇

關係ノ存在ヲ否定セサルモ尙其身分關係ノ不確實ナル状態ニ在ルトキハ之カ救済ヲ求ムル必要存在スレハナリ (大正一一、九、一)

第二款 庶子及ヒ私生子

○或女子カ數人ノ男子ト私通シテ生ミタル子カ何レノ子ナリヤ争アル場合ハ諸般ノ事情ニ依リテ之ヲ決スル外ナク其ノ私通關係ノ永續的ナリヤ一時的ナリヤ又ハ公然ナリヤ隱密ナリヤ等ノ事情ノミニ依リテハ之ヲ何レトモ推定シ得サルコトハ實驗法則上明ナル所ナリ (大正一三、四、一一)

第八百三十二條

○私生子ノ認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス (明治四五、六、二八)

第二節 養子

○死後養子ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ養母カ既ニ他家ニ改嫁シ養家ニ在ラサル場合ニ於テハ養母ノ死亡シタル場合ト同様ニ檢事ヲ以テ相手方トスヘキモノトス (大正一五、二、二六)

○配偶者アル男戸主家督相續人ナクシテ死亡シタル場合ニ於テモ其ノ兄弟行ニ在ル者ヲ次養子ト爲スコトヲ得ヘキハ勿論其ノ次養子ノ選定權ハ第一次ニ配偶者第二次ニ母第三次ニ祖母ニ存スト爲スハ朝鮮ニ於ケ

大 二 九 三二

大 一三 二 五三

明 四五 一 四八六

大 一五 一三 一八

ル慣習ナリトス (大正一一、二、一八)

第一款 縁組ノ要件

○朝鮮ニ於テ成婚ノ長男ノ死亡後其妻カ失行改嫁シタルトキハ其父ハ長男ヲ廢除シ又養子ノ死亡後其妻カ失行改嫁シタルトキハ養父ハ養子ヲ罷養シ養父ナケレハ養家宗會ノ決議ニ依リ養子ヲ罷養シ更ニ他人ヲ養子ト定ムル慣習アルコトナシ (大正二、二、二一)

○大典會通禮典立後條ニ嫡妾俱無子者告官立同宗支子爲後トアリ又其補文ニ私自立後者論罪云々トアルモ右規定ハ實際ニ行ハレス而シテ嫡子ナキ場合ニ庶子アルモ禮斜ヲ受ケスシテ養子ヲ爲スニ妨ナキコトハ庶人タルト宗親國戚タルトヲ問ハス朝鮮一般ノ慣習ナリ (大正二、五、二〇)

○朝鮮人間ニ在テハ戸主タル被相續人ニ其庶出ノ男子アル場合ト雖他ヨリ養子ヲ爲シ且其養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存ス (大正四、一、二九)

○朝鮮人間ニ在リテ戸主タル被相續人ニ庶出ノ男子アル場合ト雖被相續人カ他ヨリ養子ヲ爲シ其養子ハ相續ニ關シ嫡出ノ男子ト同一ノ權利ヲ有スル慣習存在スレトモ(既判例)是レ被相續人カ其生前ニ於テ養子縁組ヲ爲シ若クハ遺言ヲ以テ養子ヲ指定スル場合ニ之ヲ有效トスルモノ

三 一〇 三六

大 二 二 一八

大 二 二 二〇〇

大 四 三 九

ニ過キスシテ被相續人ノ妻若クハ親族等カ被相續人ニ庶出ノ男子アルニ拘ラス被相續人死亡後直ニ他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ被相續人ノ家督ヲ相續セシメ得ル一般慣習ナシ (大正六、一、二七)

○從來一部社會殊ニ名門勢家ノ間ニアリテ庶出ノ男子アルニ拘ラス被相續人死亡後其遺妻等カ直ニ他ヨリ養子ヲ爲シ之ヲシテ家督ヲ相續セシメシカ如キ事例ナキニアラサリシモ如此ハ名門勢家各自ノ一個ノ專擅行爲ニ過キスシテ慣習法タル效力ヲ有セシモノニアラス (大正六、一、二七)

○朝鮮ニ於テ兩班ノ養子縁組ニ付禮斜ヲ受クルコトヲ以テ其要件ト爲シタル慣習ナシ (大正四、二、二六)

○朝鮮ニ於ケル養子縁組ニ付テハ同本同姓ノ者ハ其派系ノ遠近ヲ論セス甥行ハ養子ト爲スヲ得ルモ兄弟行ハ養子ト爲スヲ得サルヲ慣習トス (明治四五、一、二四)

○異姓ノ者ヲ養子(收養子ノ場合ヲ除ク)ト爲スヲ得サルコトハ朝鮮ニ於ケル古來ノ慣習ナリ (大正五、一、二八)

○朝鮮ニ於テハ養子タルモノハ同姓ノ適格者タルコトヲ要シ異姓ノ兒ヲ養育シテ子ト爲ス場合ニハ之ヲ收養子ト稱シ父祖ノ祭祀及ヒ財産ヲ承

大 六 四二〇八

大 六 四二〇八

大 四 三 八〇

大 四五 一四三

大 五 三二〇七〇

繼スヘキ養子ト區別セリ (大正一一、五、五)

○戸主死亡シ其寡婦カ養子ト爲ルコトヲ得ル資格アルモノノ中ヨリ養子ヲ選定スルニ當リテハ寡婦單獨ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘク必スシモ親族會ノ同意ヲ經ルコトヲ要スルモノニアラサルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ從テ縱令其選定ニ際シ開カレタル親族會員中親族會員タルコトヲ得ヘキ資格ヲ有セサルモノアリテ其決議適法ナラサルトキト雖之カ爲メニ選定ノ效力ヲ阻却スルコトナキモノトス (大正六、四、二〇)

○養母カ其家ヲ去リタルトキハ養母ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ムハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリ (大正六、六、一五)

○自己ト養親子關係ナキ者カ不實ノ身分登記ヲ爲シ其關係アルモノノ如ク行動スルニ於テハ親族關係ノ紊亂ヲ來スヲ以テ自己ノ親族權ヲ侵害セラルルモノナレハ自己ハ其者ニ對シ親族關係不存在ノ確認ヲ求ムル利益アリ (大正八、一、二八)

○戸主ノ死亡後其養子ト爲リタル者ハ其養子縁組ト同時ニ當然戸主ト爲ルコトモ亦朝鮮ニ於ケル慣習ナリ (大正六、七、六)

○朝鮮ニ於テハ長子ト雖宗家ノ養子トナルコトヲ得ヘキモノトス (大正五、四、一四)

大 二 九二七〇

大 六 四二七六

大 六 四二七六

大 八 六五八

大 六 六六七

大 五 三五〇七

○長男ハ收養サレタル者ト否トニ論ナク同本者間ニ於テ支家ヨリ本家ノ立後(相續)ヲ爲ス場合以外ニ他家ノ養子タルコトヲ得サルハ朝鮮ノ慣習ナリ (大正五、一〇、六)

○分家ノ長子ハ宗家相續ノ場合ニ宗家ノ養子トナリ其家ニ入ルコトヲ得ル慣習アルモ長子カ分家タル自己ノ父ノ兄ノ養子トナリ其家ニ入ルコトヲ得ル慣習ナシ (大正六、三、三〇)

○長男ハ本家又ハ宗家ノ相續ヲ爲ス場合ノ外他家ノ養子トナルヲ許ササルコトハ朝鮮ニ於ケル慣習ナリトス (大正一一、一二、一五)

○朝鮮ニ於テハ長男ハ奉祀者ト稱シ本家相續ノ爲本家ノ養子ト爲ル場合ノ外如何ナル理由ノ存スルモ養子縁組其ノ他ノ事由ニ因リ他家ニ入ルコトヲ得サルノ慣習存ス (大正一二、七、一〇)

○朝鮮内ノ一地方ニ右慣習ノ行ハレス若ハ之ト異ナル慣習ノ存スルコトナシ (大正一二、七、一〇)

○養子縁組ニ關スル上叙ノ慣習ハ公ノ秩序ニ關スル法規ニ屬スルヲ以テ之ニ適合セサル行爲ハ縱令當事者雙方ノ希望ニ副ヒ門族一同ノ異議ナキトキニ於テモ其ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノトス (大正一二、七、二〇)
○如上不適法ナル養子縁組ハ當然無効ニシテ當事者其ノ他ノ利害關係人

大	五	三	七五
大	六	四	二四五
大	二	九	五三
大	三	一〇	二〇六
大	三	一〇	二〇六
大	三	一〇	二〇六

ハ何時ニテモ之カ無効ヲ主張シ得ヘキモノトス (大正一二、七、一〇)

○分家長男ノ父カ本家ノ養親タルヘキ者ト四等親以上ノ關係アルモノナリトスルモ分家ノ長男ハ本家相續ノ爲養子トナルコトヲ得 (大正一二、一一、一八)

○分家ノ長男カ本家ノ養子トナリ得ルハ其ノ分家長男ノ父カ本家ノ養親タルヘキ者ト實兄弟ノ關係アル場合ニ限ルトノ慣習ハ存在セス (大正一一、一一、一八)

○朝鮮ノ慣習ニ於テハ戸主ノ長男カ結婚シ嗣子ナクシテ死亡シタル場合ニ於テ亡長男ノ爲ニ養子ヲ選定スル權利ハ第一次ニ父タル戸主ニ屬シ戸主死亡セルトキハ順次其ノ寡婦、母、祖母ニ屬シ此レ等ノ者皆在ラサルトキ又ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキ若ハ之ヲ行使スルコト能ハサルトキハ亡長男ノ寡婦ニ屬スルモノトス (大正一三、一二、一五)

○前示ノ場合ニ於テ家統ヲ維持スル爲ニハ亡長男ノ爲ニ其ノ子ノ列ニ在ル血族男子ヲ入養シテ嗣子ト爲スヲ通例トスルモ亡長男ノ嗣子ヲ得ル爲ニ亡長男ト同列ニ在ル血族男子ヲ入養スルコトヲ妨ケス後者ハ所謂次養子ノ制ニシテ其ノ何レノ方法ニ從フヘキカハ亡長男ノ爲ニ養子ヲ爲スコトヲ得ヘキ者ノ任意ニ定メ得ヘキ所トス (大正一三、一二、一五)

大	三	一〇	二〇六
大	三	一〇	二〇六
大	三	一〇	二〇六
大	三	一〇	二〇六
大	三	一〇	二〇六
大	三	一〇	二〇六